クボタトラクタ

取扱説明書

A 155 175 195

F-7305

安全宣言
安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

火気厳禁

燃料（残量）

グロー

バッテリ充電異常

エンジンオイル

水温計

ホーン

方向指示器表示

ヘッドライト（下向）

ヘッドライト（上向）

水平制御

耕深制御

オイルゲージ

電子アップ

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

67955-6252-1

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警 告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注 意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重 要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補 足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明はA-195・RSP135を基本とし，A-195・RSP135と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

〈トラクタの仕様〉

- マイコンモンローマチック付き …… “M仕様”
- マイコンモンローマチックオート付き …… “MA仕様”
- 倍速ターン付き …… “B仕様”
- 油圧無段変速トランスミッション付き
  （Vシフト） …… “Vシフト（F）仕様”
- スーパー倍速・パワーステアリング付き …… “BS仕様”
- 低床タイプ …… “K仕様”
- 後輪トレッド可変タイプ …… “V仕様”

〈ロータリの仕様〉

- ロータリの駆動方式によって …… “サイドドライブ仕様”
  “センタドライブ仕様”
- ロータリのカバーの種類によって
  - 畝立機用長穴付カバー …… “標準仕様”
  - Vカット付カバー …… “STV仕様”
  - マッドレスカバー・畝立機用長穴付カバー … “SC仕様”
  - マッドレスカバー・Vカット付カバー …… “SCV仕様”
- Aフレームなし …… “標準仕様”
- Aフレーム付き（スーパージョイント付き） … “S仕様”
- 後２輪付き …… “B仕様” （標準仕様）
- 延長カバー付き・後２輪なし（スタンド付き） “Y仕様”
- 延長カバー付き・後２輪付き …… “YB仕様”

目　次

⚠安全に作業するために …… ⚠-1

サービスと保証について …… 1

小型特殊自動車について …… 2

運転に必要な装置の取扱い …… 3

スイッチとメータの取扱い……3
運転装置の取扱い……5
作業機昇降装置の取扱い……11
モンローマチック【M仕様】・
　モンローマチックオート【MA仕様】の取扱い …13
三点リンク装置の取扱い(P仕様：一般作業機用)…17
輪距の調整……18

上手な運転のしかた …… 20

エンジンの始動と停止……20
ならし運転と暖機運転……21
バッテリあがりの処置……22
走行運転のしかた……22
パワーステアリングの取扱い上の注意【BS仕様】……26
安全フレームとシートベルトについて【K仕様は除く】……26

ロータリ装置について …… 28

耕うん爪の取付け方……28
ロータリの調整……30
逆転PTOの使用方法……37
マッドレスロータリ【SC･SCV仕様】の上手な使い方……38
ロータリの着脱のしかた……38
ロータリ耕うん法……44
ロータリ畝立て作業……45

トラクタ使用前の点検について(日常点検) …… 46

トラクタの簡単な手入れと処置 …… 47

定期点検箇所一覧表……47
給油(水)一覧表……49
燃料について……50
各部への給油と交換(トラクタ)……52
各部への給油と交換(ロータリ)……55
フィルタの交換と洗浄……57
各部の点検・調整……59
グリースの注入箇所……62
電気系統について……64
パイプ類の点検……65
長期格納時の手入れ……66
エンジンの不調と処置……67

付表 …… 68

主要諸元……68
標準付属品……70
推奨オイル・グリース一覧表……70
主な消耗部品一覧表……71
アタッチメント一覧表……75
型式検査(国検)検査成績表……79

作業ごとの一般的な調整要領 …… 80

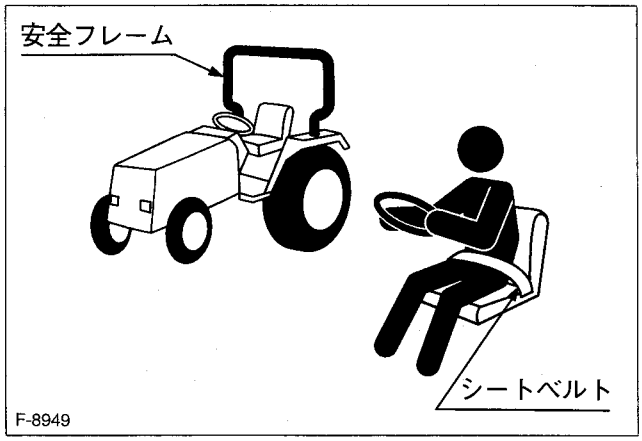
⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください。

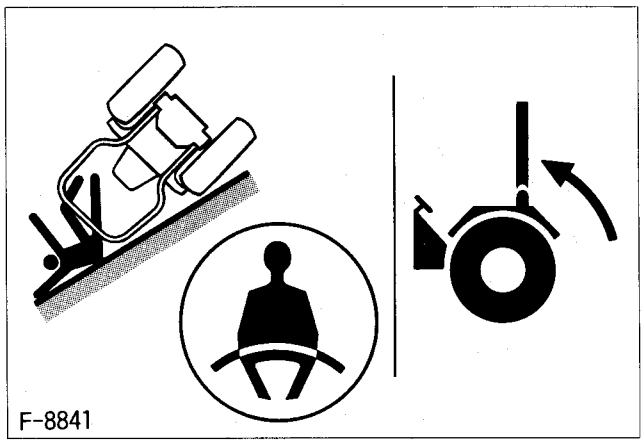
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警 告・⚠注 意・重 要・補 足としてそのつど取上げています。

1．安全フレームについて

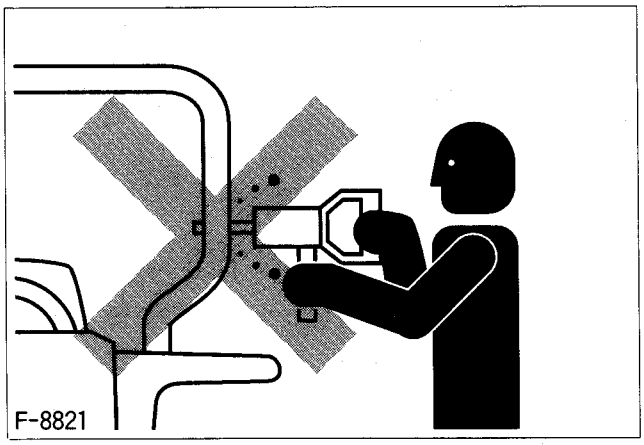
安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。



(1)運転時は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。
(2)安全フレームを取外して運転しないでください。
(3)納屋の出入り等，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，確実にロックして使ってください。
安全フレームを折りたたんだ状態では，万一トラクタが転倒したとき，安全フレームの役目をしません。
(4)安全フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。
(5)安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行なってください。



(6)安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。



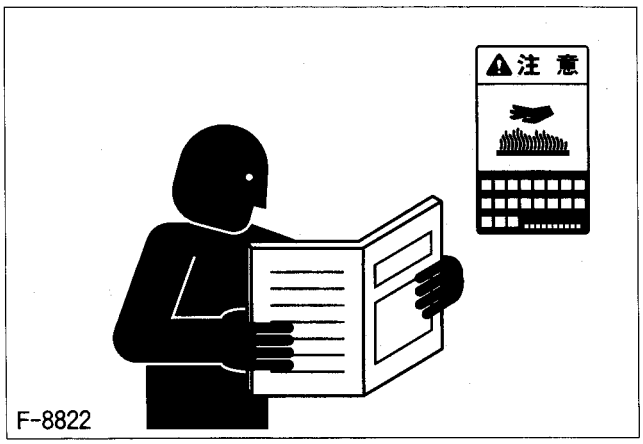
▲ 安全に作業するために

2．運転前に

(1)トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある▲表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。

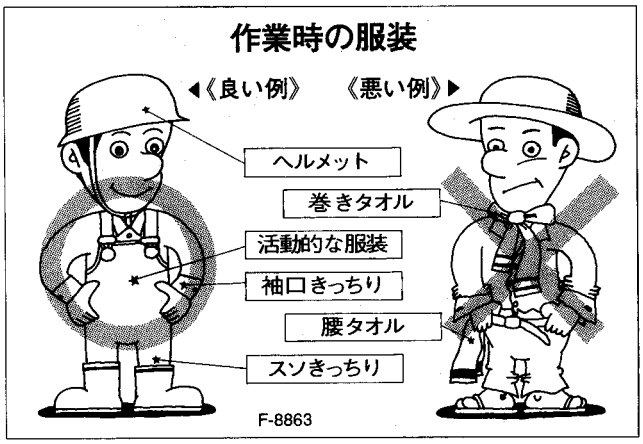
(2)トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。

(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。



(4)飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

(5)ダブダブやかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。



(6)トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

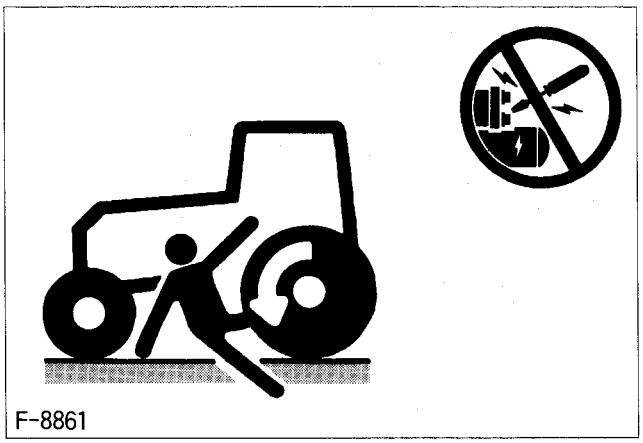
(7)安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は**“トラクタの簡単な手入れと処置”**の章参照)

(8)トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

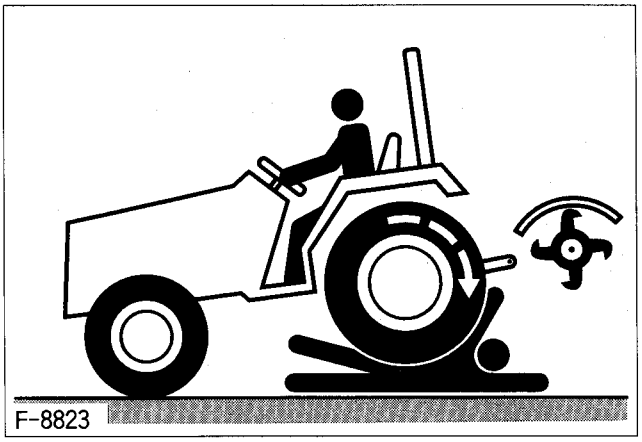
3．始動時に

(1)エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やＰＴＯ変速レバーが**“中立”**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。

(2)地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
トラクタが突然動き出す恐れがあります。

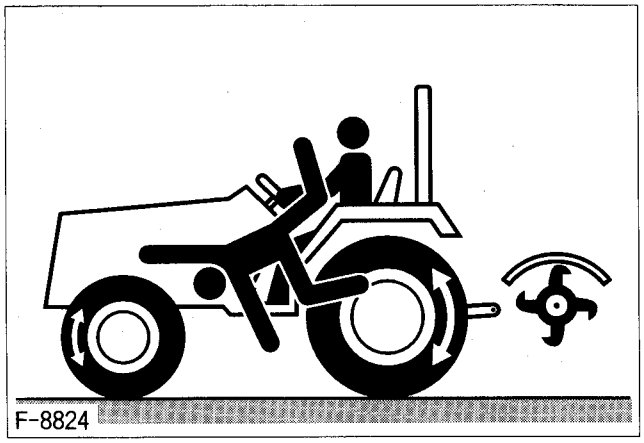


(3)トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になる恐れがあります。又，安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

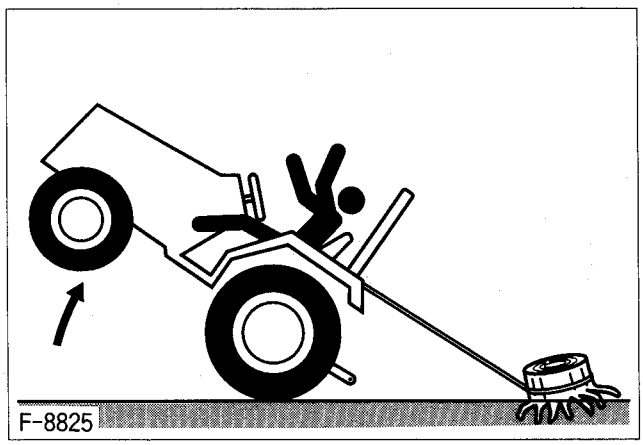

F-8823

4．運転時に

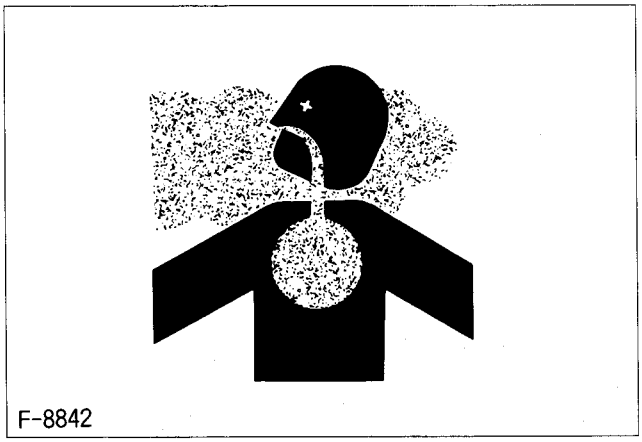
(1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。


F-8824

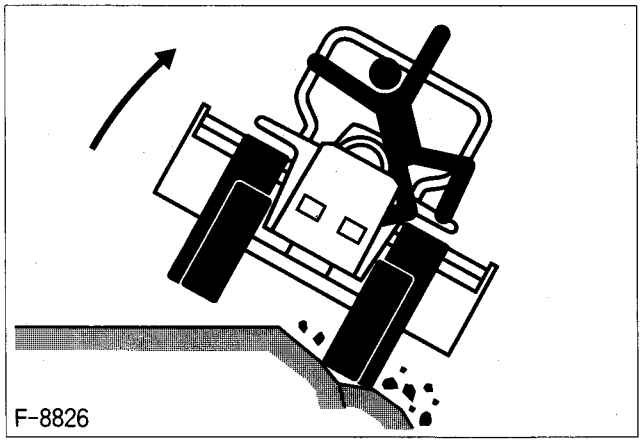
(2)けん引作業には，けん引ヒッチを用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。


F-8825

(3)換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒の恐れがあります。

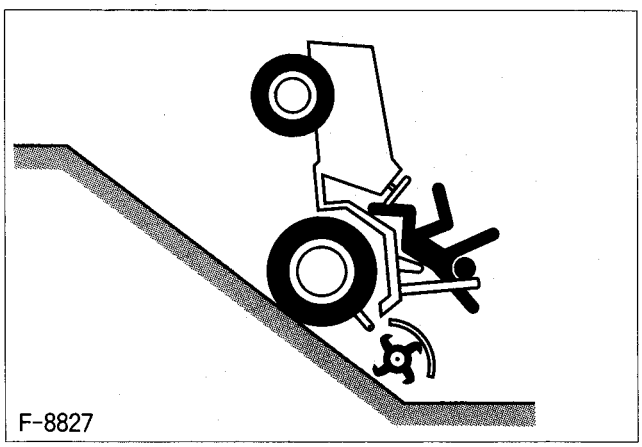

F-8842

(4)溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。


F-8826

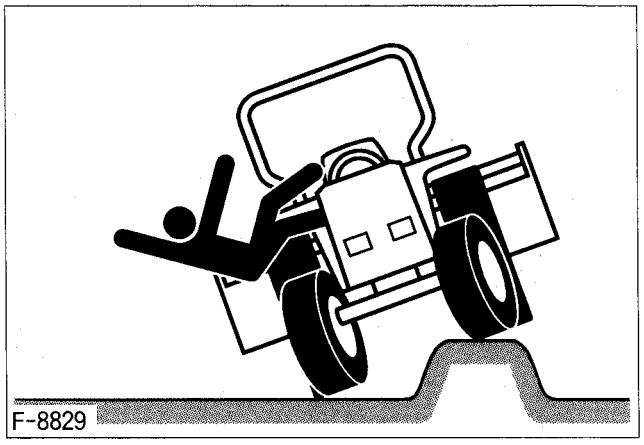
⚠ 安全に作業するために

(5)溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。

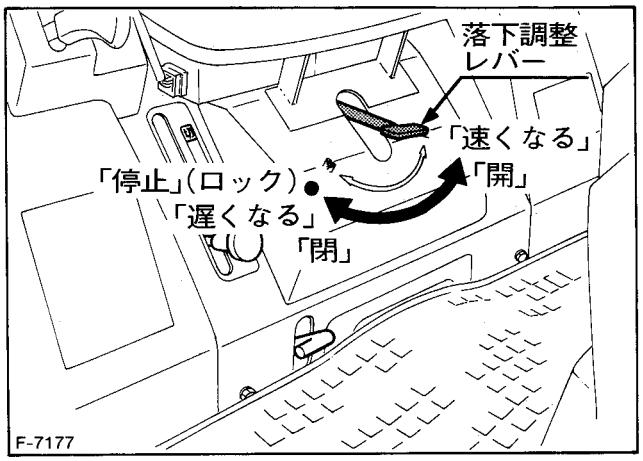


(6)共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。

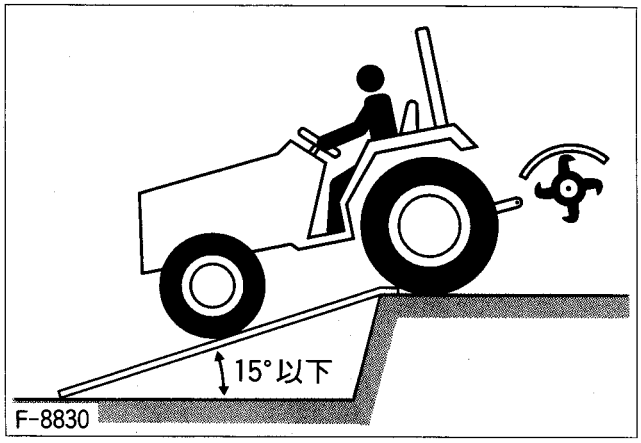
(7)ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。



(8)ほ場外では，油圧ロックをして作業機の落下を防止してください。



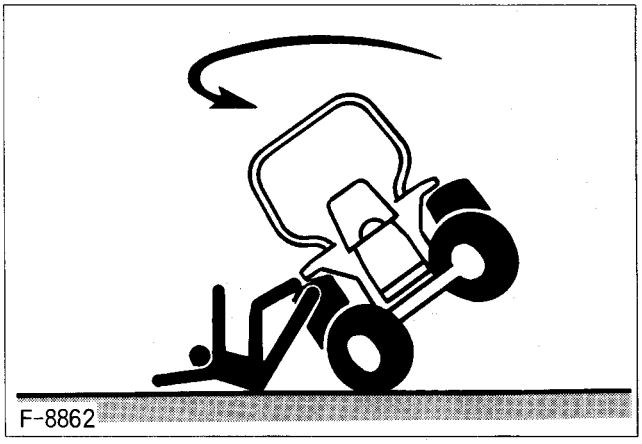
(9)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。



傾斜が15°以下になる長さのものを使用する。

(10)急な坂道・車両への積込み積降し・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

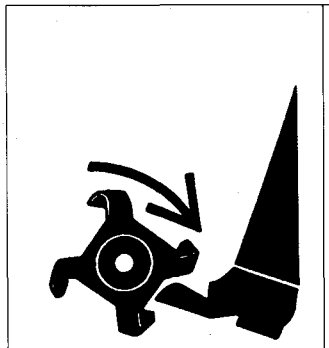
(11)倍速ターンはほ場以外では**“切り”**にし，使用しないでください。又，高速では倍速ターンを使用しないでください。



5．作業機使用時に

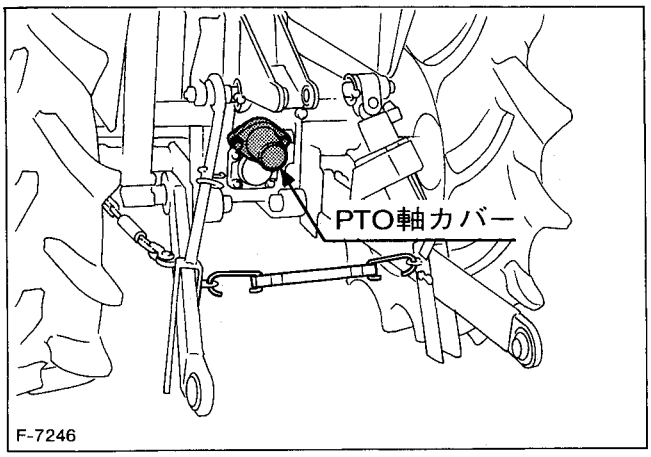
(1)作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。

(2)トラクタから降りるときや，ロータリなどＰＴＯ作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。


F-8844

F-8845

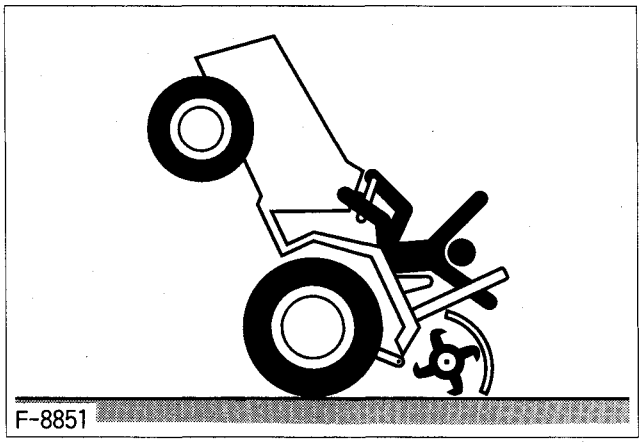
(3)ＰＴＯを使用しないときは，ＰＴＯ軸キャップ（ＰＴＯ軸カバー）を装着しておいてください。



F-7246

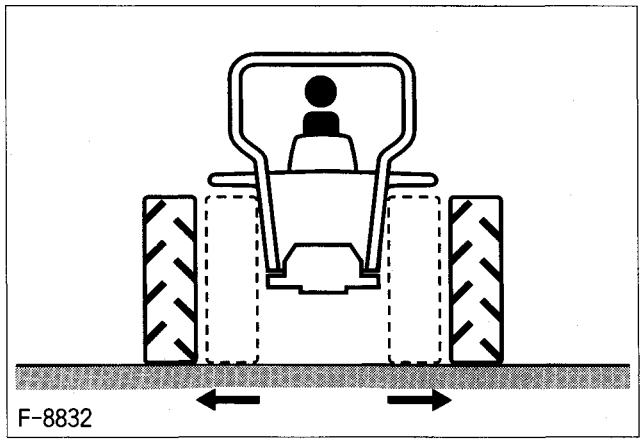
(4)ＰＴＯ作業機は，その作業機で定められたＰＴＯ回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故の恐れがあります。

(5)３点リンク用作業機を使用するときは，必要に応じトラクタ前部に適正なウエイトを取付けてください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故の恐れもあります。


F-8851

(6)作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

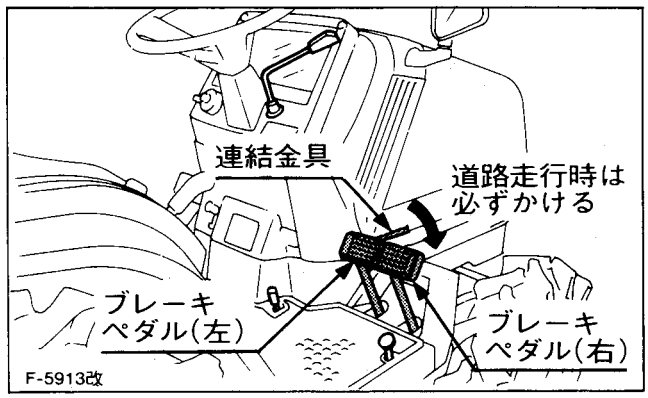
(7)傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距(タイヤ中心間の距離)を大きくしてください。

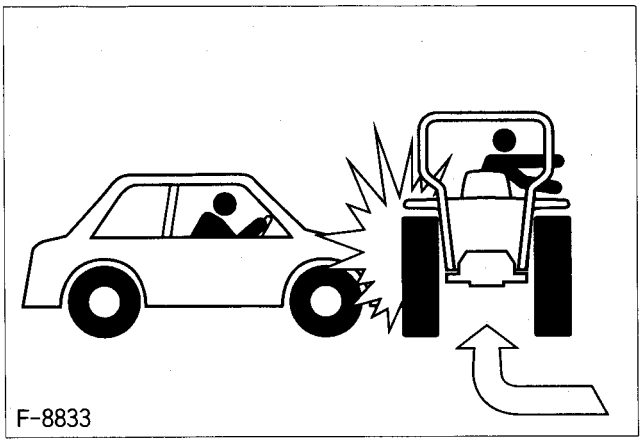

F-8832

⚠ 安全に作業するために

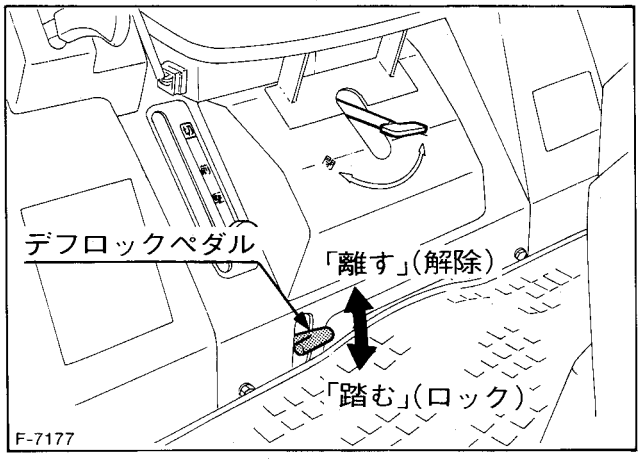
6．道路走行時に

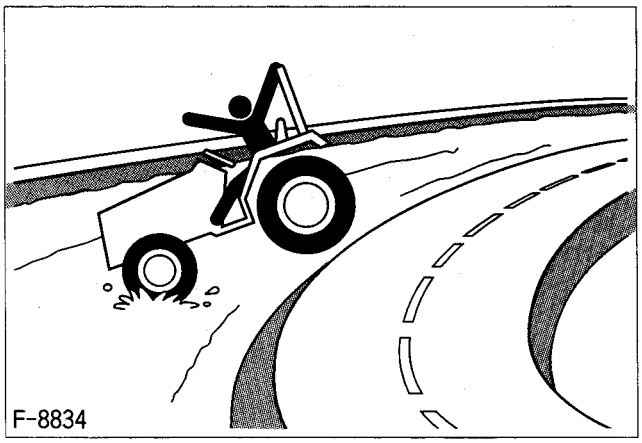
(1)道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や交通事故の恐れがあります。





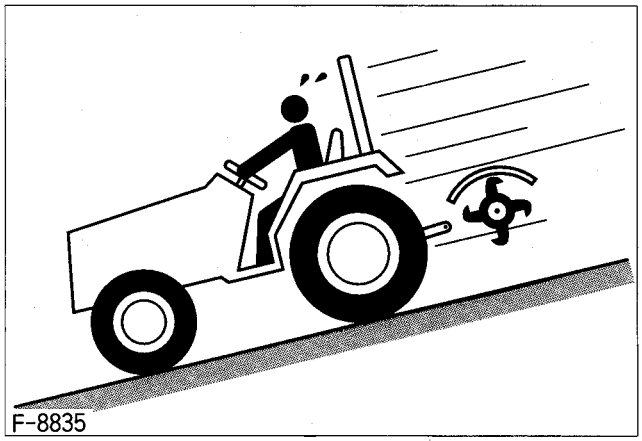
(2)道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
ハンドル操作が出来なくなります。





(3)旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
高速で旋回するとトラクタが転倒する恐れがあります。

(4)坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなる恐れがあります。

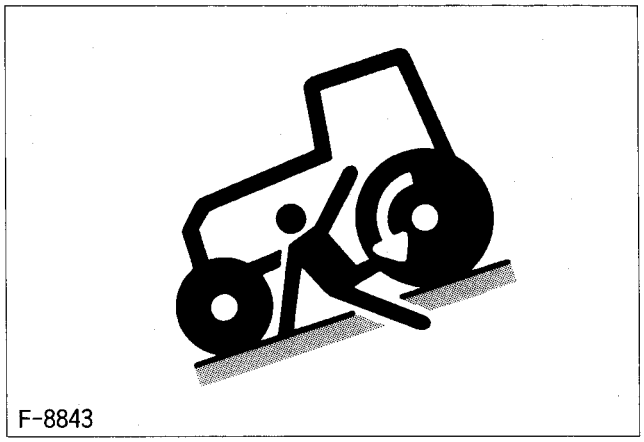


(5)トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。（道路運送車両の保安基準）
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

(6)交通や安全規則を守ってください。
ナンバプレートを付け，運転免許証は携行してください。

7．駐車，格納時に

(1)駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，ＰＴＯを**“切”**，作業機を**“下げ”**，変速レバーを**“中立”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，エンジンを**“停止”**してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。


F-8843

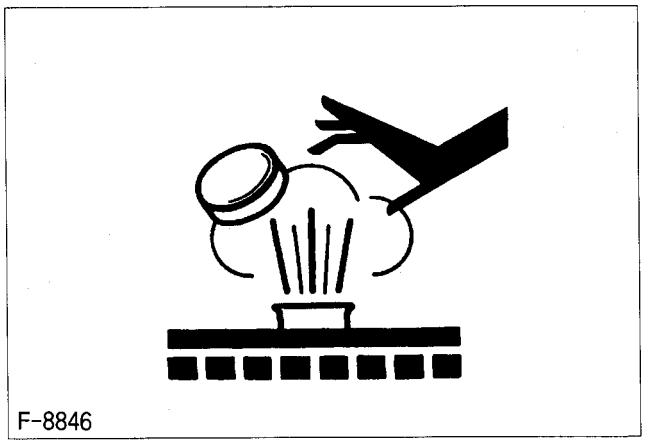
(2)乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災の恐れがあります。

(3)格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行ってください。火災の原因になります。

8．点検・給油・整備時に

(1)平たんな場所に駐車し，作業機を**“下げ”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，変速レバーを**“中立”**にし，そしてエンジンを停止してください。

(2)エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。


F-8846

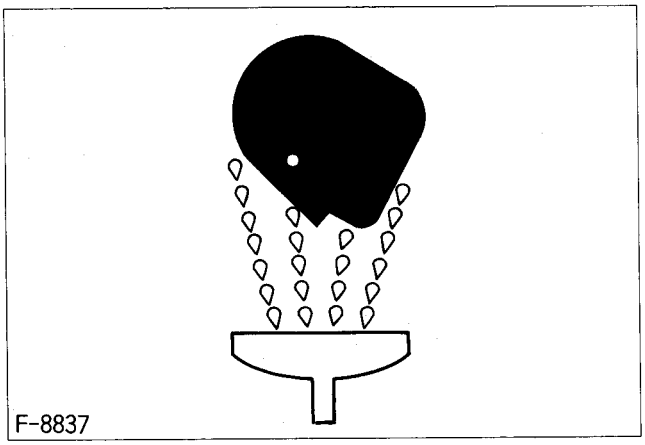
(3)燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発の危険性があります。

F-8836

(4)放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(上手な運転のしかたの章**“バッテリあがりの処置”**を参照)

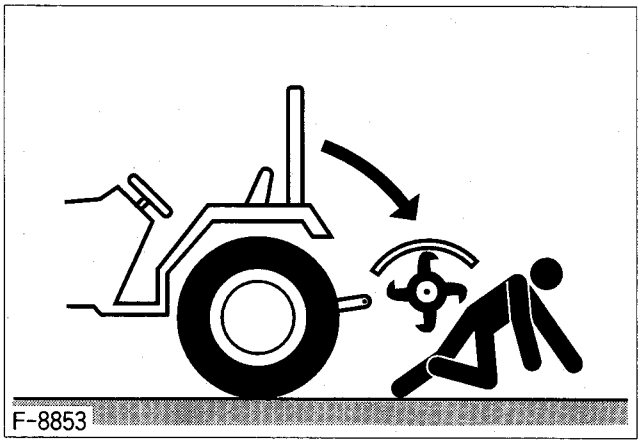
(5)バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。

(6)バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


F-8837

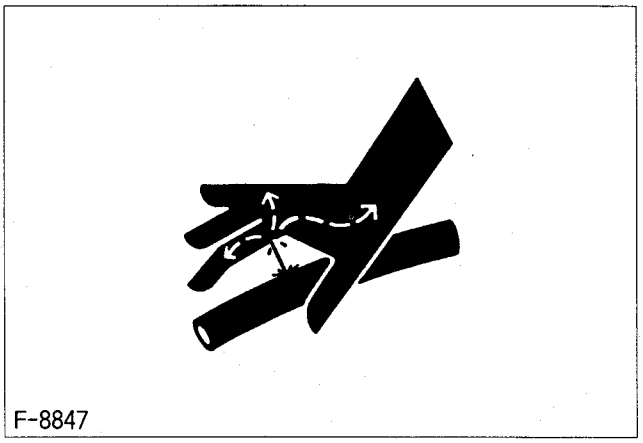
⚠ 安全に作業するために

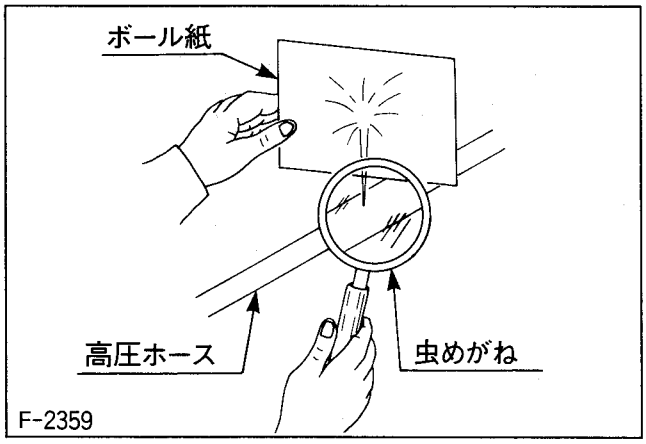
(7)3点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行う場合，シート下部にある油圧ロックを締めて落下防止を行なってください。



(8)圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

(9)見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こす恐れがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。





9．ロータリの着脱時

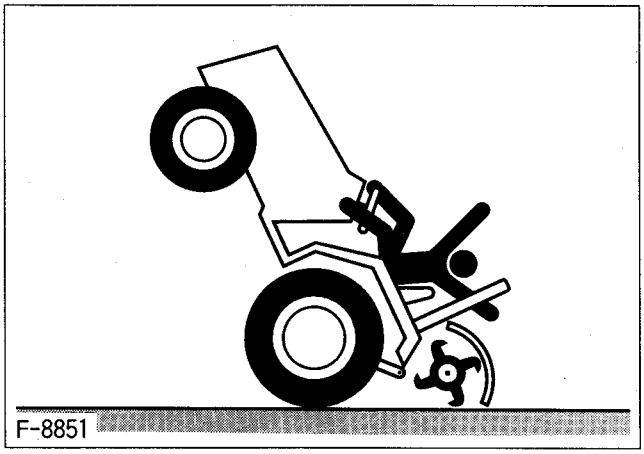
(1)PTOを中立にして平坦な場所で行なってください。

(2)トラクタとロータリの間に立たない，また立たせないでください。
挟まれるおそれがあります。

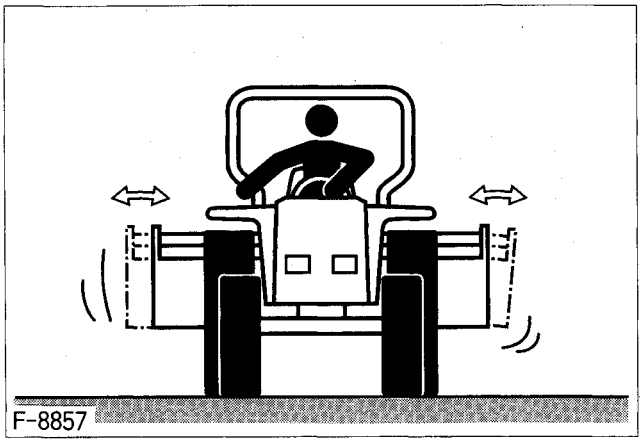
(3)二人作業の場合はお互いに合図しあい，注意して作業してください。

(4)3点リンクの止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが確実にセットされていることを確認してください。

(5)装着するトラクタによってそれぞれ前後バランスが異なりますので，前部ウエイトの指示がある場合は必ず装着してください。
前輪が浮上がり事故の原因になります。

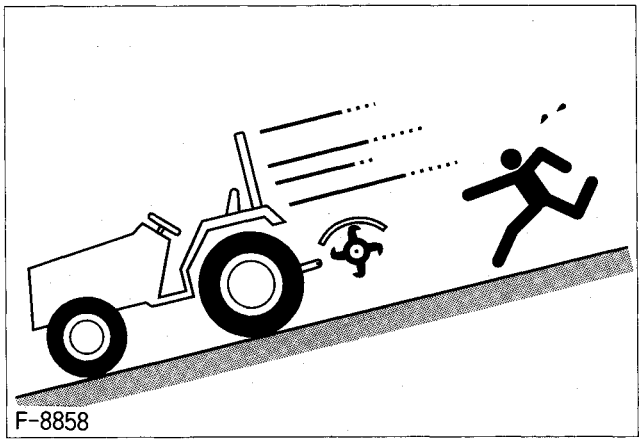


(6)ロアーリンクのチェックチェーンはロータリが左右に２～３㎝動く程度に調節してください。
走行時，ロータリが揺れてバランスをくずし事故の原因になります。

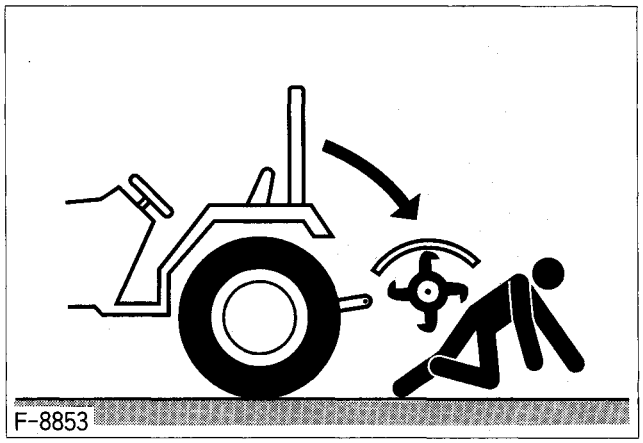


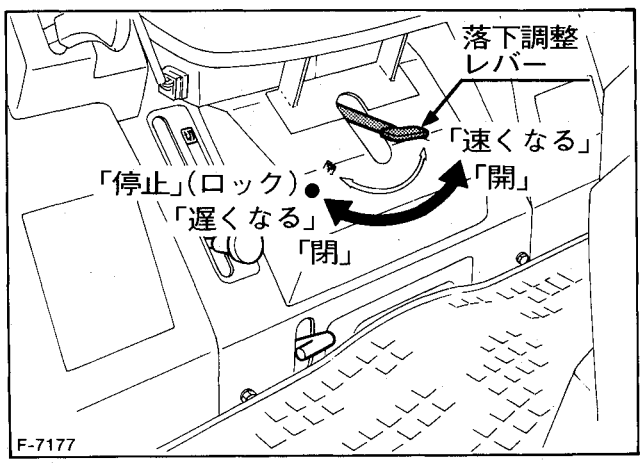
10. ロータリの耕うん爪の点検や交換及び調整時

(1)トラクタを平坦な場所に置いてください。
(2)駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。
トラクタが動き出すおそれがあります。



(3)ロータリの落下防止のため油圧ロックをしてください。
ロータリが落下するおそれがあります。



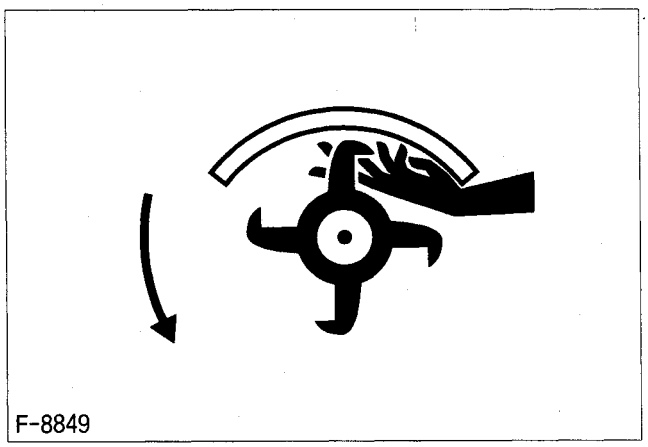


⚠ 安全に作業するために

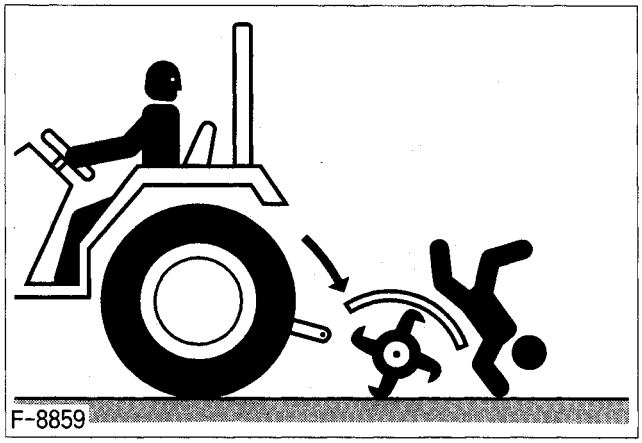
11. ロータリの運転時

(1)安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。又紛失したり損傷した場合，交換してください。
巻込まれや，切傷事故の原因になります。

(2)ユニバーサルジョイント，爪軸等回転部分には近づかないでください。
裂傷・巻込まれ等，事故のおそれがあります。

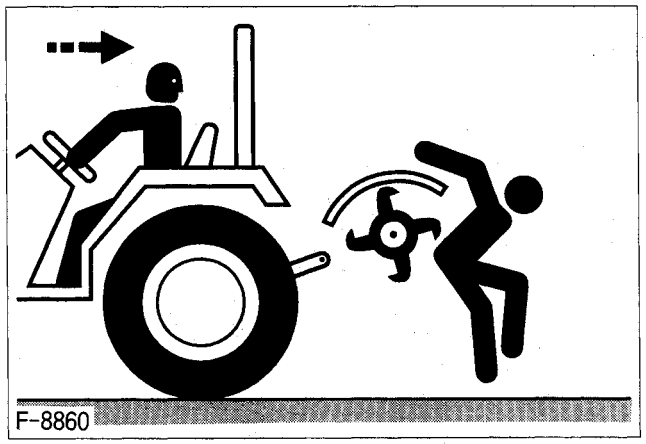

F-8849

(3)ロータリの上に人を乗せないでください。

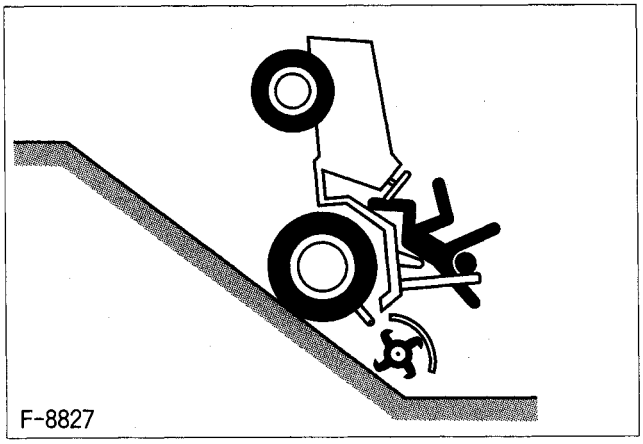

F-8859

(4)必ず座席に座ってロータリ作業を行なってください。作業中，トラクタの飛降り，飛乗りは重大事故につながります。

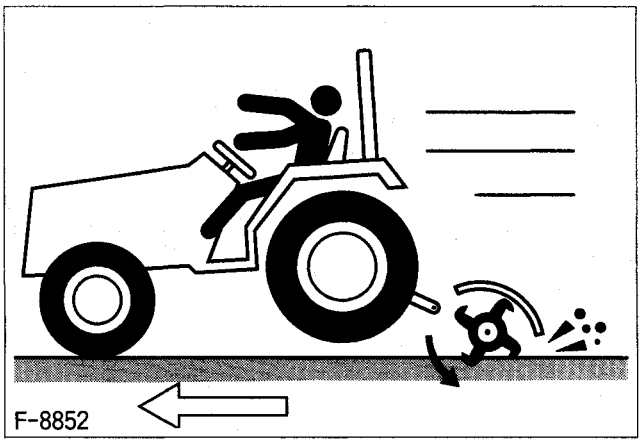
(5)ロータリを持上げ，バック及び急旋回するときは，周囲の安全確認を行なってください。


F-8860

(6)傾斜地やあぜを登るときは，転倒防止のためロータリを下げて前輪の浮上がりを防いでください。


F-8827

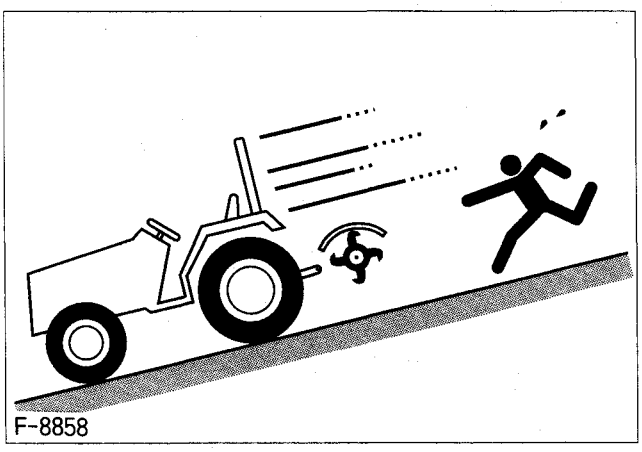
(7)耕うん中，硬いほ場でトラクタが前に飛出した場合，すぐクラッチを切り，ブレーキを踏んでください。次に，より遅い車速に変速し，爪軸回転を上げて飛出しが起こらないように作業してください。
２輪駆動，４輪駆動の切り換え可能なトラクタは，４輪駆動にしてください。

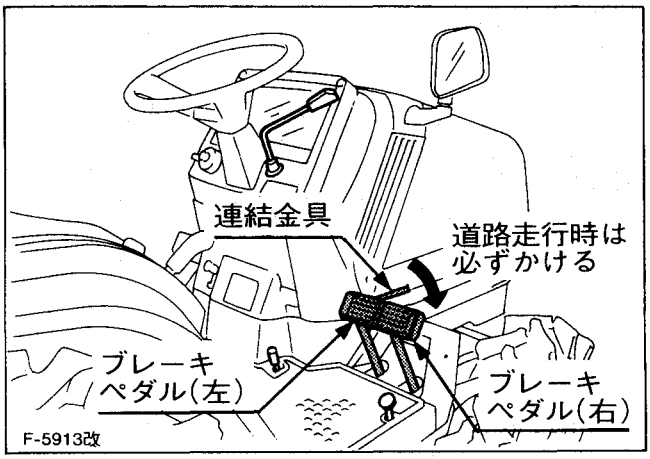


(8)ロータリをトラクタに装着して公道を走行できません。(道路運送車両の保安基準)
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

12. ロータリの格納時

(1)トラクタを平坦な場所に置いてください。
(2)ロータリを下げ，地面に接地させてください。ロータリが落下するおそれがあります。
(3)駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止してください。
トラクタが動き出すおそれがあります。

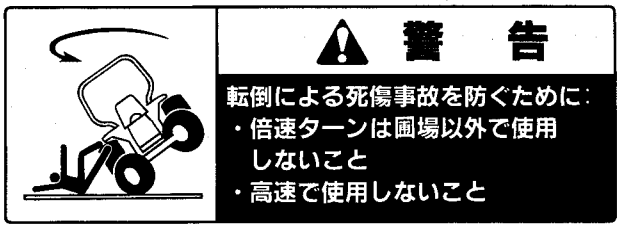




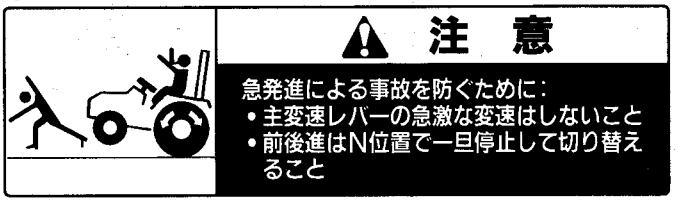
▲ 安全に作業するために

13. ▲表示ラベルと貼付位置

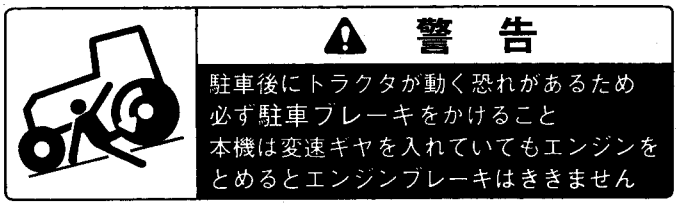
① 品番　T0180-4905-1〔B・BS 仕様〕



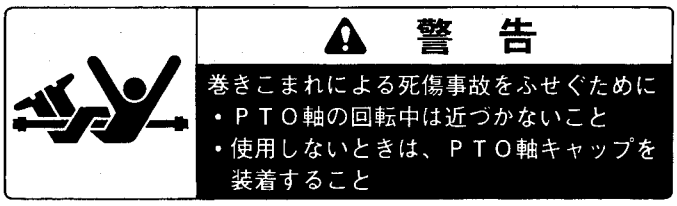
② 品番　6A000-4745-1〔V シフト(F)仕様〕



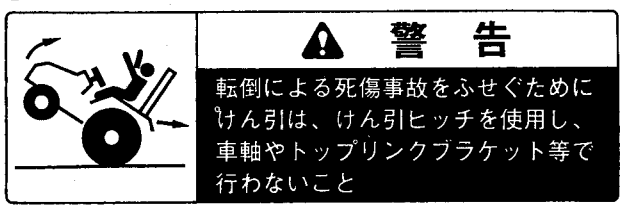
③ 品番　T0180-4906-1〔V シフト(F)仕様〕



④ 品番　T0180-4959-1

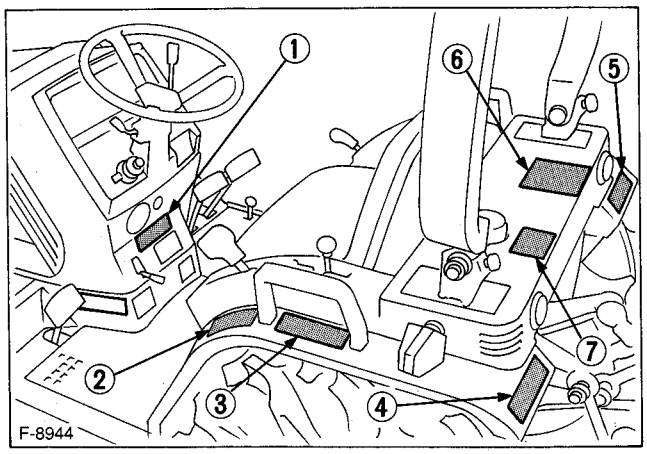


⑤ 品番　T0180-4904-1



⑥ 品番　T0070-4901-2〔K 仕様は除く〕

⑦ 品番　T0180-4956-1



必ず読んで
ください。

① 品番　67980-4907-1

⚠ 注 意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

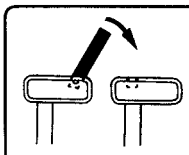
始動時
- シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴の近く、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- 作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

② 品番　67955-4746-1



⚠ 警 告

転倒や衝突による死傷事故をふせぐために、道路走行時は左右のブレーキペダルを連結すること

③ 品番　T0180-4966-1〔MA 仕様〕

⚠ 注 意

ポンパは、ほ場内作業にのみ使用すること。作業時以外は、作業機上げ下げを油圧レバーで行うこと

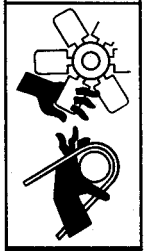
④ 品番　T0180-4958-1

⚠注 意

ヤケドをするのでマフラーに触れないこと

⑤ 品番　T0180-4957-1

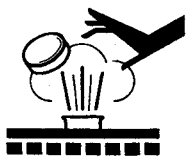
⚠注意



指を切傷するのでファン、ベルトに触れないこと

⑥ 品番　T0180-4954-1

⚠ 注 意

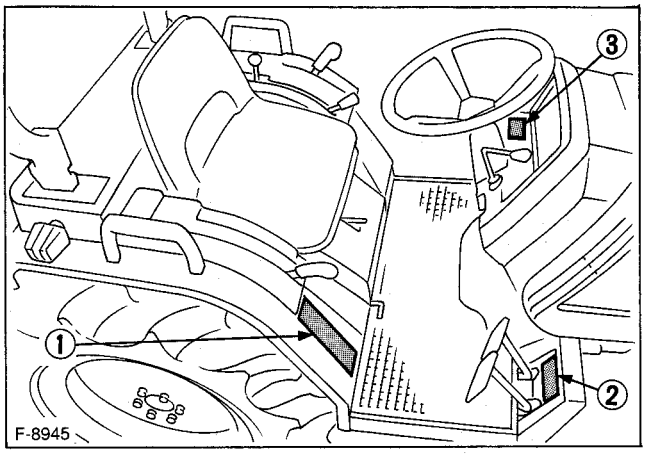


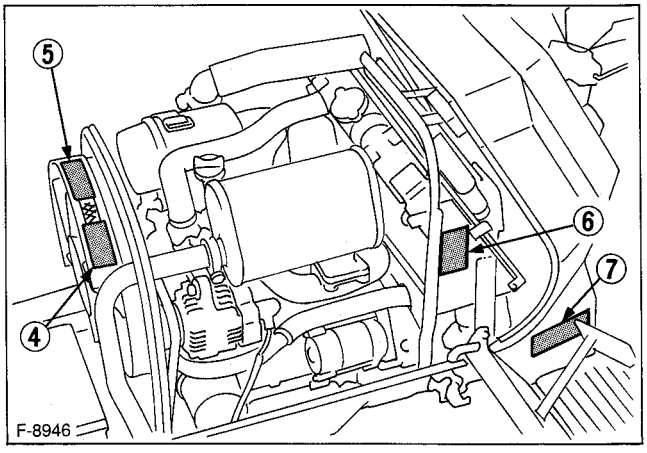
ヤケドの恐れがあるのでエンジン停止直後、ラジエータキャップを開けないこと
（３０分おくこと）

⑦ 品番　T0180-4965-2

⚠ 警 告

トラクタが突然動きだす恐れがあるため：
- 地上に立って、エンジンを始動しないこと
- 安全スイッチ回路を直結しないこと
- スタータを直結してエンジンを始動しないこと





⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

① 品番　7C705-5646-2

⚠ 注　意

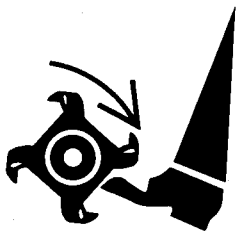
傷害事故防止のため取扱説明書を読んで正しく取扱うこと

着脱時
- PTOを中立にして、平坦な場所で行うこと
- トラクタとロータリの間に立たないこと
- 三点リンクまたは二点リンクの止ピンやユニバーサルジョイントのロックピンがはずれていないか確認すること

爪の交換および点検・調整時
- 平坦な場所で駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止すること
- ロータリ落下防止のため、トラクタの油圧ロックをすること

作業時
- ロータリの上に人を乗せないこと
- バックや旋回のときは、周囲の安全を確認すること
- 傾斜地や畦を登るときはロータリを下げて、前上がりを防ぐこと

⚠ 警　告

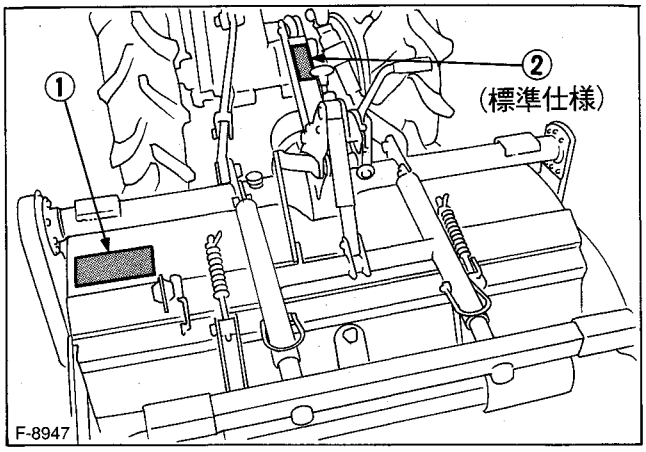


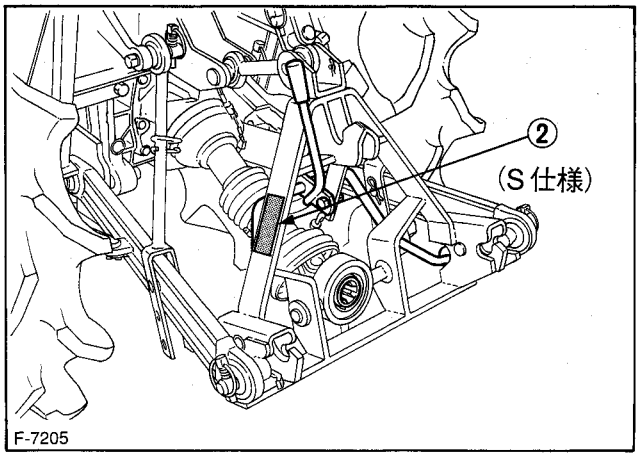
ロータリの回転部に接触すると、巻込まれやケガをする恐れがあるので回転部に近づかないこと

② 品番　7C705-5881-1

⚠ 警　告

ユニバーサルジョイントに接触すると、巻き込まれやケガをする恐れがあるので近づかないこと





14. ⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルはいつもきれいにして傷付けないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(3)ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

サービスと保証について

この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際（1）トラクタ名称と車台番号
（2）エンジン名称とエンジン番号
（3）ロータリ名称と機械番号
を併せてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆安全鑑定適合番号

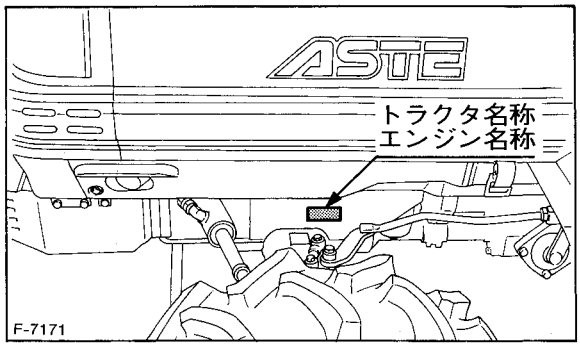
クボタA-155……17018
クボタA-175……17019
クボタA-175F ……17020
クボタA-195……17021
クボタA-195F ……17022

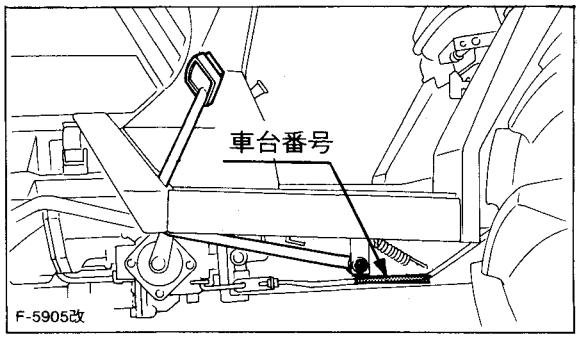
◆型式認定番号

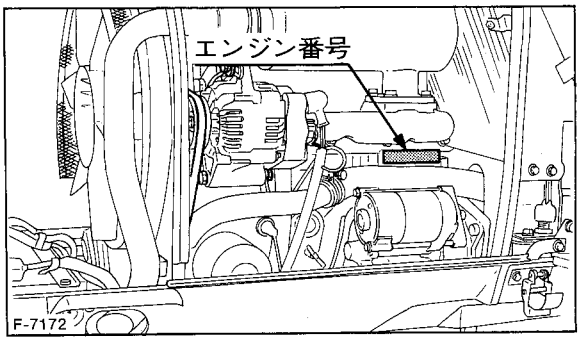
クボタA-155……農1887
クボタA-175……農1888
クボタA-195……農1889

◆型式検査(国検)合格番号

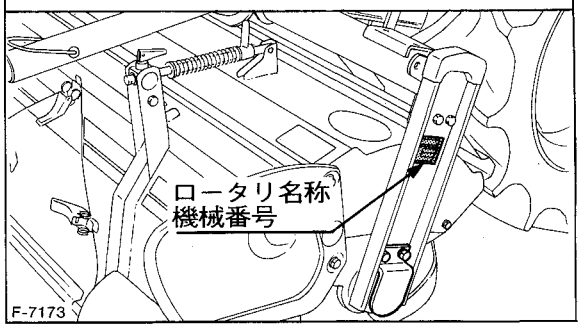
クボタSF-A155……92009
(安全フレーム)



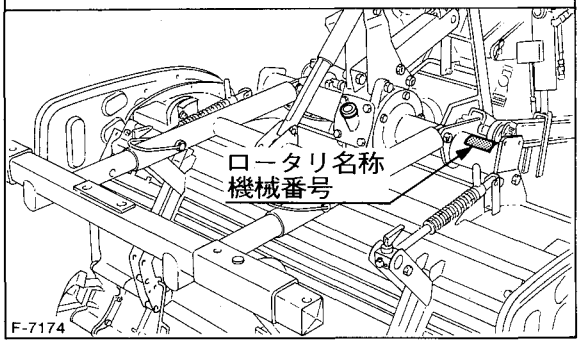




サイドドライブ仕様



センタドライブ仕様



小型特殊自動車について

このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出とナンバプレートの取付け

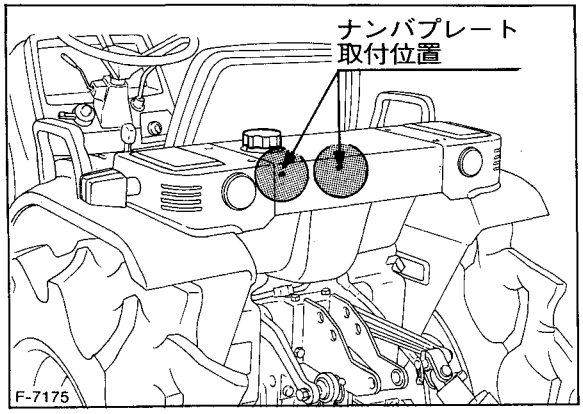
新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届出，ナンバプレートの交付を受けなければなりません。

（手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。）

❶小型特殊自動車取得の証明書など(販売店・農協で発行)に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。

❷届出が済むとナンバプレートが交付されます。

❸ナンバプレートを車体の取付け位置に取付けてください。



■運転免許

公道を走行する場合は，小型特殊自動車の運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■自動車損害賠償責任保険のお勧め

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

■小型特殊自動車とは

車体の大きさ	全長	4.70m以下
	全幅	1.70m以下
	全高	2.00m以下
最高速度		15km/時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

上記の条件を有する自動車で，このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので，次のようなことには特にご留意ください。

(1)認定を受けた以外のエンジンを搭載して運行することはできません。

(2)認定時の構造を変更(例えば大径車輪やドッキングローダなどを装着)した状態では，運行することはできません。

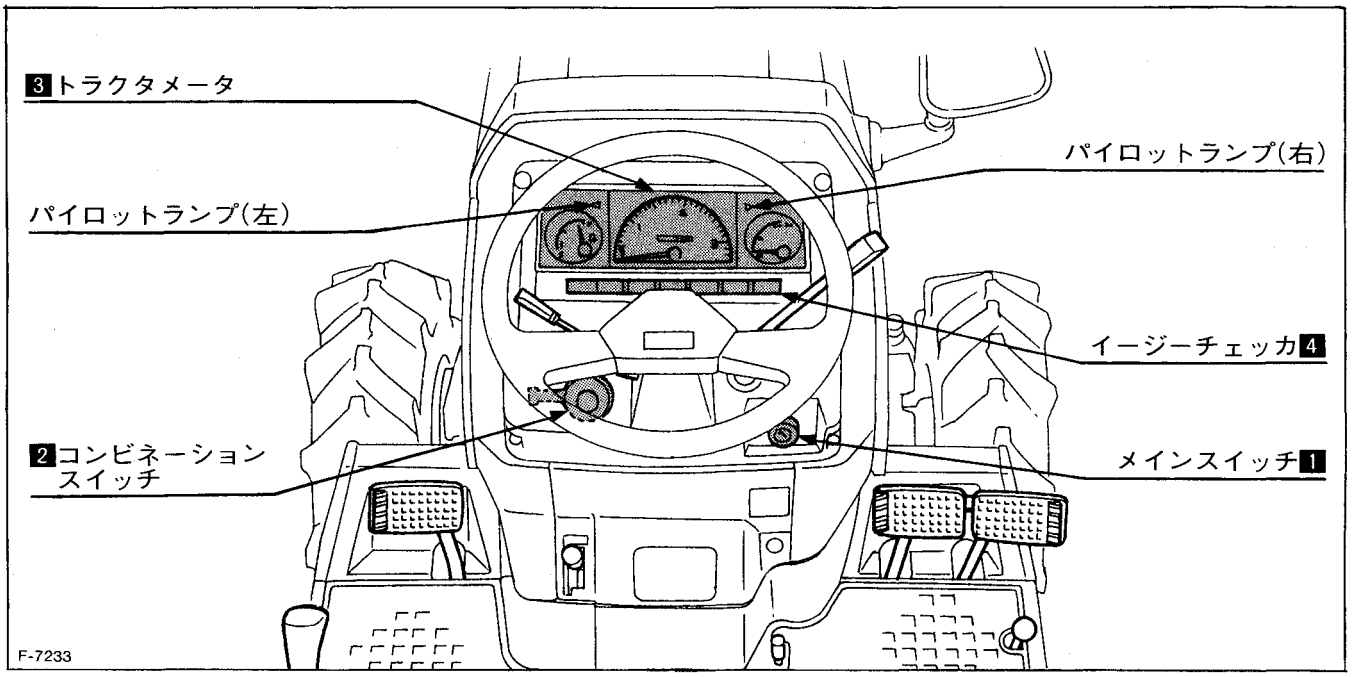
(3)エンジン及び車体の封印は外さないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はできませんのでご注意ください。

補　足

＊作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において，“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

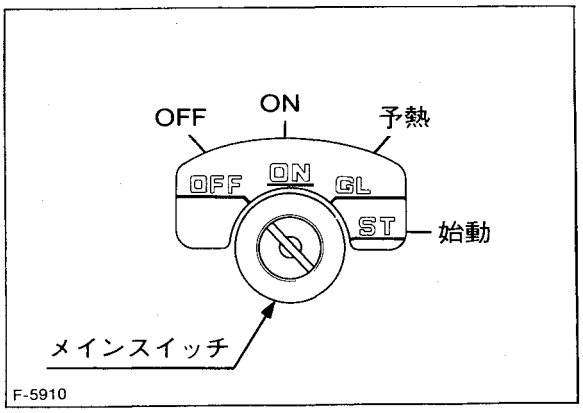
運転に必要な装置の取扱い

スイッチとメータの取扱い

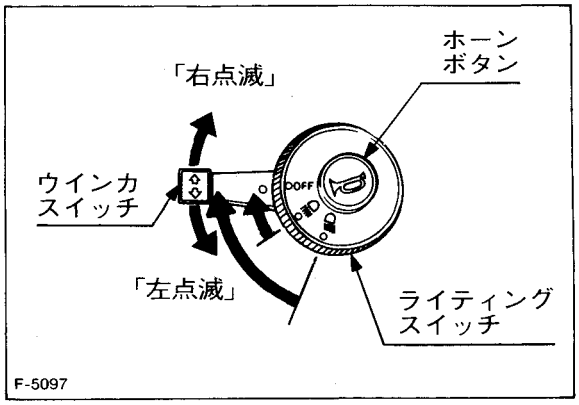


1メインスイッチ

OFF……エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。
ON ……エンジン回転中の位置。
GL(予熱)……燃焼室内を予熱する位置。
ST(始動)……クラッチペダルをいっぱい踏込んで，エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に**“ON”**に戻ります。



2コンビネーションスイッチ



◆ライティングスイッチ

OFF……ヘッドランプ消灯位置
≡D ……ヘッドランプ上向き照射位置
≡D ……ヘッドランプ下向き照射位置

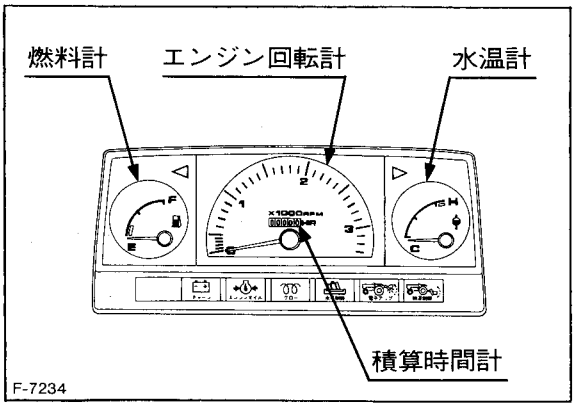
◆ウインカスイッチ

(1)スイッチを操作すると，ウインカランプ及び計器盤のパイロットランプが点滅します。
(2)右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。

◆ホーンボタン

メインスイッチを**“ON”**にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

3 トラクタメータ



◆積算時間計

積算時間計は５桁になっており，初めの４桁は時間，最後の１桁は$\frac{1}{10}$時間(６倍すると**“分”**単位)を示します。

◆エンジン回転計

１分間のエンジン回転速度を示します。

◆燃料計

メインスイッチ**“ON”** **“OFF”**に関係なく，燃料の残量を示します。

補　足

＊Eに近づいたら早めに燃料を補給してください。からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。

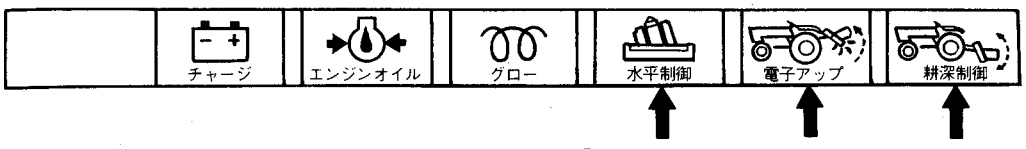
◆水温計

メインスイッチが**“ON”**のとき，冷却水の温度を示します。**“C”**は低温，**“H”**は高温です。
指針が**“H”**(レッドゾーン)を示すときは，オーバヒート状態ですから24ページ**“◆オーバヒートしたときの処置”**をご参照のうえ点検してください。

4 イージーチェッカ

重　要

＊日常点検はイージーチェッカのみで済ませないで確実な点検を行なってください。
(46ページ“日常点検”参照)



バッテリチャージ警告灯

エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯して警告します。
メインスイッチを**“ON”**にすると点灯し，始動すると消灯します。

エンジンオイル油圧警告灯

エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは，エンジンオイル量及び潤滑油系統を点検してください。

グローランプ

メインスイッチを**“予熱”**にすると約５秒間点灯し，始動可能になります。寒冷時には始動を容易にするため消灯後５秒程度**“予熱”**位置を保持してください。

モンローマチック表示灯【M･MA仕様】

メインスイッチが**“ON”**で，モンローマチックが作動状態のとき，点灯します。
モンローマチック切換スイッチが**“切”**のときは消灯します。

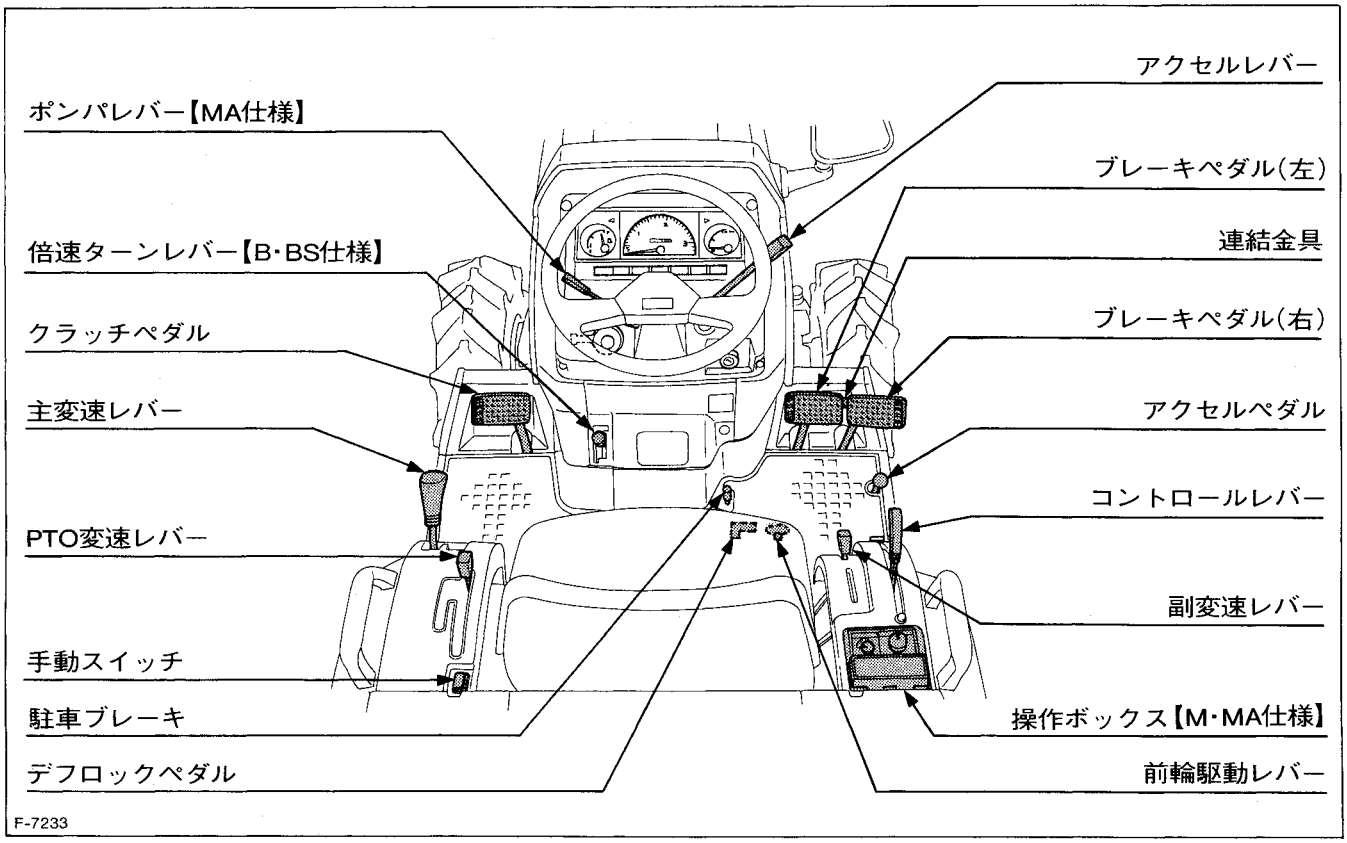
ポンパアップ表示灯【MA仕様】

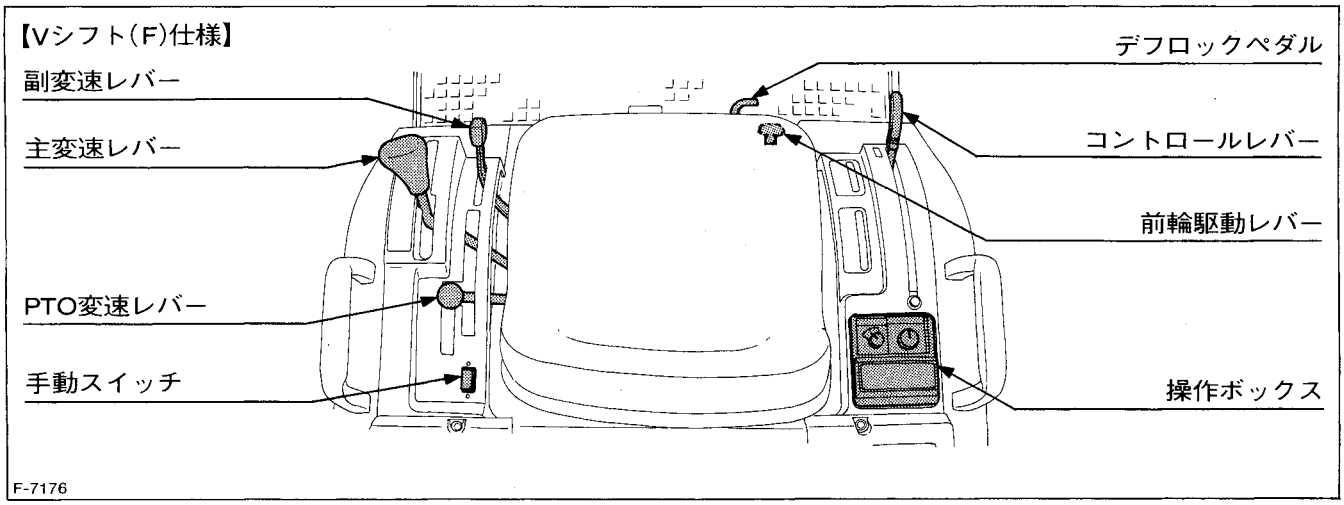
メインスイッチが**“ON”**で，ポンパ又はバックアップが作動したとき，点灯します。
ポンパレバーを上げると，作動が解除し，消灯します。

オート耕うん表示灯【MA仕様】

メインスイッチが**“ON”**で，オート機能が作動状態のとき，点灯します。
オート切換えスイッチが**“切”**又は**“入”**でもオート耕深調節スイッチが**“尾輪”**のときは消灯します。

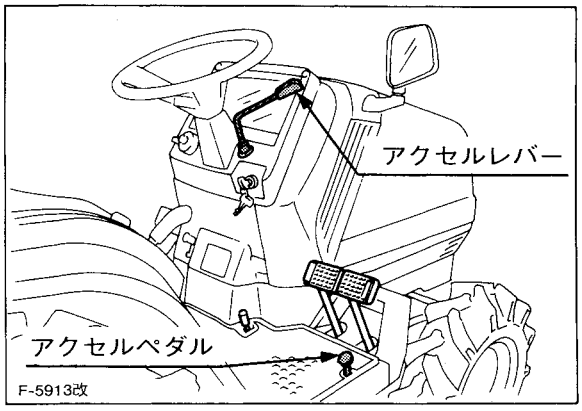
運転装置の取扱い





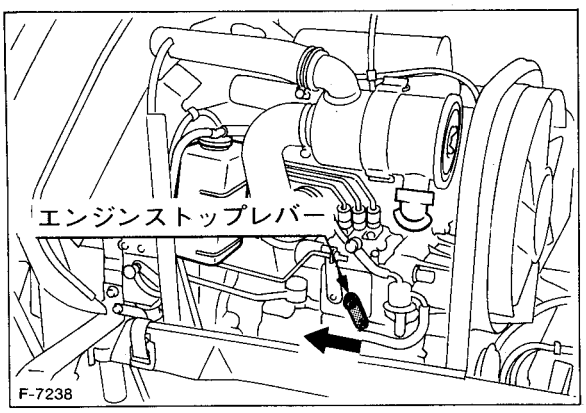
■アクセルレバーとアクセルペダル

アクセルレバー……主に農作業時に使用します。
アクセルペダル……主に道路走行時に使用します。
アクセルペダルは，アクセルレバーと連動しており，
ペダルを踏込む……エンジン回転が上がります。
ペダルから足を離す…アクセルレバーのセット位置まで戻ります。



■エンジンストップレバー

メインスイッチを“OFF”にすると，エンジンが自動的に“停止”します。
万一停止しないときは，エンジンストップレバーを矢印側にいっぱい動かすと，エンジンが“停止”します。

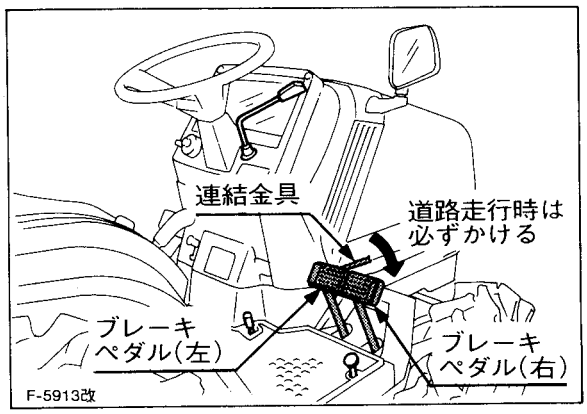


■ブレーキペダル

警　告

＊道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

ブレーキは，一般の自動車などと異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片方だけブレーキをかけることができます。
連結金具をかけた状態
(左右同時にブレーキがかかる)……道路走行時。
連結金具を外した状態
(左右片輪ずつブレーキがかかる)……農作業時。



■クラッチペダル

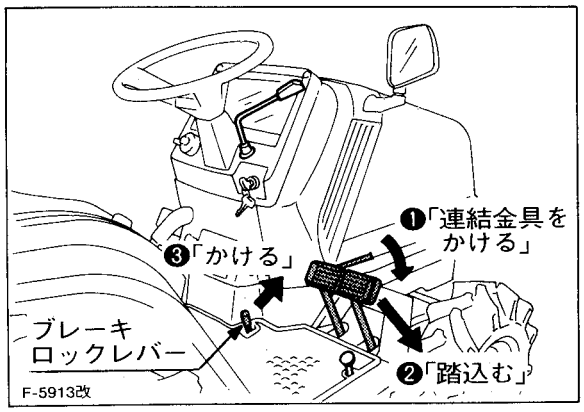
注　意

＊急にクラッチを離すと，急に飛出して危険です。
ゆっくり行ってください。

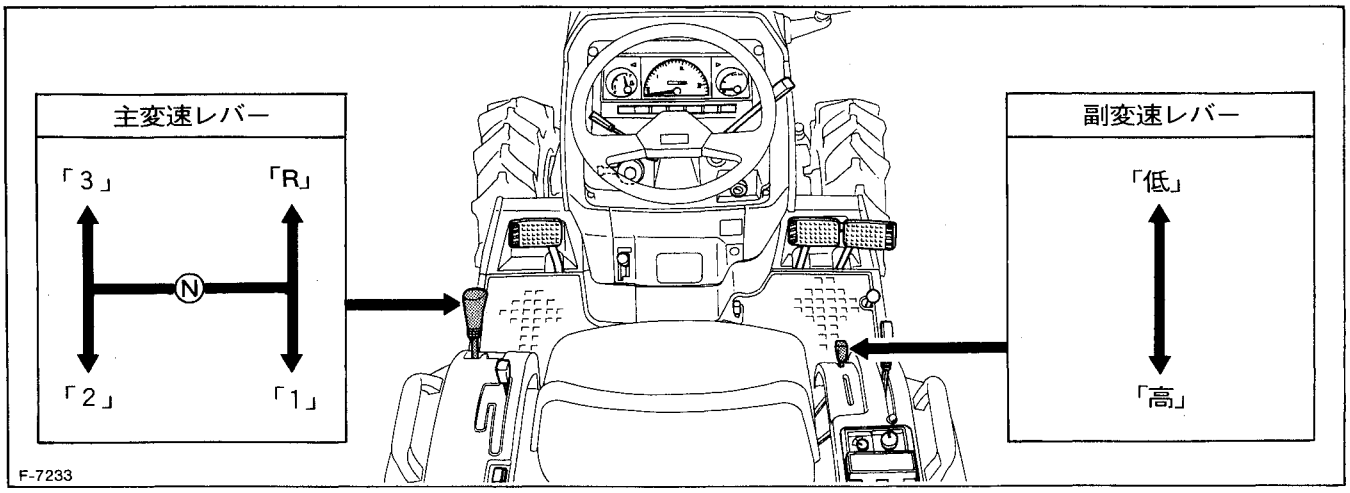
ペダルを踏込む……クラッチが切れます。
ペダルから足を離す……クラッチがつながります。

■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，ブレーキロックレバーを“上げる”と爪がみぞにかみ合い，ブレーキがかかります。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。



【標準仕様】



2本のレバー操作を組合せることにより，前進6段・後進2段の車速が得られます。

重　要

＊操作はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

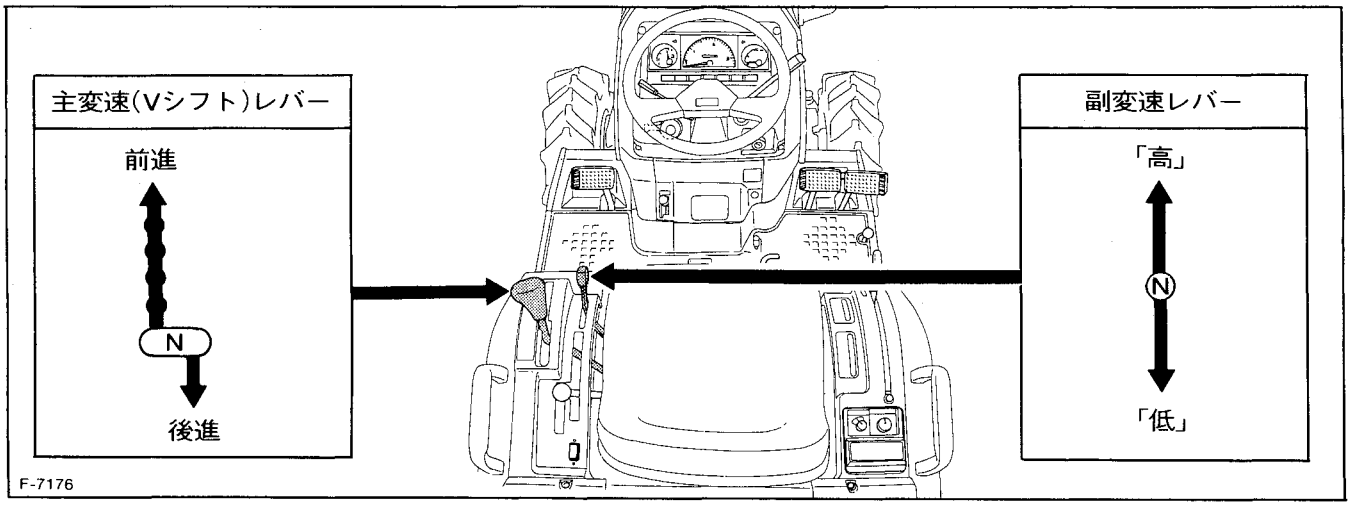
■主変速レバー

レバー1本で前進3段，後進1段の車速が選択できます。

■副変速レバー

"低"位置で低速，**"高"**位置で高速が得られます。

【Vシフト(F)仕様】



2本のレバー操作を組合せることにより，前進と後進の車速が無段階で得られます。

■主変速(Vシフト)レバー

前進と後進の車速が無段階で選択できます。レバーを前に押して**"前進"**，手前(後)に引いて**"後進"**です。
発進及び走行中にクラッチペダルを踏まずに(ノンクラッチ)，変速することができます。

補　足

＊主変速(Vシフト)レバーは任意の位置に保持できます。ただし，急ブレーキ，トレーラ作業での急発進，フロントローダ作業でのシャクリ掘削，湿田沈没状態からの脱出時などに過負荷がかかった場合には減速側に戻ることがあります。これは機械を保護し，安全に作業するためのもので，構造上問題はありません。

■副変速レバー

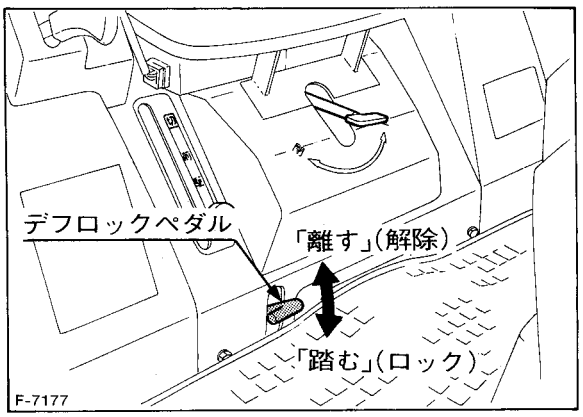
"低"位置で低速，**"高"**位置で高速が得られます。
副変速**"低"**…主に農作業，けん引作業時に使用します。
副変速**"高"**…主に道路走行に使用します。

重　要

＊主変速(Vシフト)レバー以外は変速操作はクラッチを切り，トラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動する装置で，片側の後輪がスリップしたとき，ペダルを踏込めばスリップが防止できます。
ペダルを踏込む……ロックされます。
ペダルから足を離す……自動的にロックが外れます。



◆デフロックの使い方

注　意

＊デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず外してください。
＊道路走行時は，絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，次のような場合には非常に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなりますので，注意してお使いください。
(1)農場への出入りやフロントローダ作業時などで，片車輪がスリップして直進できないとき。
(2)農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行できなくなったとき。
(3)プラウ作業など大きいけん引力を必要とする作業で，車輪がスリップしたとき。

重　要

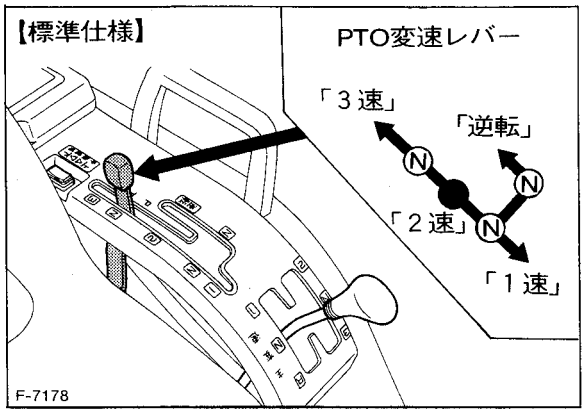
＊デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてください。
＊抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊デフロックを使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

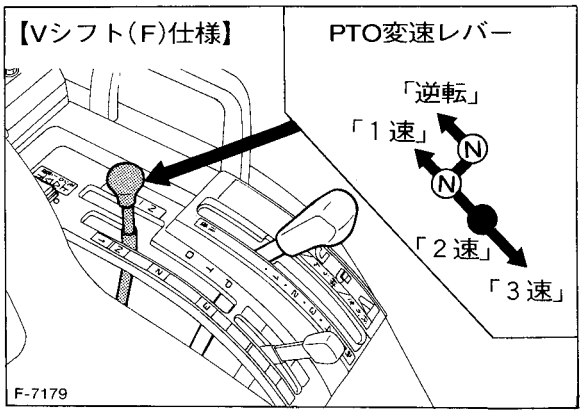
■PTO変速レバー

注　意

＊作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。
低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用すると非常に危険です。

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度は，レバー操作により正転３段階，逆転１段階に変速できます。

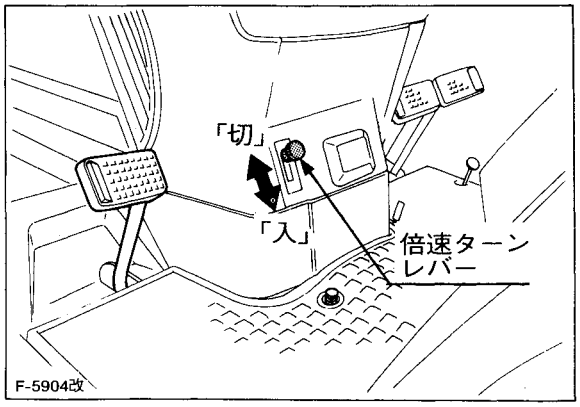




● 逆転PTOの使用方法については“ロータリ装置について”の章をご参照ください。

■倍速ターンレバー【B・BS仕様】

倍速ターンを断続するレバーで，必ず前輪駆動レバーを“入”にしてから操作してください。
レバーを“入”にする……倍速ターンが入ります。
レバーを“切”にする……倍速ターンが切れます。



◆倍速ターンの使い方【B・BS仕様】

警　告

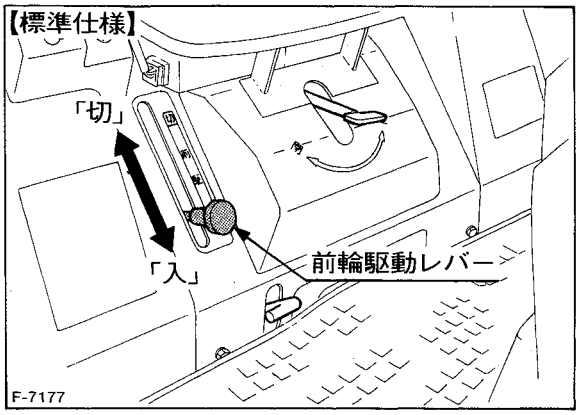
＊倍速ターンに入れたままでほ場以外を走行すると危険です。ほ場から出る前に必ず倍速ターンを“切”にしてください。
＊ほ場内であっても区画整理されていない変形ほ場では，必ず倍速ターンを“切”にしてください。
＊倍速ターンは，畑，水田などのロータリ耕作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などの危険や故障の原因にもなります。

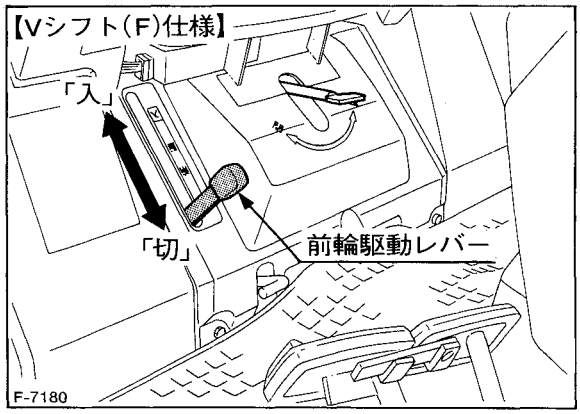
重　要

＊ローダ，トレーラなど前輪に重荷重がかかる作業やプラウなど速度の速い作業には，使用しないでください。
＊倍速ターンレバー“入”・“切”は，前輪タイヤが直進の状態から，左右各30°以内の範囲で行なってください。
＊倍速ターンの高速けん制……倍速ターンレバー“入”の状態で副変速レバーを“高”にすると，倍速ターンは自動的に“切”となり，副変速レバーを“低”に戻すと倍速ターンは“入”に復帰します。この使用法はほ場内だけにし，道路走行では倍速ターンレバーを“切”にしてください。

■前輪駆動レバー

前輪駆動を断続するレバーで，クラッチペダルを踏込み，
レバーを“入”にする……四輪駆動になります。
レバーを“切”にする……二輪駆動になります。





◆前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に特に効果があります。
(1)傾斜地，湿田，トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。
(2)砂地で作業をする場合。
(3)固い農場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

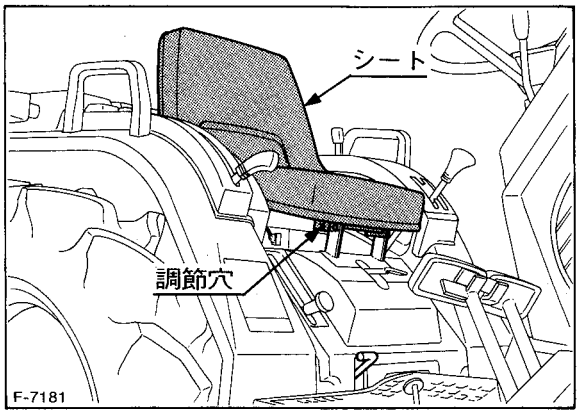
重　要

＊前輪駆動レバーは，“入”か“切”の位置にしてください。中間の位置で運転すると故障の原因になります。

■シート

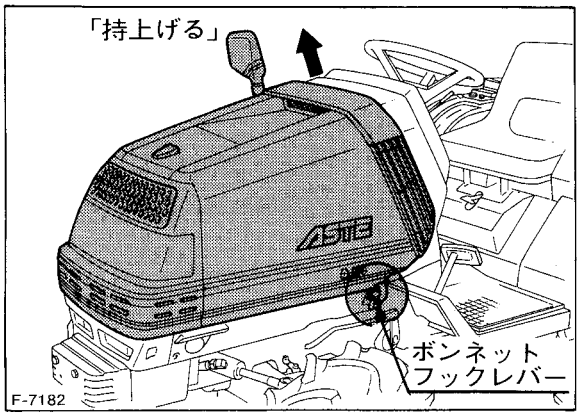
(1)シート下のピン穴を移動すると，前後２段階に調節できます。

(2)雨のときは，シートを前に倒しておくと座席がぬれません。



■ボンネットの開閉

ボンネットを開けるときは，両側のボンネットフックレバーを上げてフックを外し，ボンネット上面中央部を持上げると開きます。



重　要

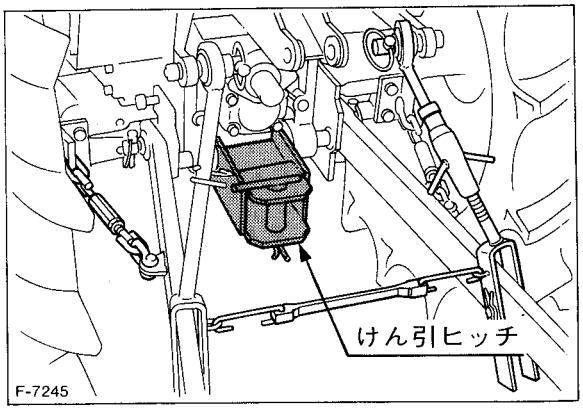
＊ボンネットは遮音効果を高めるため密閉方式となっております。作業時は必ずボンネットを閉じてください。

■けん引ヒッチ(別途購入品)

警　告

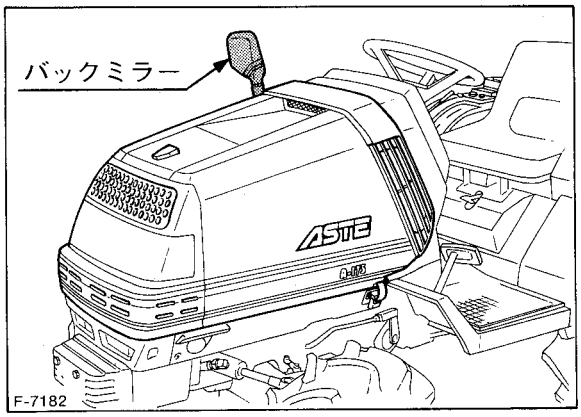
＊けん引作業をするときは，けん引ヒッチを必ず使用し，トップリンクブラケットや車軸等で引張らないようにしてください。転倒事故を引起こすおそれがあります。

＊三点リンクに取付け，PTO軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し，事故を起こすおそれがあります。



■バックミラー

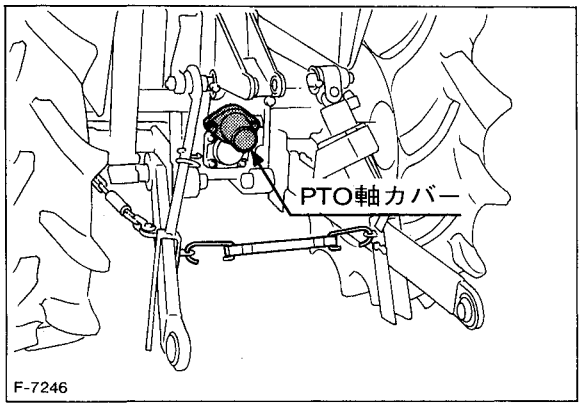
後方視野が十分確認できる位置に調整してください。



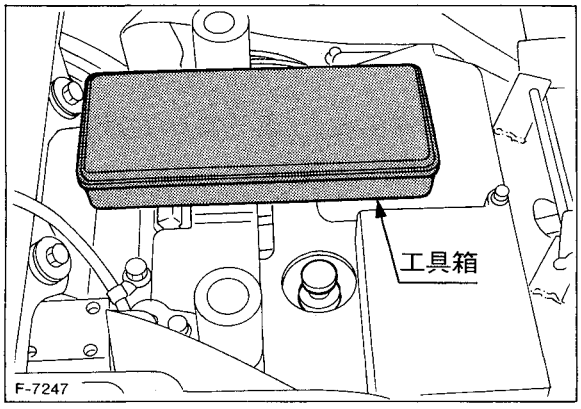
■PTO軸カバー

注　意

**＊PTO軸を使わないときは，PTO軸にグリースを塗布した後，カバーを取付けておいてください。
そうしないと巻込まれによる傷害事故を引起すおそれがあります。**



■工具箱



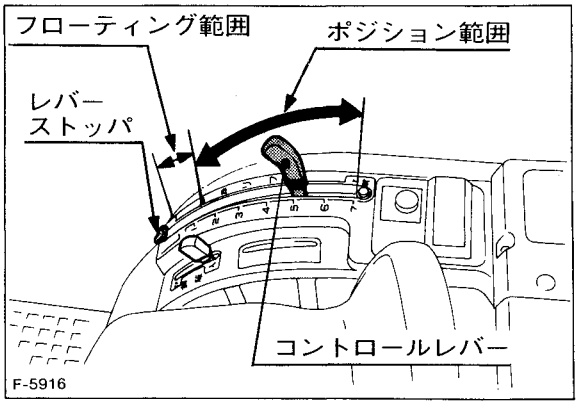
作業機昇降装置の取扱い

油圧装置は，エンジン回転中クラッチの断続に関係なく作動します。

■コントロールレバー

コントロールレバーは，油圧によって作業機を上下させる装置です。
レバーを後方に引く……作業機が上昇します。
レバーを前方に倒す……作業機が下降します。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲（目盛り表示）	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲（又はオート表示目盛りなし）	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機は止まらずいっぱいまで下がります。MA仕様ではオート耕うん作業ができます。



◆コントロールレバー【MA仕様】

安全のため，次の取扱い特性があります。

(1)エンジン始動後，コントロールレバーを元の位置(エンジン停止時の位置)又はそれ以上に上昇側へ操作しないと作業機は昇降しません。

(2)エンジン停止後，メインスイッチを**“ON”**にしてコントロールレバーを下げると，作業機は下降します。

◆レバーストッパの使い方

❶コントロールレバーで，希望する作業位置を決めます。

❷その位置にレバーストッパを固定します。

❸その後は，コントロールレバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

重　要

＊レバーガイド上昇側の端部にある固定ストッパは動かさないでください。動かすとコントロールレバーによる正常な昇降ができなくなります。

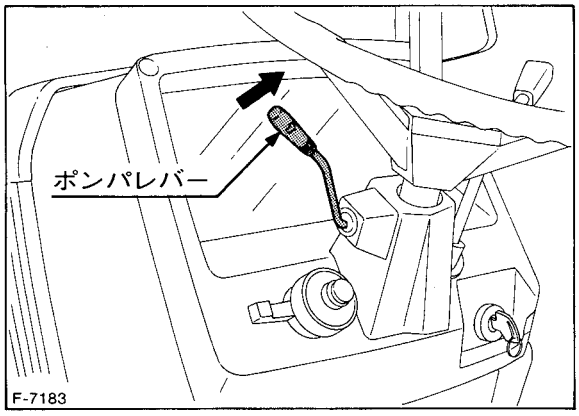
■ポンパレバー【MA仕様】

作業機を自由に上下させる装置で，ほ場内での旋回操作が便利になります。

ポンパレバーを上げる……作業機が上昇します。(ランプ点灯)

ポンパレバーを再度上げる……作業機が下降します。(ランプ消灯)

ポンパレバーを操作したときの作業機の下降位置はコントロールレバーで設定した位置になります。



注　意

＊走行中は必ずコントロールレバーを“上がる”にして，落下調整グリップを“油圧ロック”位置にしてください。

＊ほ場内作業以外ではポンパを使用しないでください。

重　要

＊ポンパレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

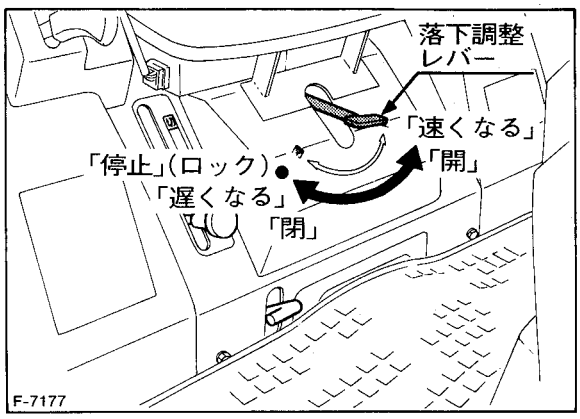
■作業機落下速度の調整

注　意

＊ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下調整レバーで，作業機が落下しないようにロックしてください。

落下調整レバーでロックした後，コントロールレバーを“下がる”の方向に動かして，作業機が落下しないことを必ず確認してください。

落下調整レバーを回すことにより調整できます。



ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。

特にオート耕うん時，落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

重　要

＊レバーは軽く回すだけで油圧がロックされますから無理に回さないでください。

モンローマチック【M仕様】・モンローマチックオート【MA仕様】の取扱い

モンローマチック及びモンローマチックオートは，マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

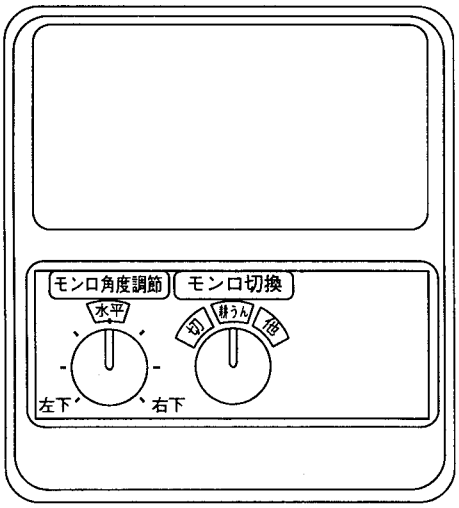
■スイッチの取扱い

スイッチは，メインスイッチが“ON”でないとモンローマチックは作動しません。

重 要

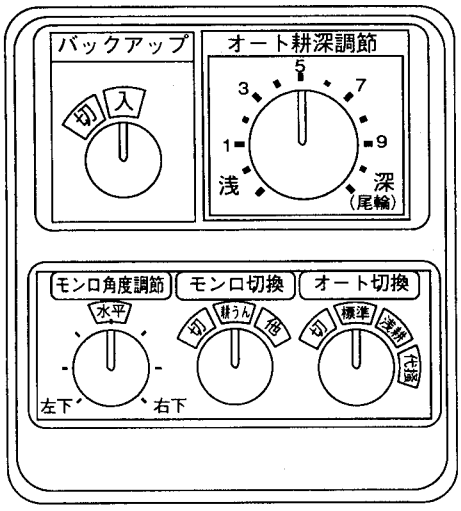
＊スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

[M仕様]



F-7307改

[MA仕様]



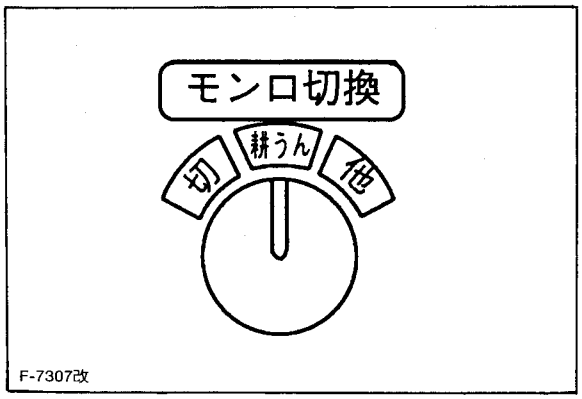
F-7307

◆モンローマチック切換えスイッチ

注 意

＊走行時は必ず“切”にして走行してください。また，落下調整レバーを回して油圧をロックし作業機の落下を防止してください。

モンローマチックの“入”，“切”などを選択するスイッチです。



F-7307改

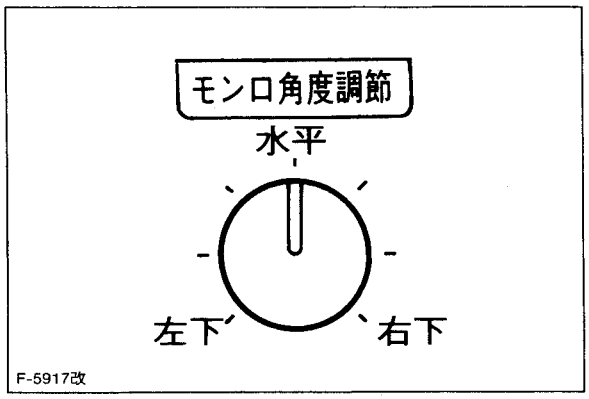
“耕うん” …… モンローマチックが作動します。標準ロータリ又は，取付け位置がそれに近い作業機を使うときに選択します。

“他” …… モンローマチックが作動します。標準３点リンク作業機を使うときに選択します。

“切” …… モンローマチックが解除され，運転席左の手動スイッチにより作業機を傾けることができます。

◆モンローマチック角度調節スイッチ

モンローマチック切換スイッチが**“耕うん”**又は**“他”**の場合，作業機の姿勢を調節するときに使用します。



(1)スイッチを**“水平”**位置にすると，作業機は水平に保持されます。

(2)スイッチを**“左下り”**方向に回すと，作業機が左下りに保持されます。

(3)スイッチを**“右下り”**方向に回すと，作業機が右下りに保持されます。

なお，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機は車体と平行に保持されます。

●次のような作業に効果があります。

(1)モンローマチック角度調節スイッチが**“水平”**の場合(トラクタ本体の傾きにかかわらず，作業機は水平になります。)

①水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん。

②整地板，ドライブハローなどによる均平作業

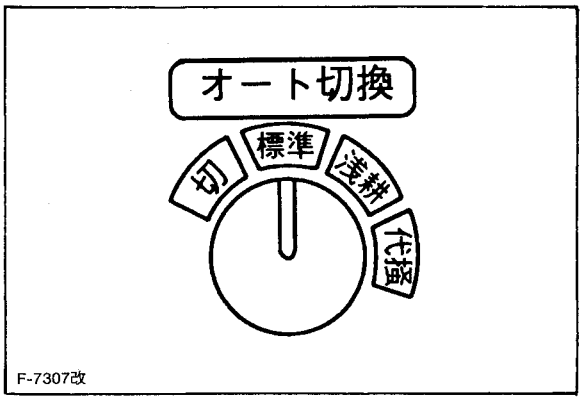
③畑での畝立て，畝崩し作業，その他

(2)モンローマチック角度調節スイッチが**“水平”**以外の場合

①広幅畝立て，その他

◆オート切換えスイッチ【MA仕様】

オートの**“入”**，**“切”**及びオート耕うんの感度を調整するスイッチです。



“標準”……標準的なほ場での耕うん作業は，この位置を使用します。

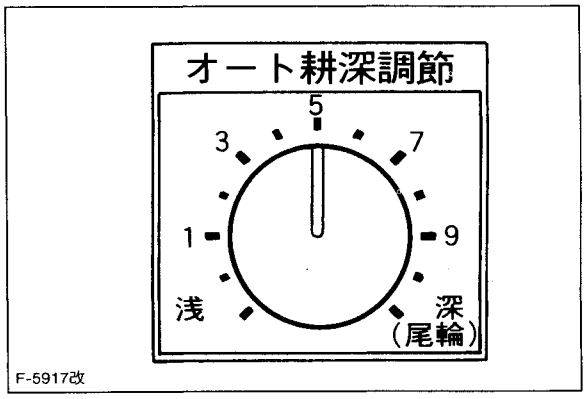
“浅耕”……耕深10cm未満の浅耕しをするときは，この位置を使用します。

“代掻”……ほ場の硬軟あるいは凹凸の変化が激しく，エンジンに無理がかかるとき，この位置で使用します。代かき作業や強湿田耕起では，この感度が有効です。

“切”……オート耕うんは作動しません。

◆オート耕深調節スイッチ【MA仕様】

オート切換えスイッチが**“切”**以外の場合，ロータリの耕うん深さを調節するときに使用します。



＊スイッチを**“浅”**方向へ回すと，ロータリの耕深が浅く保持されます。

＊スイッチを**“深”**方向へ回すと，ロータリの耕深が深く保持されます。

＊スイッチを**“尾輪”**位置まで回すと，オートが作動しない状態になります。

● 下表を参考にしてください。

目盛り位置	作業内容
0 ～ 4	浅起し・代かき
3 ～ 7	一般耕うん
6 ～ 9	深起し

補　足

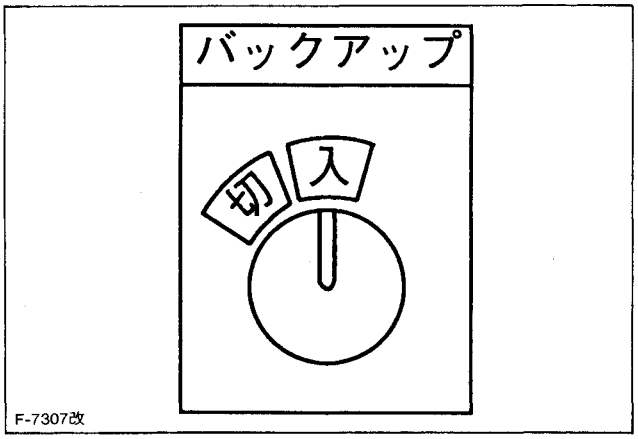
＊目盛りは深さの目安として表示しています。同じ目盛り位置でもほ場条件が変わると深さの設定が変わります。

＊オート耕うん時の深さ調節は必ずこの“オート耕深調節スイッチ”を使用してください。コントロールレバーによるオート耕うんの深さ調節はできません。

＊ロータリのスライドカバーを調節すると耕深が変ります。スライドカバーを調節したときは再度オート切換えスイッチ及びオート耕深調節スイッチで耕深調節を行なってください。詳細は80ページ参照。

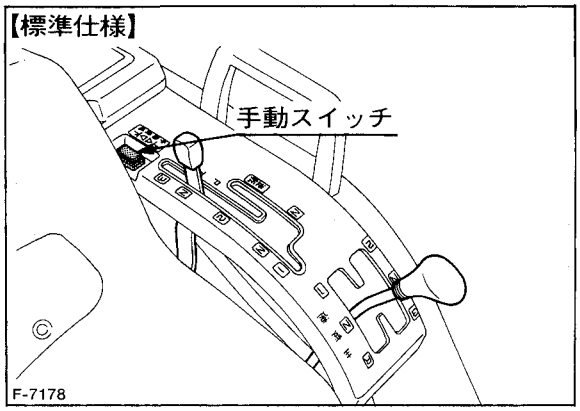
◆バックアップスイッチ【MA仕様】

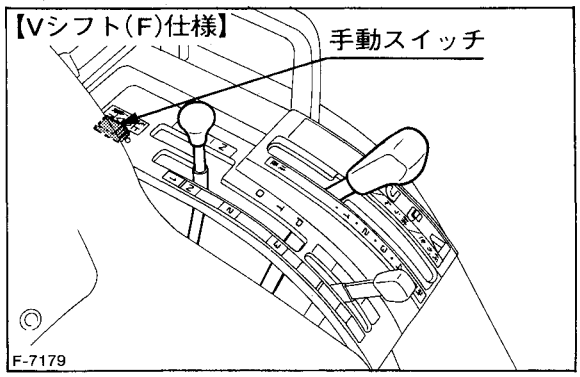
主変速レバー(F仕様の場合はVシフトレバー)を後進位置にすると，作業機が上昇する装置です。



■手動スイッチ

モンローマチックシリンダの伸縮，又は緊急用としてコネクタを差換えることにより作業機の昇降ができます。





◆モンローマチック手動スイッチとして使用する場合

モンロー切換えスイッチが**“切”**のとき，手動スイッチにより作業機を任意の角度に保持できます。

◆作業機の昇降(緊急用)スイッチとして使用する場合【MA仕様】

注　意

＊コントロールボックスが故障し，緊急昇降スイッチとして使用したときは，作業終了後，速やかに修理して，緊急時以外は絶対に昇降スイッチとして使用しないようにしてください。通常はモンローマチック手動スイッチとして使用してください。

▶もし怠ると……

スイッチの誤操作によりロータリが落下し，傷害事故を引起すおそれがあります。

コントロールレバーやポンパレバーで作業機の昇降ができないとき，緊急用として手動スイッチのコネクタ(青色)をワイヤハーネスの白色コネクタに接続してください。

使用後は，購入先の診断を受けてください。

■モンローマチック・オートの適合作業

注 意

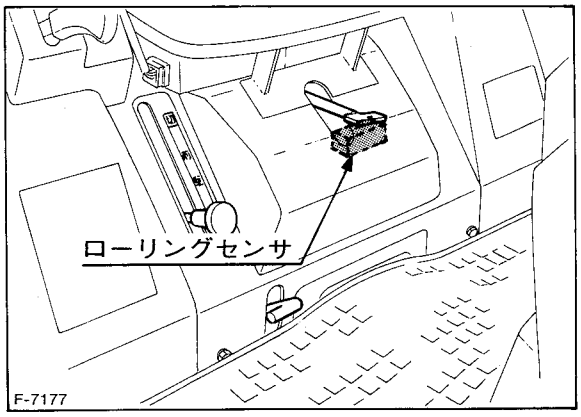
＊走行時には必ずモンローマチック切換えスイッチを“切”にして走行してください。
又，落下調整レバーを回して作業機の落下を防止してください。

作業内容	作動する装置	
	モンローマチック	オート
ロータリ耕起，整地作業など	○	○
ロータリ耕起，培土，マルチなど	○	—
傾斜地の耕起など	—	○

(1)尾輪を取付けてロータリ作業を行なうときは，オート耕深調節を**“尾輪”**位置にするか，もしくは，オートを**“切”**にしてください。
(2)畝立て作業や片培土作業などロータリリヤカバーを持上げて作業を行なうときは，オート耕深調節を**“尾輪“**位置にするか，もしくは，オートを**“切”**にしてください。
(3)モンローマチック・オートが不要な作業(フロントローダ作業など)では，モンロー，オートを**“切”**にしてください。
(モンローマチック切換えスイッチ，オート切換えスイッチを**“切”**にする。)
(4)センサなど電子部品にはスチームクリーナなどでの直接洗浄は避けてください。

■ローリングセンサの取扱い注意

ローリングセンサは，車体の傾きを感知する電子部品です。

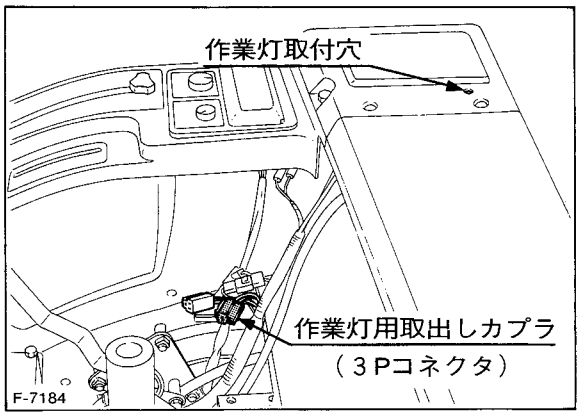


重 要

＊たたいたりして衝撃を与えると機能が低下しますので，取扱いには注意してください。

■作業灯の使い方(別途購入品)

作業灯は純正部品(品番：96314-15401)を使用してください。



重 要

＊作業灯電源を他の電源に使用しないでください。どうしても使用したい場合は，購入先にご相談ください。

■インプルメントの取扱い

◆インプルメントの装着について

モンローが働き，リフトシリンダが伸縮するとトラクタと作業機が接触する場合がありますので，作業前に接触しないことを確認してから作業してください。

◆リフトシリンダを取外す場合

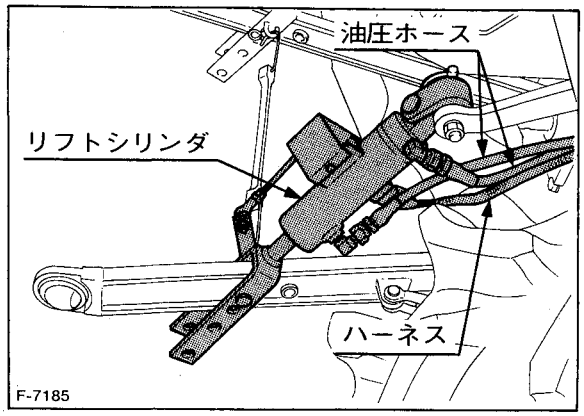
リフトシリンダを取外すときは，次の要領で行なってください。

❶ストロークセンサのハーネスを外します。

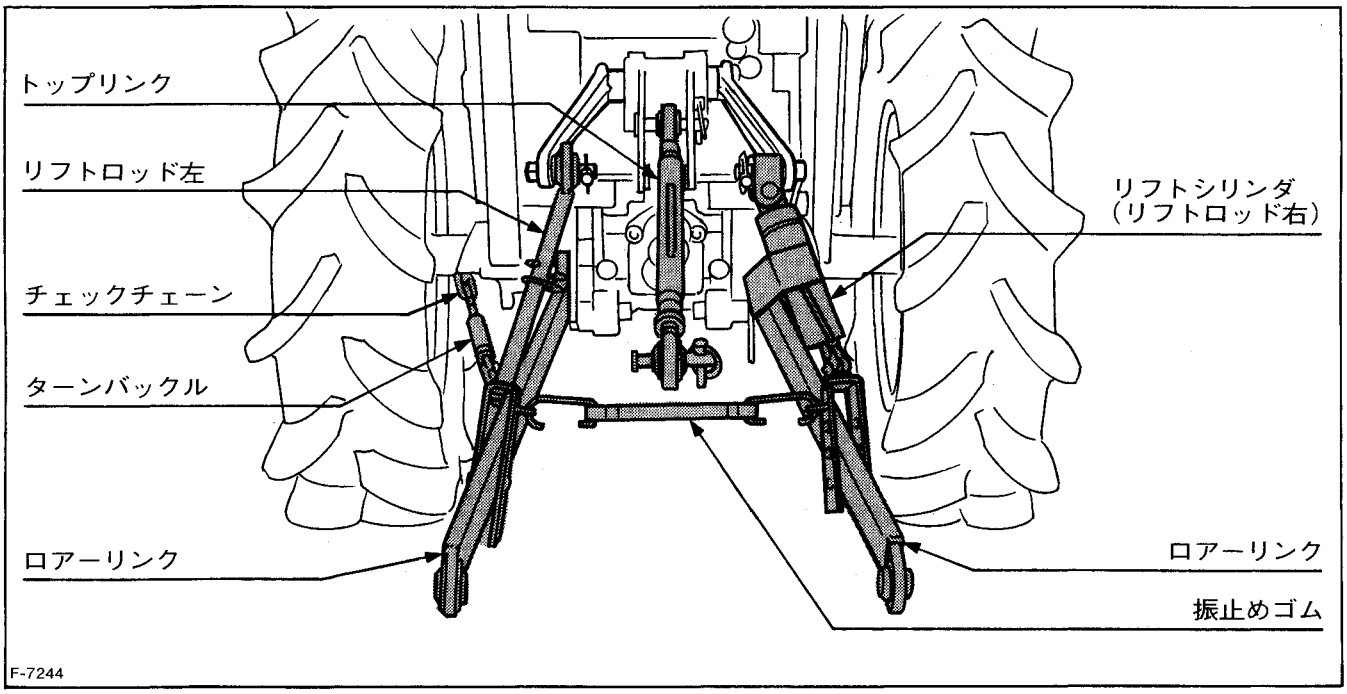
❷油圧ホース２本をリフトシリンダ側で外し，先端どうしを接続してください。

❸外したハーネスと油圧ホースを，タイヤに巻込まないよう固定してください。

❹リフトシリンダを取外してください。



三点リンク装置の取扱い(P仕様：一般作業機用)



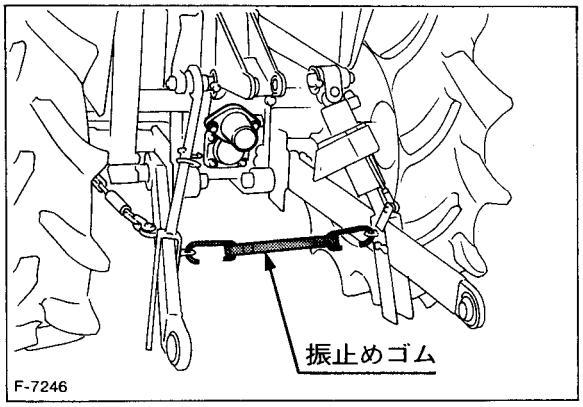
(1)３点リンクは，JIS０形です。

(2)ロータリ用特殊３Pとトップリンクアッシのみが異なります。

ロータリ用から交換される場合は，トップリンクアッシ(品番67950-7171-0)が必要です。

■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振れ止めをしておいてください。

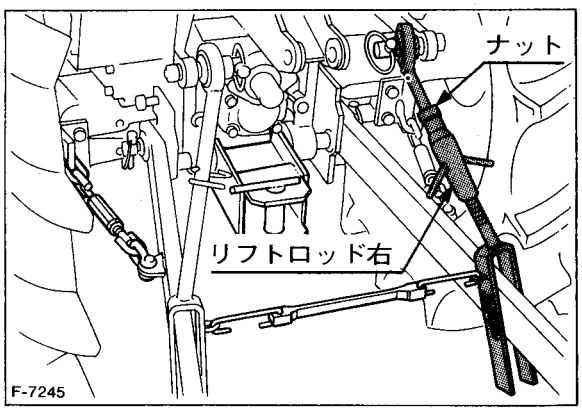


■トップリンクの調整

(1)伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。
(2)トップリンク取付け位置は，作業機の種類によって違います。

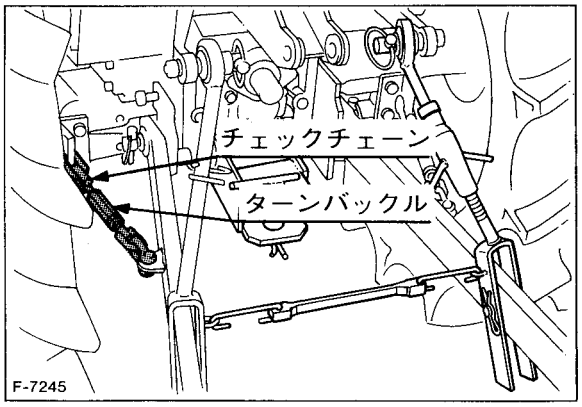
■リフトロッドの調整【M・MA仕様以外】

(1)リフトロッド右を操作して，作業機の水平を合せてください。
(2)調整後は，リフトロッド右をナットで固定してください。



■チェックチェーンの調整

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。



輪距の調整

注　意

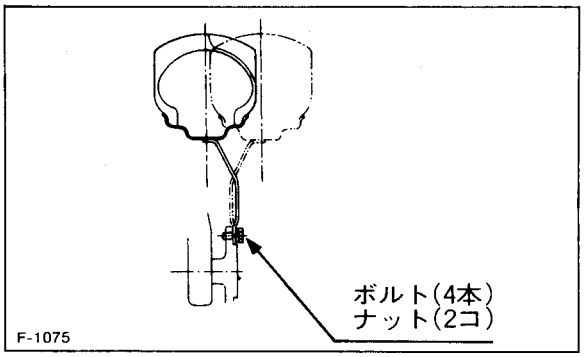
＊けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くする為，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

■前輪

前輪輪距は変更できません。

■後輪調節のしかた【標準仕様】

後輪輪距は２段階に調節できます。



◆後輪の交換手順

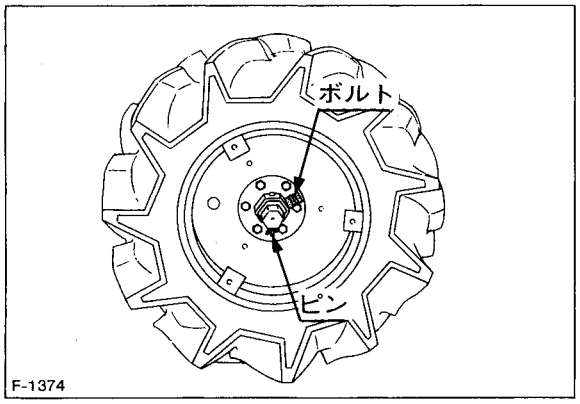
❶ボルト・ナットをゆるめた後，ジャッキで左右の後輪を浮かします。
❷ボルト・ナットをはずし，左右のタイヤを入換えます。
❸交換後はボルト・ナットを確実に締付けてください。

補　足

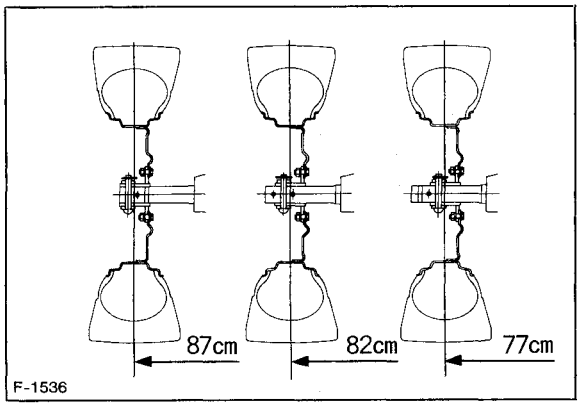
＊タイヤは側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
＊ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。

■後輪調節のしかた【V仕様】

後輪は，六角ホイールチューブと六角ハブによって，ピン１本とセットボルトで止められており，ピン穴の位置を変えることによって調節できます。



後輪の輪距は３段階に調節できます。



補　足

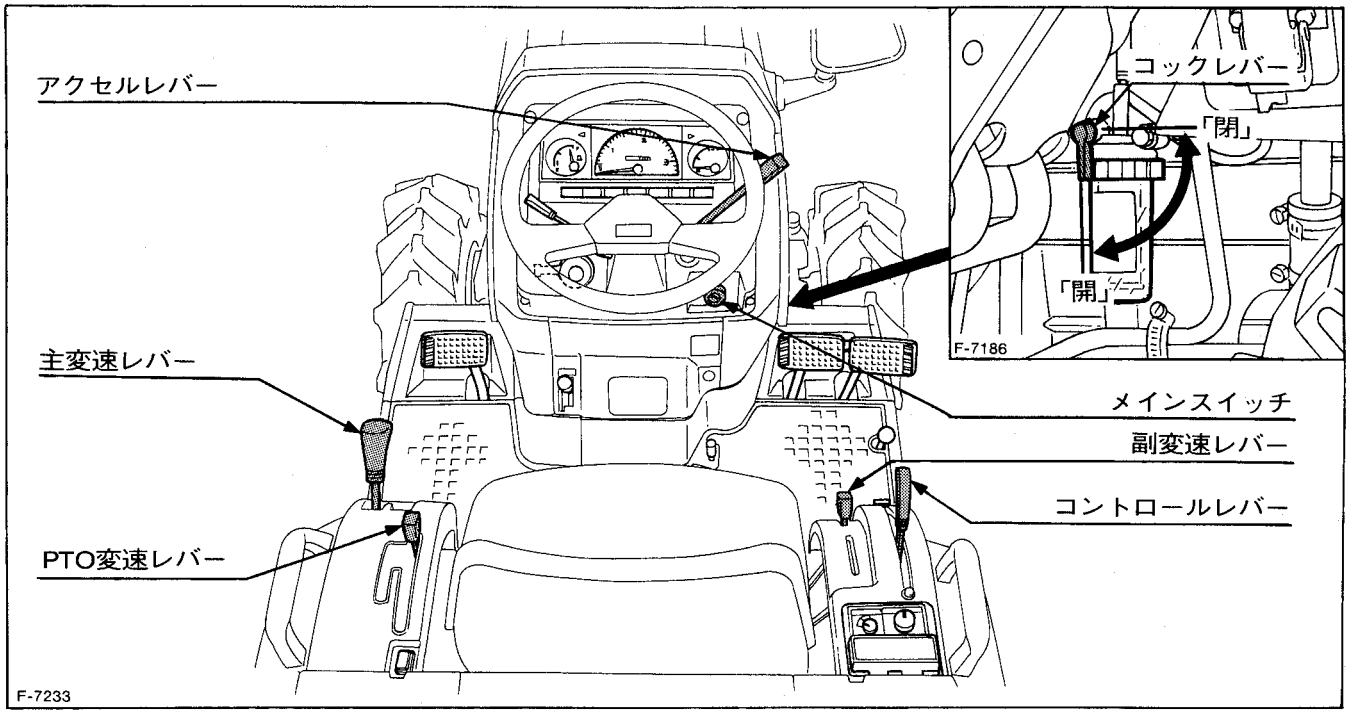
＊タイヤは側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。

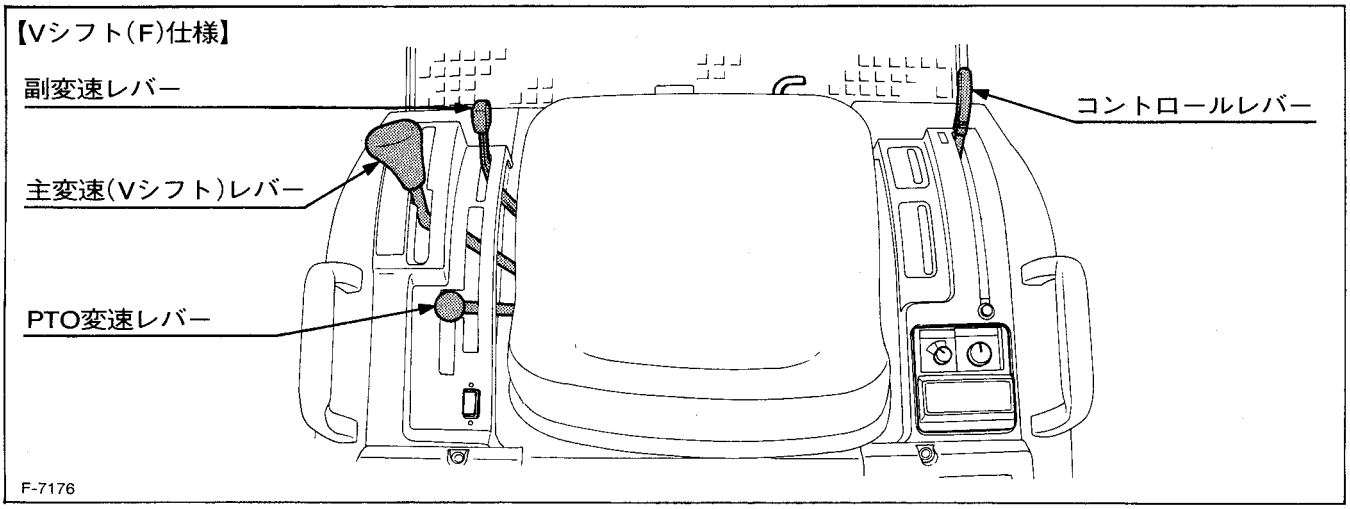
上手な運転のしかた

エンジンの始動と停止

注 意

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やPTO変速レバーが“中立”かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。換気が不十分であると排気ガスにより一酸化炭素中毒になるおそれがあります。





■始動のしかた

❶燃料コックを**“開”**にします。
❷主変速レバー(Vシフト(F)仕様の場合はVシフトレバー)，副変速レバー(Vシフト(F)仕様のみ)及びPTO変速レバーを**“中立”**にします。
❸コントロールレバーを**“前方に倒し”**作業機を下げます。
❹アクセルレバーを**“中程”**まで引きます。
❺メインスイッチにキーを差込み，**“GL”(予熱)**位置に回し，グローランプが消灯すれば予熱完了です。
但し，外気温が－5℃以下のときは，消灯後も約5秒間予熱してください。
- エンジンが暖まっている場合**“GL”(予熱)**は，不要です。

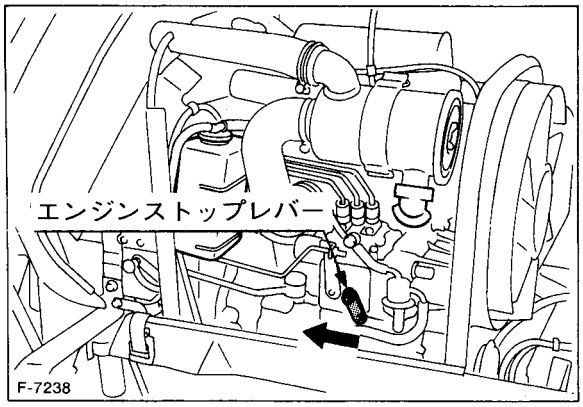
❻クラッチペダルを**“踏込み”**ます。
❼キーを**“ST”(始動)**位置に回します。
❽エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。自動的に**“ON”**にもどります。
❾クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま5分程度暖機運転しましょう。

重　要

＊クラッチペダルを踏込まないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。
＊セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。
＊エンジン回転中は，キーを“ST”(始動)位置にしないでください。セルモータ破損の原因になります。

■停止のしかた

❶アクセルレバーをいっぱい前へ**“押し”**てアイドリング状態にします。
❷メインスイッチのキーを**“OFF”**の位置にするとエンジンは停止します。
万一停止しないときは，ボンネットを開けエンジン横のエンジンストップレバーを矢印側にいっぱい動かすと停止します。



❸キーを**“OFF”**にし，必ずキーは**“抜き”**ましょう。

ならし運転と暖機運転

■ならし運転について
(最初の約60時間)

この期間中は，特に次のことを守ってください。
(1)急なスタート，急ブレーキは避けてください。
(2)フルスピードや無理な負荷をできるだけかけないようにしましょう。
(3)作業は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
(4)悪路や傾斜地では，速度を落としゆっくりと走行しましょう。

■暖機運転について

始動後，約5分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

◆Vシフト(F)仕様，BS仕様

これらの仕様機は，ミッション(Vシフト(F)仕様)やステアリング(BS仕様)を油圧で作動し，その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しております。そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な機能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　温	暖機運転時間
0℃以上	約5分間
0℃以下	10分間以上

重　要

＊暖機運転中は必ず駐車ブレーキをかけましょう。

バッテリあがりの処置

注 意

＊バッテリがあがった場合，必ず車体からバッテリを取外して充電してください。バッテリを取外さずに他車のバッテリまたは充電器とブースタケーブルで接続してエンジンを始動すると、バッテリ端子と冷却ファンが近いため、ケーブルを外すとき指を切傷するおそれがあります。また、過電流により電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。

（バッテリの取扱いについては“簡単な手入れと処置”の“電気系統について”の項を参照）

走行運転のしかた

警 告

＊トラクタを発進するときは，前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。また安全フレームに当る障害物がないかも確認してください。

＊子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また必ずシートに座って運転してください。

＊溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。転落事故の危険性があります。

＊急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。

＊下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りるのは危険です。

＊負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。

＊高速で旋回すると，横転する危険があります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。

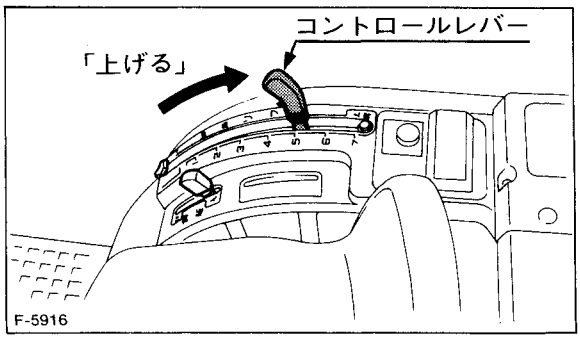
＊運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

■発進・走行のしかた

❶左右のブレーキペダルは，必ず“**連結**”しておいてください。

❷エンジン回転をアイドリングから“**中速**”回転にします。

❸コントロールレバーを“**後方に引き**”作業機を上げます。



以下，仕様により操作が異なります。

【標準仕様】

❹クラッチペダルを**“踏込み”**，主変速レバー及び副変速レバーを希望する位置に**“入れ”**ます。

❺駐車ブレーキを解除し，クラッチペダルをゆっくり離せば，トラクタが動き始めます。

重 要

＊走行中は変速することはできません。必ずクラッチペダルを踏込んでトラクタを停止させてから，変速操作をしてください。

＊走行中は，クラッチペダルの上に足を乗せないようにしましょう。
足を乗せるとクラッチがすべっている状態になり摩耗が早くなります。

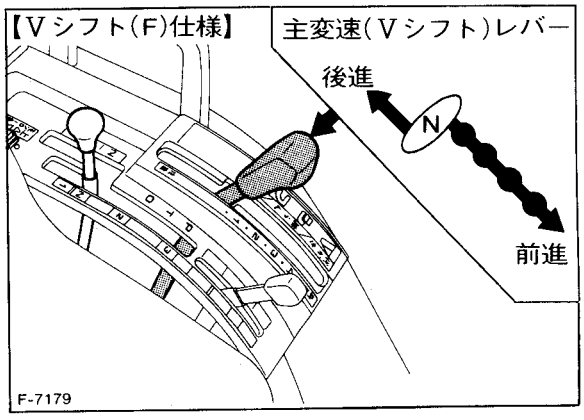
＊クラッチペダルの操作は，切るときは早く，つなぐときはゆっくり操作してください。
半クラッチ操作は，クラッチの摩耗を早めますので，できるだけ避けてください。

【Vシフト(F)仕様】

注 意

＊安全のため，主変速(Vシフト)レバーの急激な変速は避けてください。また，前後進の切換えはレバーを“N”の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

❹主変速(Vシフト)レバーが**“N”**の位置にあることを確認してください。



❺クラッチペダルを**“踏込み”**，副変速レバーを**“低”**又は**“高”**に**“入れ”**ます。

❻駐車ブレーキを解除し，クラッチペダルをゆっくり離します。

❼主変速(Vシフト)レバーをゆっくり前進方向に動かすと，トラクタが動き始めます。希望する速度になる位置まで，レバーを動かしてください。

- 主変速(Vシフト)レバー操作は，走行中にノンクラッチで変速することができます。

❽トラクタを効率よく性能を維持して使っていただくために，作業はできるだけエンジン1500回転/分以上で行ないましょう。

重 要

＊副変速レバーの切換えは，必ず主変速(Vシフト)レバーを“N”の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

＊副変速レバーは，走行中に変速することはできません。クラッチペダルを踏込んでトラクタを停止させてから行なってください。

＊副変速レバーの操作時，レバーが入りにくくなるときがあります。そのときは，副変速レバーを“N”に戻しクラッチをつないでください。
そのままVシフトレバーを少し動かしてから“N”に戻し，再度クラッチペダルを踏込み副変速レバーを操作してください。

＊Vシフトレバーを前進または後進にしたままクラッチを使用して発進させないでください。

＊走行中は，クラッチペダルの上に足を乗せないようにしましょう。
足を乗せるとクラッチがすべっている状態になり摩耗が早くなります。

＊クラッチペダルの操作は，切るときは早く，つなぐときはゆっくり操作してください。
半クラッチ操作は，クラッチの摩耗を早めますので，できるだけ避けてください。

■停車・駐車のしかた

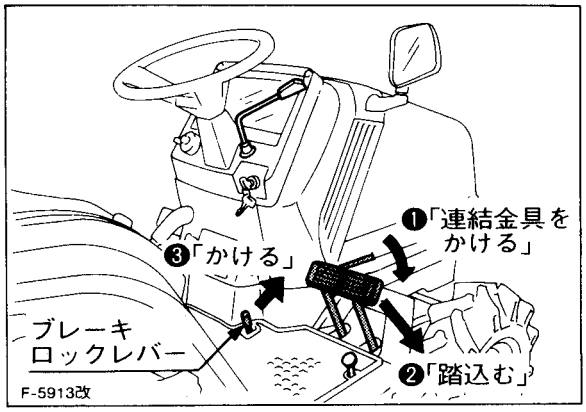
警 告

＊Vシフト(F)仕様は油圧ミッションのため，変速ギヤを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さない様，必ず駐車ブレーキをかけてください。

注 意

＊駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTOを“切”，作業機を“下げ”，変速レバーを“中立”，駐車ブレーキを“掛け”，エンジンを“停止”してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。
＊格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。火災の原因になります。
＊停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火するおそれがあります。
＊トラクタから降りるときは，ロータリなどのPTO作業機が完全に止まるまで待ってください。

❶アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。
❷クラッチ及びブレーキペダルを踏込みます。
❸トラクタが完全に停止してから，主変速レバー(Vシフト(F)仕様はVシフトレバー)及び副変速レバーを**“中立”**にします。
❹作業機を取付けている場合は、コントロールレバーをゆっくり**“前方に倒し”**作業機を下げます。
❺駐車ブレーキを確実にかけてください。



❻メインスイッチのキーを**“OFF”**にして，エンジンを停止します。

■運転中の作動点検

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，絶えず注意してください。

◆オーバヒートしたときの処置

警 告

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

オーバヒート(水温計の針が**“H”**にあるとき)したときは，
❶作業を中止し，
❷エンジンを約５分間アイドリング回転してから，
❸エンジンを停止し，安全ポイントに注意して，次の点検・整備をしてください。
(1)冷却水の量(不足)，及び水もれがないか。
(2)防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
(3)ファンベルトのゆるみがないか。

◆次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。
(1)回転が急に下降したり上昇したりする。
(2)突然，異常な音をたてた。
(3)排気色が急に黒くなった。
(4)運転中，オイルランプが点灯した。
● 点検整備は，購入先にご相談のうえ，その指示にしたがってください。

■旋回のしかた

注 意

＊高速で回ると，横転する危険があります。
デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落としゆっくりと回ってください。

■坂道での運転

警 告

＊ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊坂道では主変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
＊Vシフト(F)仕様は，油圧ミッションのため，標準仕様よりエンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速(Vシフト)レバーで減速してください。

(1)坂道状況に応じた安全なスピードで，走行しましょう。
(2)登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
(3)下り坂ではエンジンブレーキを使いましょう。エンジンブレーキは車速を下げるほどよくききます。

■ほ場への出入り時の注意

警 告

＊左右のブレーキペダルは，必ず“連結”しておいてください。
＊ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。
＊ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。
＊Vシフト(F)仕様は，油圧ミッションのため，標準仕様よりエンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速(Vシフト)レバーで減速してください。

(1)登り始めは，作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。
トクラタの前・後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。
常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
(2)４WDは，あぜなどバックで上がると格段に能力が増します。

■トラックへの積み・降ろし

注 意

＊アユミ板は，十分な強度・幅・長さ(傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの４倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊積み・降ろしは，あらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。
＊トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを“連結”しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

■道路走行中の注意

警 告

＊道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
もし連結しないとブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起すおそれがあります。

注 意

＊ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊溝のある農道や両側が傾斜している農道を走行するときは，特に路肩に注意してください。
転落事故の危険性があります。
＊トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。(道路運送車輌の保安基準)
作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどに引掛けて，事故の原因になります。
＊道路走行時にはモンロ切換えスイッチを必ず“切”にして走行してください。

(1)公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
(2)夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ライティングスイッチを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。
(3)踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。

補　足

＊作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において，“走行中に使用しない灯火”とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

パワーステアリングの取扱い上の注意【BS仕様】

注　意

＊ハンドル操作は大変軽くなりますので，道路走行は慎重に行なってください。

重　要

＊パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。
ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。
なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ドッキングローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音(リリーフ音)が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。(短い時間ではかまいません。)また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊不必要なハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

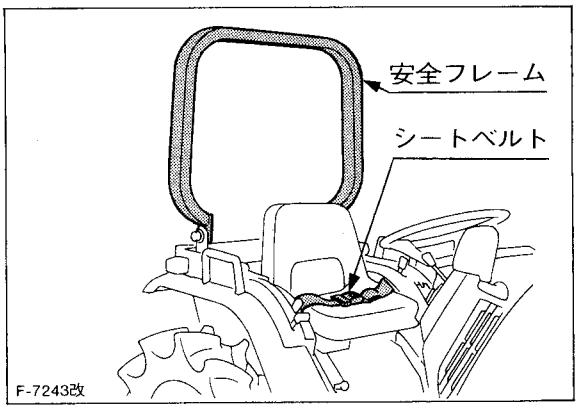
安全フレームとシートベルトについて【K仕様は除く】

警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。
＊トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。
＊納屋の出入りなど，安全フレームが当る場所を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，必ずシートベルトを着用してください。
＊安全フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは，折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。
＊安全フレームの改造を絶対にしないでください。又 強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。
＊安全フレームを立てたときは，ストッパを入れてノブボルトで確実に固定してください。また日常点検時，ノブボルトにゆるみがないか確認してください。
＊安全フレームが確実に固定されているか確認してください。
＊シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。
＊安全フレームを折りたたんだり，立てたりする時は，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを切り，駐車ブレーキをかけてから行ってください。

補　足

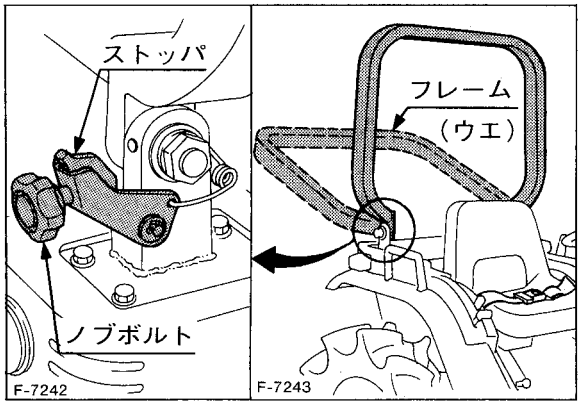
＊安全フレームは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。



■安全フレームの取扱い

◆折りたたみ方法

ノブボルトをゆるめてストッパを後方へ回動させると，フレーム(ウエ)を後方に折りたためます。



安全フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。

◆組立て方法

フレーム(ウエ)を前方に起こし，ストッパを入れてノブボルトでしっかりと確実に固定してください。(ノブボルトが締まっていないと，フレーム(ウエ)がガタつきノブボルトが折損することがあります。)

ロータリ装置について

耕うん爪の取付け方

注　意

爪の交換及び増締めするときは，傷害事故を引起すおそれがありますのでつぎのことを守ってください。

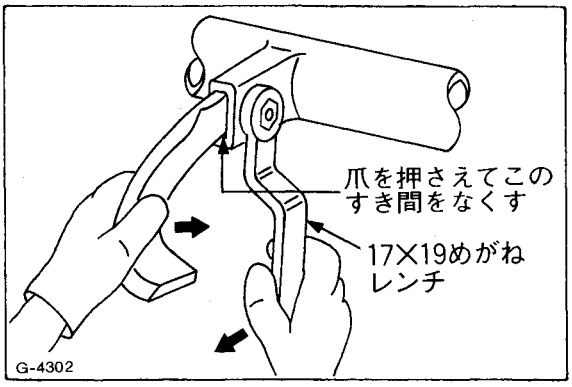
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。

＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。

＊落下調整レバーを，右いっぱいに回し，ロータリの落下を防止する。

＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保する。

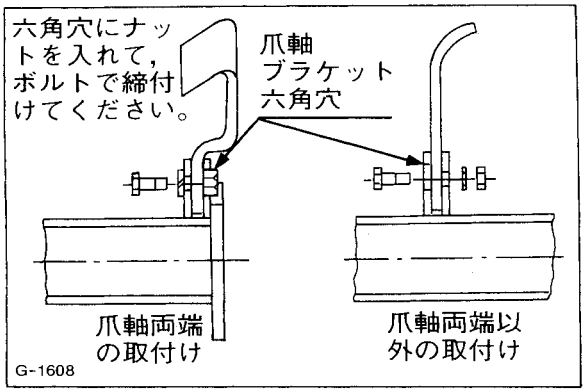
＊ボルト・ナットを締付ける場合は，めがねレンチが確実に入ったか確認する。



補　足

＊めがねレンチで，力いっぱい締付けてください。（めがねレンチをナットやボルトの頭に確実に差込み，外れないように注意してください。）

■サイドドライブ仕様



〔サイドドライブロータリ〕

爪軸両端（白ペンキを塗ったブラケット）	爪軸両端以外（白ペンキを塗っていないブラケット）
322号爪	321号爪

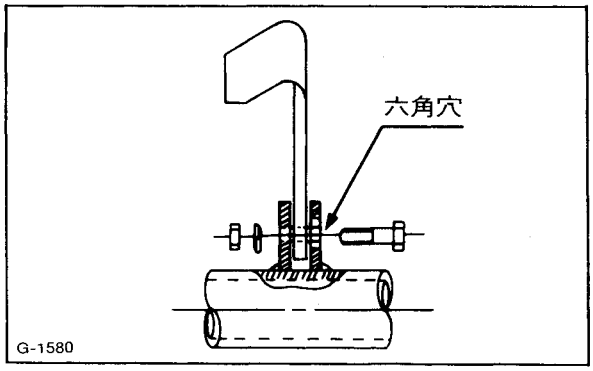
■センタドライブ仕様

◆爪軸

(1)321号爪を取付けます。

(2)ブラケットの六角穴と逆方向に，曲がりがくるようにして取付けてください。

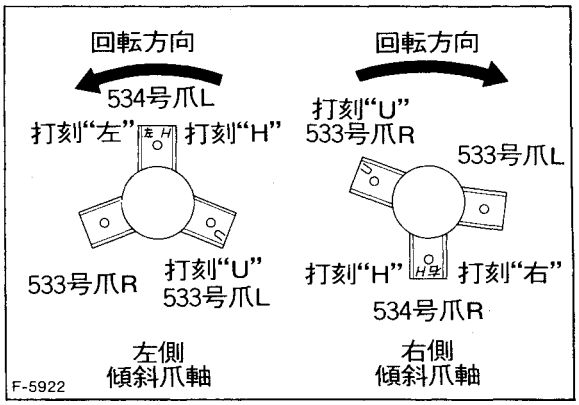
(3)ボルトは六角穴側より入れ，反対側よりバネ座金を入れ，ナットで締付けてください。



◆傾斜爪軸

(1) **“H”** の刻印のあるブラケットには，534号爪を内向きに取付けてください。

(2) **“U”** の刻印のあるブラケットには，533号爪を下図のように取付けてください。



(3)残りのブラケットには，533号爪を上図のように取付けてください。

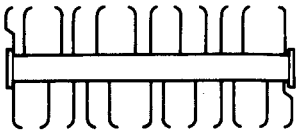
補　足

＊爪を抜いて作業すると，爪のバランスが狂い，振動や騒音がでることがありますので，ご注意ください。

＊耕うん爪は，クボタ純正部品を使用してください。

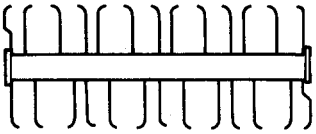
■均平耕法の配列

◆RSP105



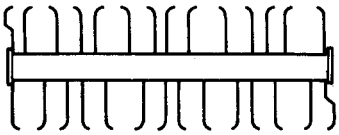
F-5974改

◆RSP115



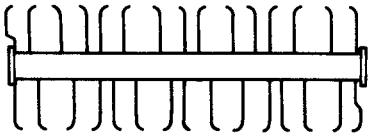
F-5975改

◆RSP125



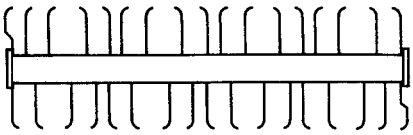
F-5976改

◆RSP135



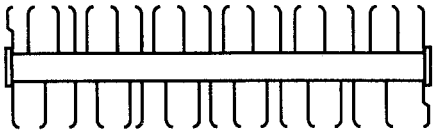
F-5977改

◆RSP155



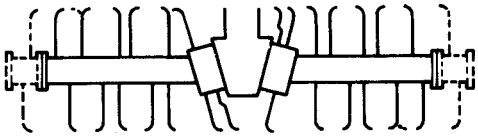
F-5978改

◆RSP165



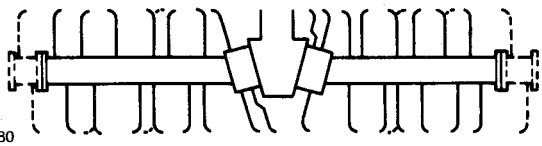
F-7248

◆RKP105

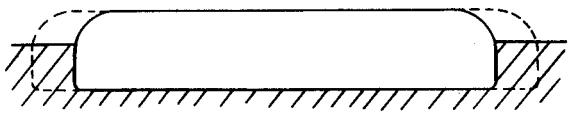


F-5979

◆RKP125



F-5980



G-1583

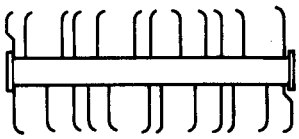
(点線は延長爪軸付きの場合を示す。)

■1つ盛り耕法の配列

爪軸中央を基準とし他の爪はすべて内向きになるように取付けてください。

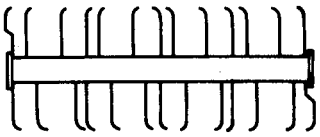
このとき，ロータリカバーを上げて，カバーが耕うんした土壌に当らないようにします。

◆RSP105



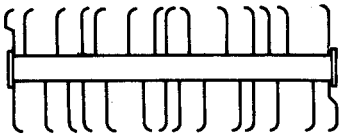
F-5981改

◆RSP115



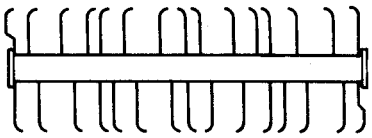
F-5982改

◆RSP125



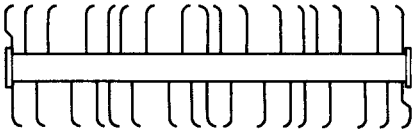
F-5998改

◆RSP135



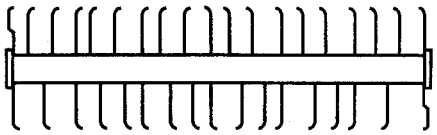
F-5999改

◆RSP155



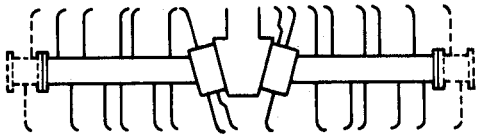
F-6000改

◆RSP165



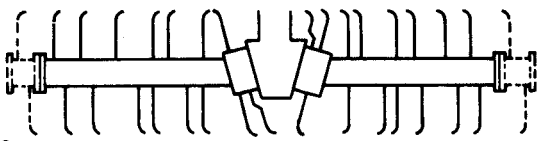
F-7249

◆RKP105

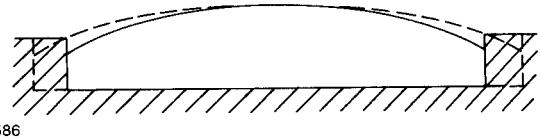


F-6001

◆RKP125



F-6002



G-1586

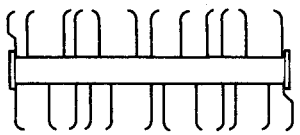
■２つ盛り耕法の配列

〔畝立て作業(１連畝立て)の配列〕

爪の配列は下図のように取付けてください。

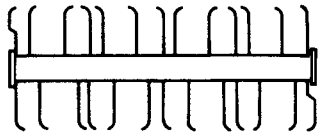
このとき，ロータリカバーを上げて，カバーが耕うんした土壌に当らないようにします。

◆RSP105



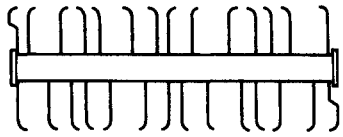
F-6003改

◆RSP115



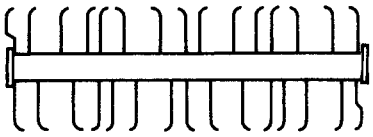
F-6004改

◆RSP125



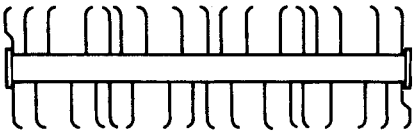
F-6005改

◆RSP135



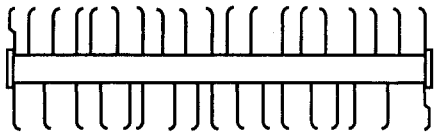
F-6006改

◆RSP155



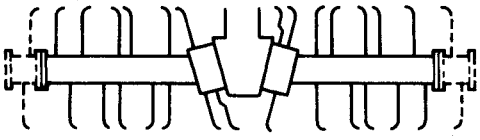
F-6007改

◆RSP165



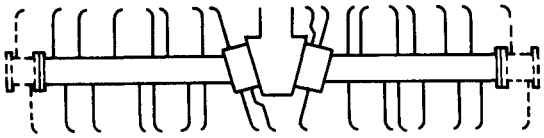
F-7250

◆RKP105

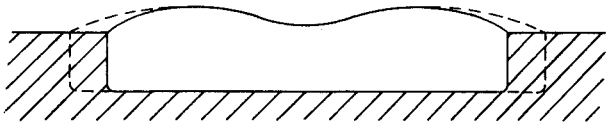


F-6008

◆RKP125



F-6009



G-1589

ロータリの調整

■適応作業速度

作業目的と耕作地の条件に合せて，車速を決めてください。

下表は，作業のめやすとして参照してください。

変速レバー位置と作業				
PTO / 車速		1段	2段	3段
Vシフト(F)仕様	標準仕様			
耕うん	1速	水田畑作（荒起し 畝立て）	水田畑作（細土耕うん 一般耕うん 畝立て）	
	2速			
	3速			
代かき	4速	代かき作業		

■ロータリカバーの調整

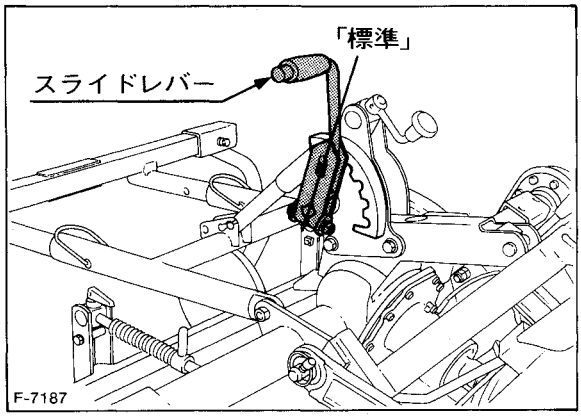
補　足

＊ロータリのスライドカバーやフラップカバーを調節すると耕深が変わります。調節後は運転席右のオート切換えスイッチ及びオート耕深調節スイッチで耕深調節を行なってください。【MA仕様】
詳細は80ページ参照。

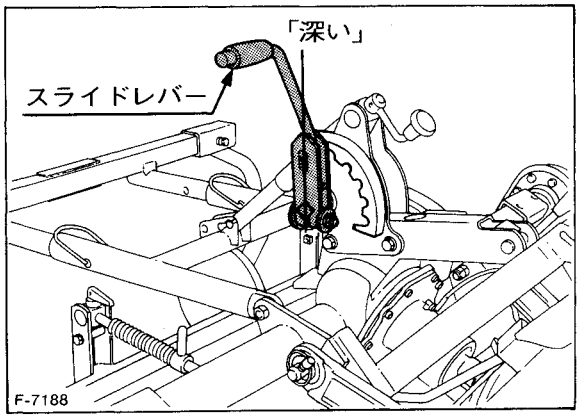
◆スライドカバーの使用法【サイドドライブ仕様】

スライドレバーの操作は，作業によって，下図を目安に使い分けてください。

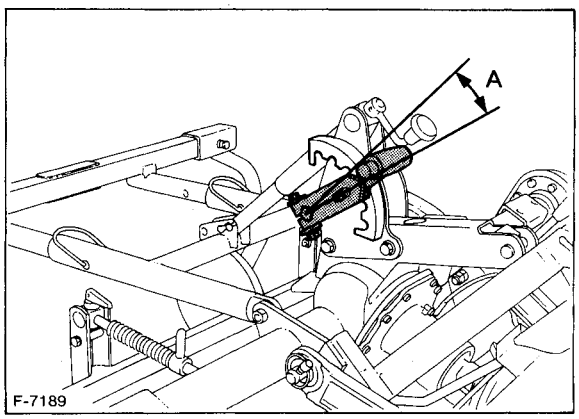
一般耕うん作業 —— **“標準”** の位置



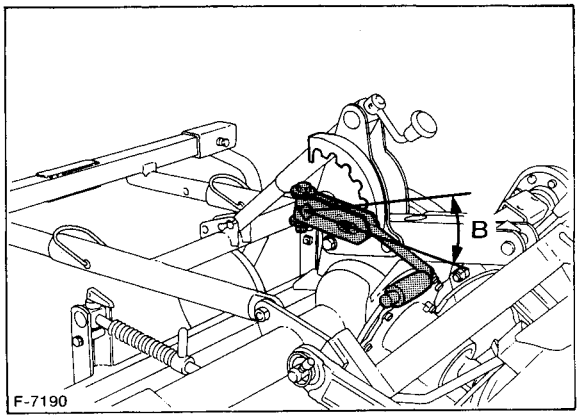
深起し・耕うん作業 —— **“深い”** の位置



浅起し・耕うん作業 —— **“A”** の範囲

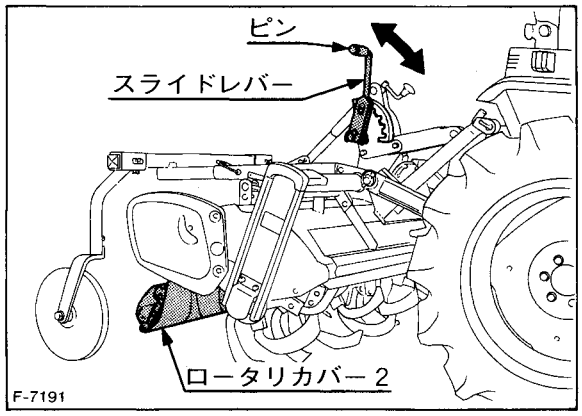


代かき作業 —— **“B”** の範囲



補　足

＊土の附着によりスライドレバーの操作が重くなることがあります。その場合はロータリカバー２の下部の土を落とし，ピンを押しながら，レバーを前後方向に操作してください。

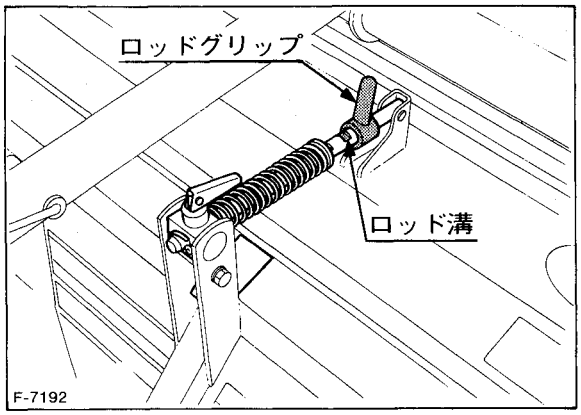


重　要

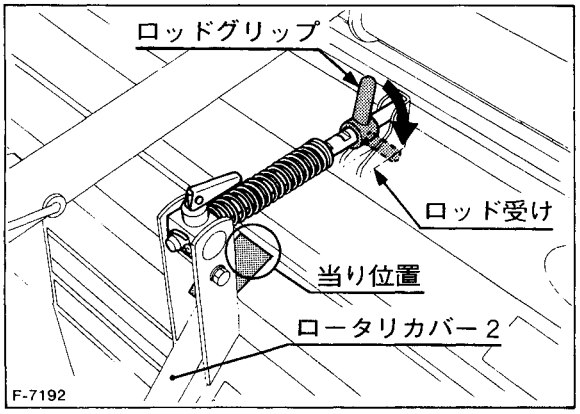
＊作業終了後は，ロータリカバーが破損することがあるので，スライドレバーを“標準”か“深い”位置にセットしてください。

◆ロッドグリップの位置

接地圧条件に合わせてロッド溝をお選びください。(前から１番目，２番目……とセット位置を後方に下げるにつれ，押付力は強くなります。)
通常は前から１番目の溝にセットしてください。



特殊な作業，爪の交換等ロータリカバー２を持上げて使用する場合は，溝から外しロッド受け部まで移動させ，グリップ部を横にしてください。



注　意

＊ロッドグリップを操作するときは，必ずロッドグリップの握り部(丸棒部)だけを持って操作してください。傷害事故を引起すおそれがあります。

重　要

＊ロータリカバー２を持上げるときは，当り位置以上に持上げないでください。オート用センサが破損することがあります。
＊オート作業時はロッドグリップを前から１番目の溝にセットしてください。
セット位置を後方に下げるとオートが作動しにくくなります。

◆オートハンガの使用法

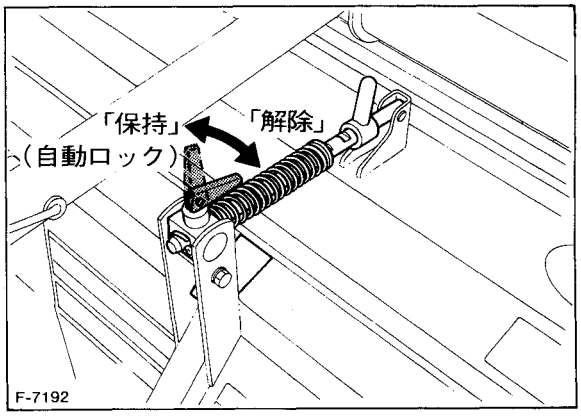
注　意

＊オートハンガの操作は傷害事故を引起すおそれがありますので，トラクタのメインスイッチを“OFF”にしてから行なってください。

補　足

＊MA仕様トラクタの場合，オートハンガが保持位置にセットしてあると，ロータリが下降しないことがありますので注意してください。

爪の点検・交換等をする場合，**“保持”**(自動ロック)の位置にし，ロータリカバー２を持上げると，自動的にロータリカバー２がロックされ便利です。



重　要

＊オート作業時は，必ず“解除”の位置にしてください。耕深がとれない場合があります。
＊“保持”にしたときは必ず，左右のオートハンガのレバーが“保持”位置になっているか又ピンが確実に入っているか確認してください。

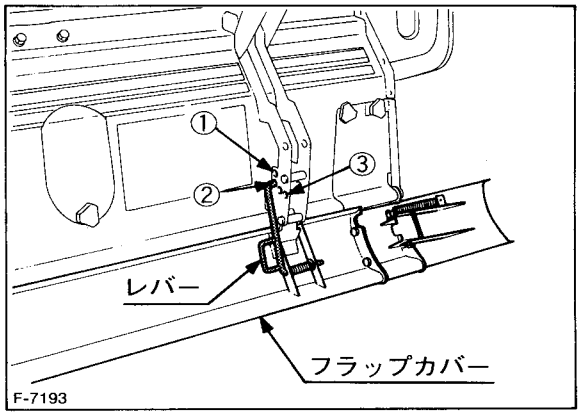
補　足

＊ロータリを長期に使用しないとき，あるいは操作が重くなったときはよく洗浄し，土を完全に取除いた後，レバー部とピン部に十分注油してください。

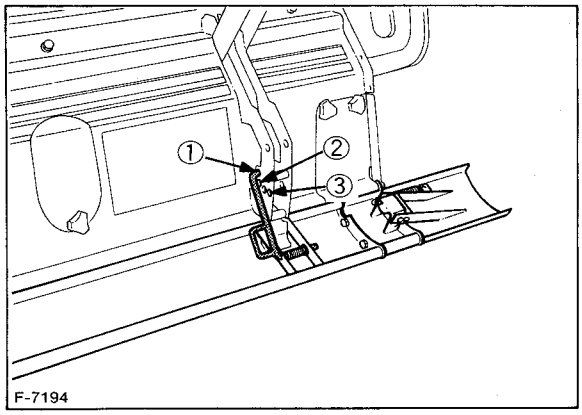
◆フラップカバーの使用法【センタドライブ仕様】

作業により，下図を目安に使い分けてください。
特にオート作業時，進行方向に凹凸ができる場合は，①穴(一番上げた位置)で使用してください。

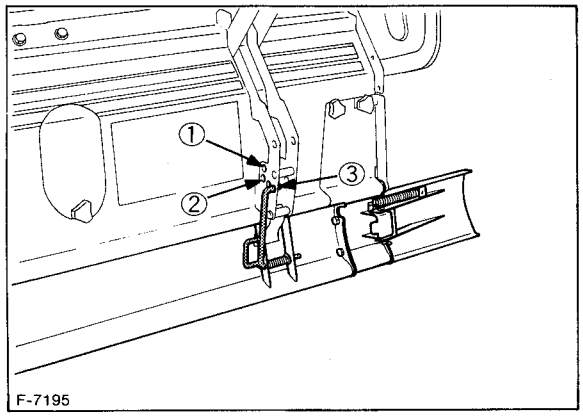
一般耕うん作業 —— ②位置(中間位置)



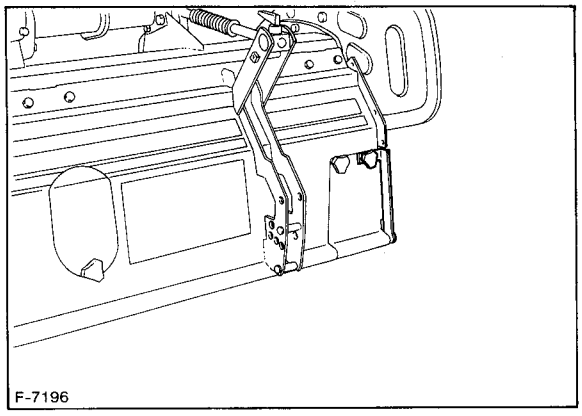
深起し・細土耕うん作業 —— ①位置(一番上げる)



浅起し・荒起し作業 —— ③位置(一番下げる)



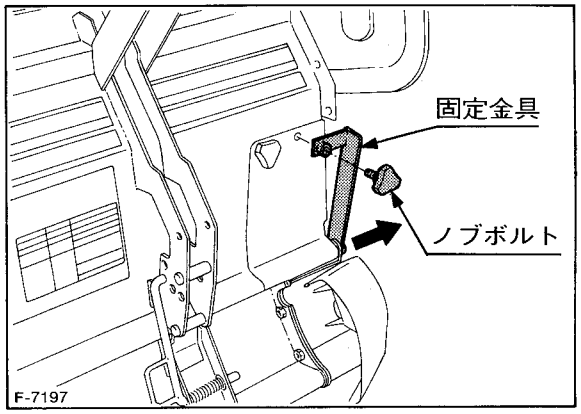
深起し・荒起し作業 ——オート作業時は，フラップカバーを取りはずさないでください。



◆フラップカバーの取外し方【センタドライブ仕様】

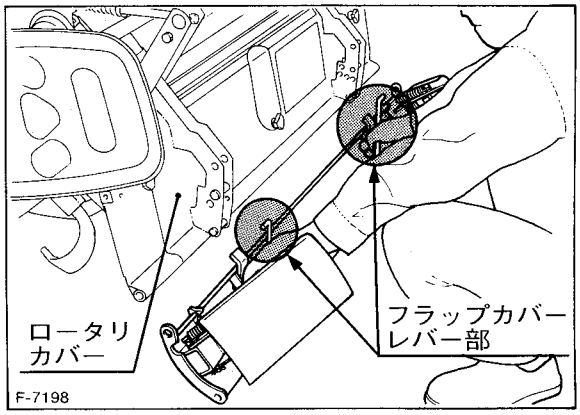
❶ノブボルトを外します。(左右２カ所)

❷固定金具を➡の方向に抜きます。

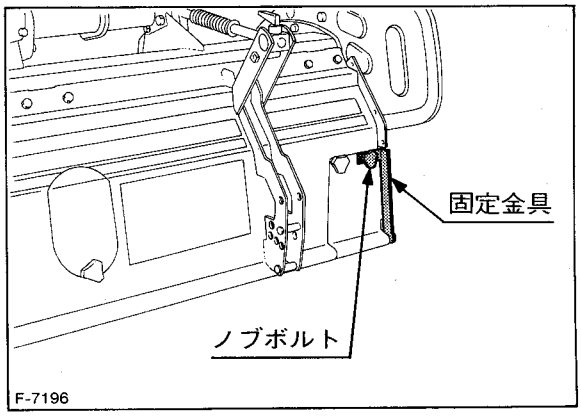


❸レバーをロータリの中心方向に引張って穴から外します。

❹フラップカバーのレバー部を持上げて，ロータリカバーから取外します。

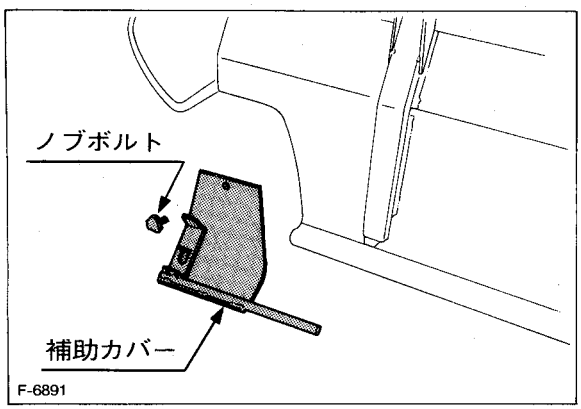


❺固定金具を元の位置に差込み，ノブボルトで固定します。



◆補助カバーL・Rの取外し

後２輪併用で枕地を少なくする，又は片培土作業をするため，補助カバーを取外す場合は，ノブボルト【サイドドライブ仕様】，ノブボルトと固定金具【センタドライブ仕様】を取外し，補助カバーを外してください。



補　足

＊補助カバーを取外した後，ノブボルトと固定金具は紛失しないように保管しておいてください。

◆ロータリカバーを持上げて使用する場合【トラクタのMA仕様】

荒起し・極浅起し・特殊培土作業等で，カバーを持上げて使用する場合は，オート機能が発揮出来ませんので，後２輪を使用してください。

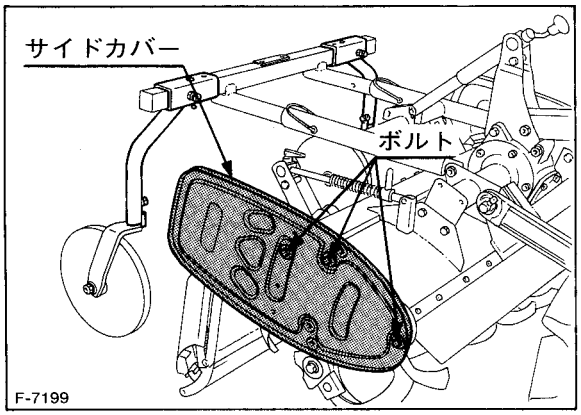
◆サイドカバーの調整

注　意

＊サイドカバーを外した状態でロータリを使用しないでください。傷害事故を引起すおそれがあります。

【センタドライブ仕様】

石の多いほ場・草地で作業を行なう場合は，左右のサイドカバーを上に上げて使用してください。



【サイドドライブ仕様】

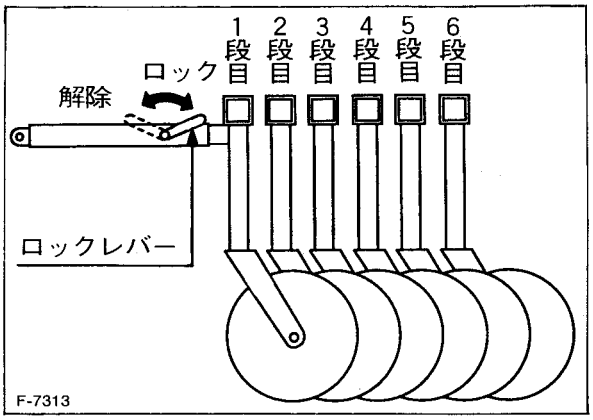
サイドカバーの調整はできません。

■後２輪の調整【B仕様】

後２輪は前後方向に６段階，上下方向に２段階の調整ができますので，作業に合せて調整してください。

◆後２輪ホルダの前後調整

ロックレバーを**“解除”**にしてから後２輪を前後させます。調整後は**“ロック”**の位置にしてください。



補　足

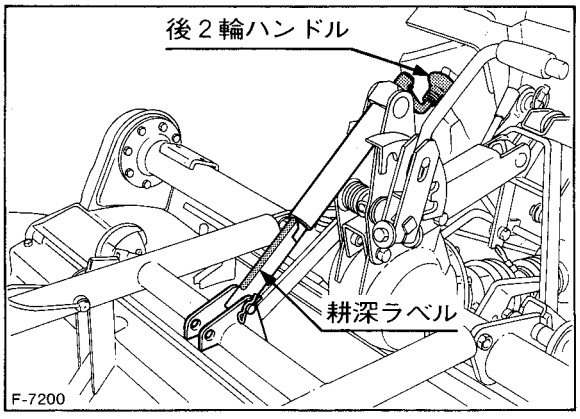
＊水田(湿田)で，トラクタの性能を十分発揮させるため，後２輪はロータリカバーに接触しない範囲で，接近させて使用してください。

◆後２輪ハンドルによる調整

注　意

＊トラクタを前進させながらの耕深調整は，絶対にやめてください。傷害事故を引起すおそれがあります。
もし側方及び前方から調整する場合は，トラクタを停止させてから行なってください。

後２輪ハンドルを回すことにより，耕深を自由に選ぶことができます。また耕うん深さ調整の目安として，耕深ラベルの目盛りをご使用ください。

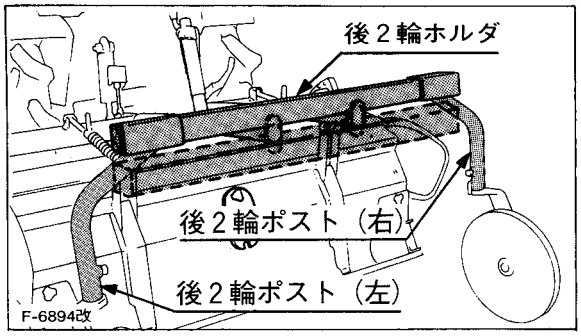


◆後２輪の上下調整

後２輪装置は，乾田・湿田別によって，後２輪ホルダの差換えで取付け高さが変えられます。

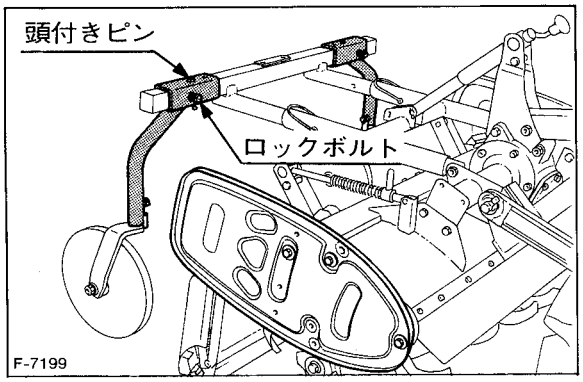
湿田，代掻き耕うんの場合は下側に取付け，乾田耕うんの場合は上側に取付けてください。

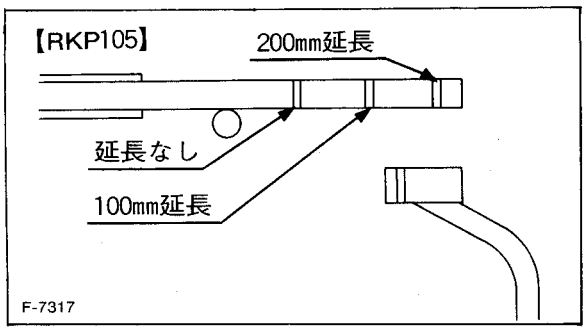
下側に取付けるときは，後２輪ポスト左・右も取付けを変更してください。

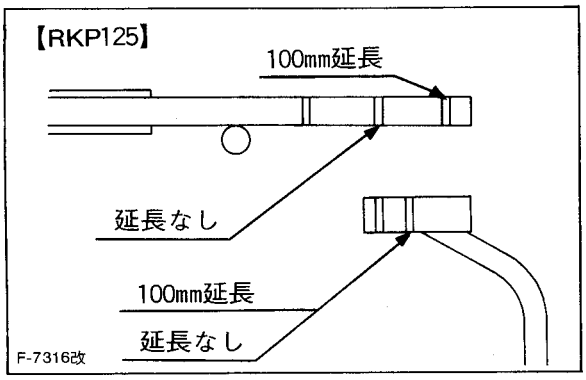


◆後２輪幅の調整【センタドライブ仕様】

延長爪軸(片側100㎜または200㎜)を取付けたときは，それぞれ耕幅に合せて，後２輪を外側に移動させてください。







注　意

＊後２輪を上方に反転させての耕うん・移動は傷害を引起すおそれがあるので，後２輪を使用しない場合は取り外してください。

■畝立機の取付け（別売オプション）

畝立機は，畝立て金具の穴に下から差込み，作業状態に応じて取付け高さを変え，ボルトで取付けてください。

注　意

＊畝立機を使用しない場合は取り外してください。畝立機を上方に反転させての耕うん・移動は傷害事故を引起すおそれがあります。

＊畝立機を使用しない場合，Vカバーまたはカバーフタを外したままでロータリを使用しないでください。傷害事故を引起すおそれがあります。

◆STV・SCV仕様の場合

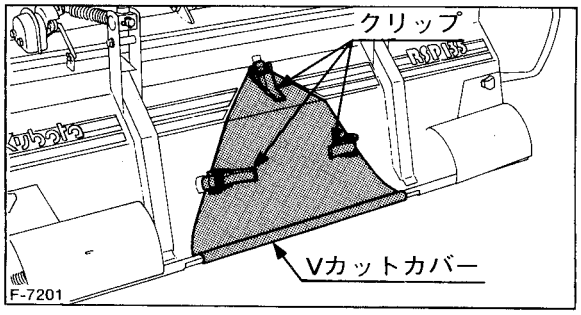
❶爪の配列は２つ盛り耕法の配列にします。(30ページ参照)

❷後２輪は取外します。

❸後２輪ホルダは，前後調整の１段目の位置(34ページ参照)にし，上下調整の上側(左図参照)にセットしてください。

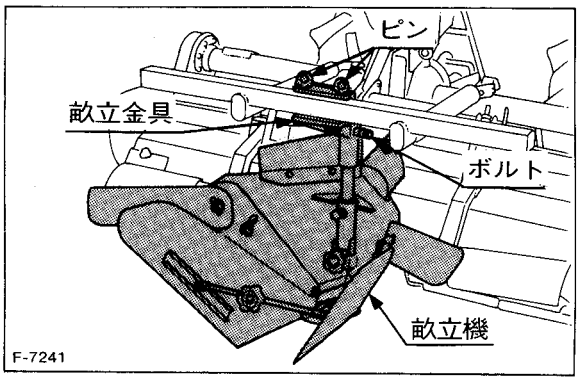
❹フラップカバーを取外します。【センタドライブ仕様】(33ページ参照)

❺Vカバーを下方向に動かして取外します。



❻畝立機に畝立金具をボルトで取付けます。

❼畝立金具を後２輪ホルダにピンでセットしてください。



❽スライドレバーを操作してロータリカバーを畝立機にできるだけ接近する位置にロックしてください。(通常は標準位置です)【サイドドライブ仕様】

重　要

＊RSP105形ロータリに延長カバーを装着されている場合は，延長カバーを取外すか，または広げてください。

＊アタッチメント採用の畝立反転金具形畝立機装着の場合は，ロータリのスタンドは取外してください。

❾ロータリカバー押えバネを，フリーにするか又は少し縮めて，後部カバーを軽く地面に接触させてください。

◆標準・SC仕様の場合

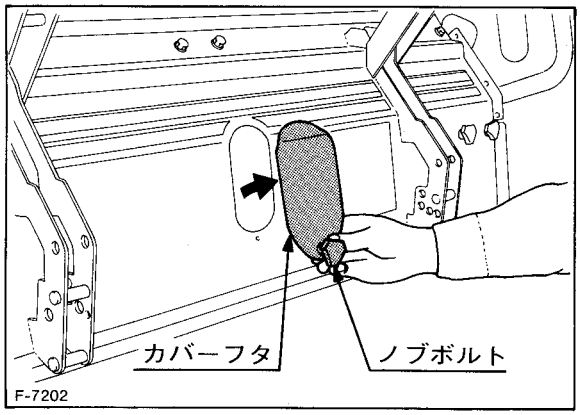
❶爪の配列は２つ盛り耕法の配列にします。(30ページ参照)

❷後２輪は取外します。

❸後２輪ホルダは，前後調整の１段目の位置(34ページ参照)にし，上下調整の上側(35ページ参照)にセットしてください。

❹フラップカバーを取外します。【センタドライブ仕様】(33ページ参照)

❺ノブボルトをゆるめ，カバーフタを取外します。取外したカバーフタは，紛失しないように工具箱に入れておきます。

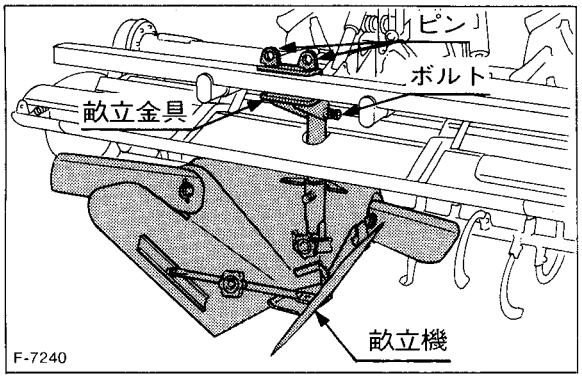


❻畝立金具を後２輪ホルダにピンでセットしてください。

❼スライドレバー【サイドドライブ仕様】を操作して畝立機の支柱が長穴に合う位置にカバーを動かしてください。(通常は標準位置です)

❽ロータリカバーを上げます。

❾ロータリカバーの下側から畝立機を取付け，ボルトで締付けてください。



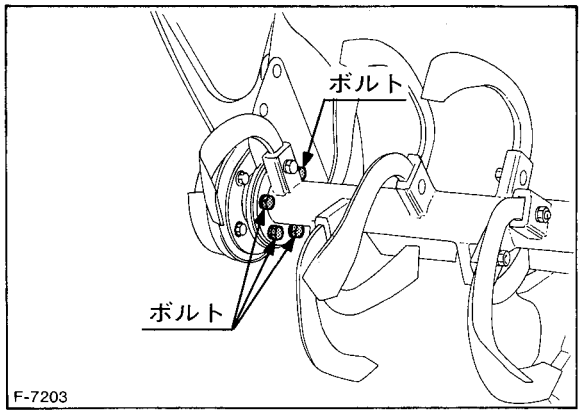
■爪軸交換のしかた

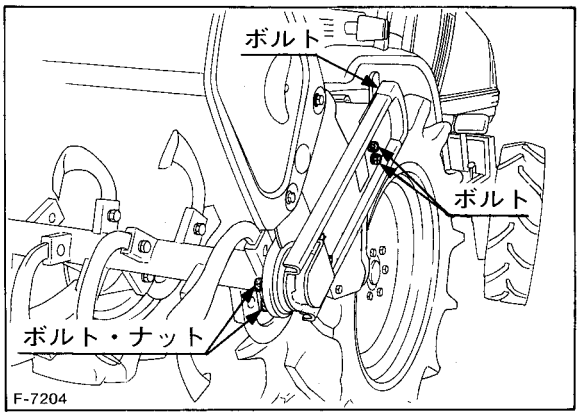
【サイドドライブ仕様】

注　意

爪軸交換する場合は，傷害事故を引起すおそれがありますのでつぎのことを守ってください。
＊トラクタを平たんな場所におく。
＊エンジンを止め駐車ブレーキを掛ける。
＊ロータリを持上げ，落下調整レバーを右いっぱいに回し，ロータリの落下を防止する。

(1)ロータリを持上げ，落下調整レバーを回して，油圧をロックします。
(2)チェーンケース側爪軸取付けボルト(４本)，及びサイドフレーム側爪軸取付けボルト(２本)，ナット(２個)をゆるめます。





(3)サイドフレームの取付けボルト(６本)を外れない程度までゆるめます。
(4)落下調整レバーを少し左に回し，耕うん爪が水平地面上に着くまでゆっくりと降ろします。
(5)爪軸取付けボルト，ナットを外した後，チェーンケース側のインロー部から爪軸を外し，スタッドボルトから外れるまでチェーンケース側に引張ります。
(6)このとき，別売りの爪軸交換スタンドアッシ(品番98606－48430)を使用すると，より簡単です。

重　要

＊取付けは，外したボルト・ナット，ゆるめたボルトが作業中にゆるまないように，確実に締付けてください。

補　足

＊爪軸は，爪軸端部のブラケットの“左”の刻印がチェーンケース側にくるように取付けてください。

逆転PTOの使用方法

(1)使用できる作業機
＊標準採用のロータリ(69ページ参照)に限ります。
(2)トラクタの逆転PTOを使用して次の作業が行なえます。
①爪軸に巻付いた草を除去する。
耕うん中に草などが巻付いて，耕深が取れなくなった場合，ロータリを持上げて，逆転で数分空転させると，草の巻付きがゆるみ取りやすくなります。
②軟弱地での土寄せ作業。
代かき作業などを行なう軟弱なほ場に，泥などが盛上がった場合，逆転PTOを使用して土寄せを行なうと，効果があります。カバーと泥・土とが接触しない位置までカバーを上げて前進でゆっくり作業してください。このとき，エンジン回転数1500rpm位で作業すると泥飛びも少なくなります。

重　要

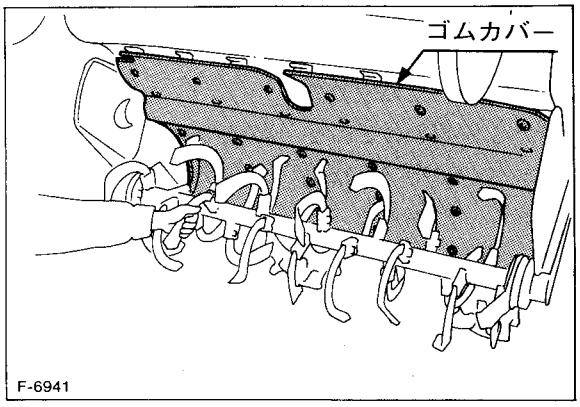
＊標準採用以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因となります。
＊逆転PTOを使用して，次の作業は行なわないでください。ロータリ破損の原因になります。
①逆転耕うん作業
②一般ほ場での土寄せ作業
③正逆転ロータリの正転，逆転作業
④ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

マッドレスロータリ【SC・SCV仕様】の上手な使い方

注　意

ゴムカバーの点検をする場合は，傷害事故を引起すおそれがありますのでつぎのことを守ってください。
＊トラクタを平たんな広い場所に置く。
＊エンジンを止め，駐車ブレーキを掛ける。
＊落下調整レバーを，右いっぱいに回し，ロータリの落下を防止する。
＊爪軸の下に木の台などをし，より安全性を確保してから行なう。

作業前に次の項目を点検してください。
(1)ゴムカバーの装着確認
＊ゴムカバーと爪が接触するぐらいにたるみがないか。
＊とめ金具の脱落はないか。



(2)ゴムカバーの状態確認
＊大きな破れや傷・小さな貫通穴がないか。
もしあれば補修してください。処置方法は販売店・農協にご相談ください。

補　足

＊角張った石の多いほ場では，マッドレスロータリの使用を控えてください。
＊ゴムカバーに大きな破れやキズが発生した場合は，すみやかに補修してから使用してください。

品　　名	品　　番
アースパッチアッシ	07909-4949-9

＊ロータリを地表に降ろしたままバックしないでください。耕うん爪でゴムカバーを損傷させる恐れがあります。
＊普通爪は使用しないでください。
＊土が付着する場合でも，翌日に土がかわいてから耕うんしますと，付着した土がはく離しやすくなります。
＊ゴムカバーに付着している土を取除く場合，鋭利な物(ナイフ，ドライバー等)の使用はさけてください。

ロータリの着脱のしかた

注　意

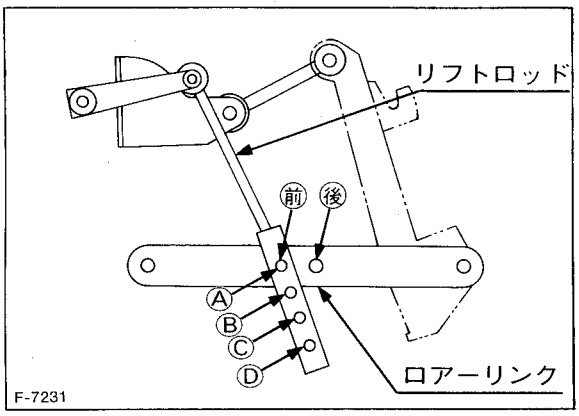
＊ロータリの取付け・取外しは，平たんな場所を選び，トラクタとロータリの間には立たないでください。

■取付け前の準備

注　意

＊ロアーリンク穴位置，リフトロッド穴位置を間違うと，ジョイント抜けやトップリンクの破損等が起りますので特に注意してください。

リフトロッドとロアーリンクをⒶと㊊の取付け穴で接続します。



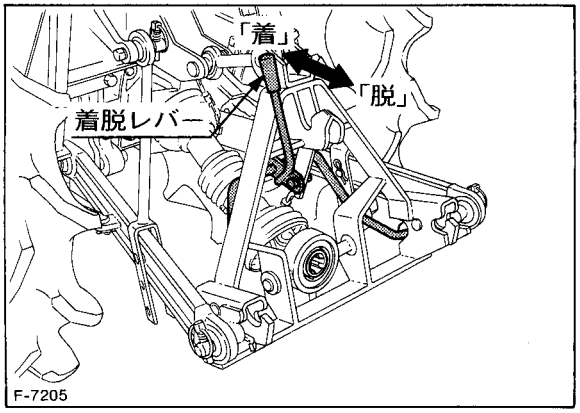
注　意

＊ユニバーサルジョイントの安全カバーを外したままで使用しないでください。傷害事故を引起すおそれがあります。

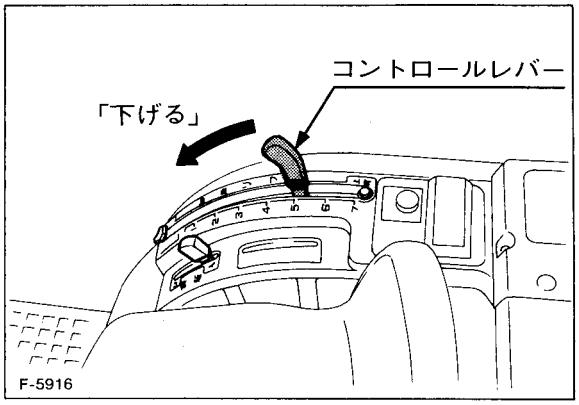
■ロータリの取付け方【S仕様】

❶ロータリの取付け姿勢を確認してください。
(取外し時の調整項目(42ページ)参照)

❷Aフレームの着脱レバーを**"着"**の位置にします。

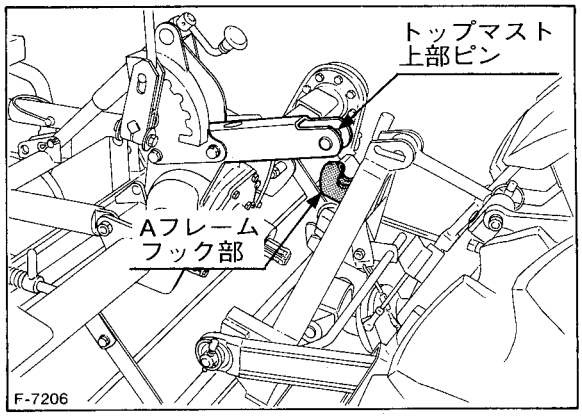


❸トラクタに乗車して，コントロールレバーを**"下げ"**方向に操作し，Aフレームを降ろしてください。



❹Aフレームのフック部先端が，トップマスト上部ピンのやや下(1～2㎝)にくるように，ゆっくりバックしてください。

❺コントロールレバーを，ゆっくり**"上げ"**方向に操作し，Aフレームのフック部がトップマスト上部ピンに，確実に引掛ったことを確認してから，ロータリを吊上げてください。
"カチッ"と音がしてジョイント部がロータリ入力軸に自動的に連結されます。



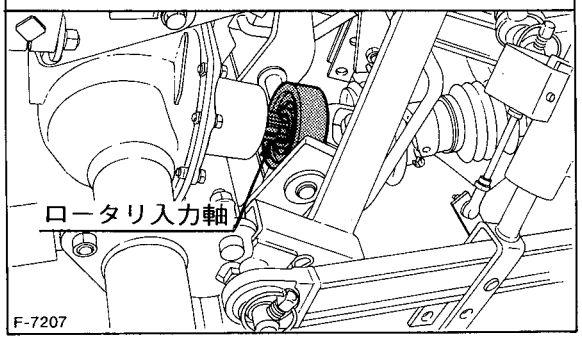
重 要

＊バックするとき，Aフレームを下げすぎると，AフレームのU字金具とフロントカバーが当るので注意してください。

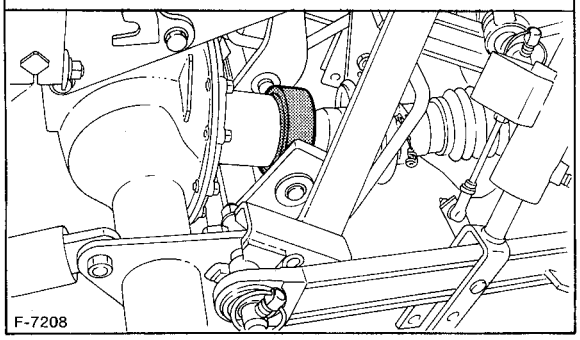
＊トラクタとロータリのセンタが同一直線上に重なり合うよう，トラクタをバックしてください。

❻**"カチッ"**と音がせずジョイント部がロータリ入力軸と連結されない場合は，PTO変速レバーを1段に入れ，アイドリング状態でジョイントを回転させると，ジョイント部がロータリ入力軸に自動的に連結されます。連結されるとき，**"カチッ"**という音がします。

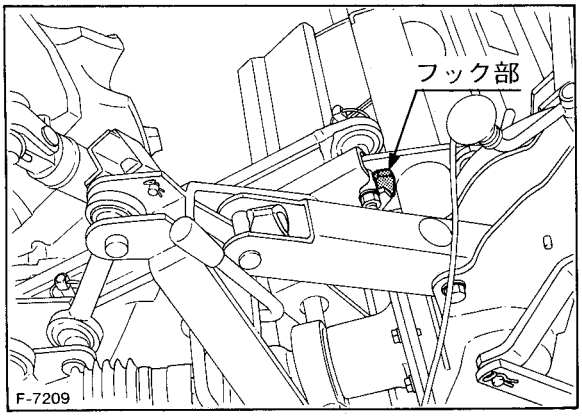
ジョイント部が連結されていない状態
(ロータリ入力軸が見える)



ジョイント部が連結完了した状態
(ロータリ入力軸が見えない)



❼装着後，左右のフック部が，AフレームのU字金具内側のピンに確実に引掛っているか確認してください。



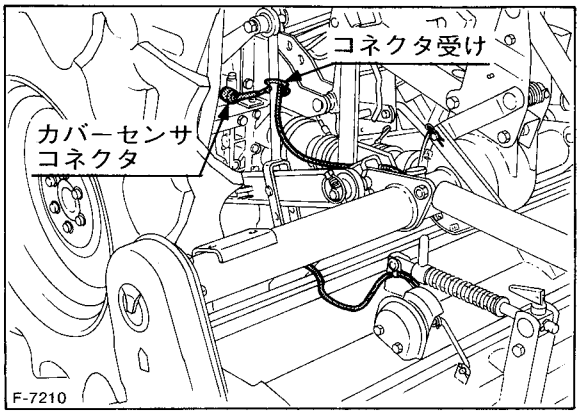
注 意

＊トラクタとロータリを接続後，ジョイントが確実にセットされているか，確認してください。傷害事故を引起すおそれがあります。

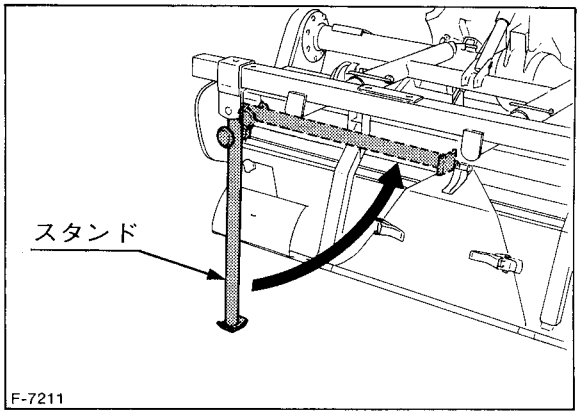
＊フックが確実にロック状態にあるか，確認してください。ロータリが脱落するおそれがあります。

❽カバーセンサコネクタをリフトロッドのコネクタ受けに通し，トラクタに接続してください。

【トラクタのMA仕様】



❾スタンドを折りたたみます。【Y仕様】



■ロータリの取付け方【標準仕様】

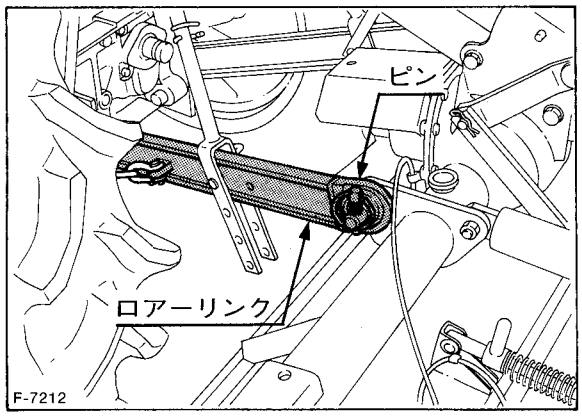
ロータリをトラクタに取付ける場合，まずトラクタをロータリの接続部と合うところまでバックさせ，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてください。

❶ロアーリンクとリフトロッド取付け位置を確認してください。(38ページ**“取付け前の準備”**参照)

❷ロアーリンクにロータリを取付けます。

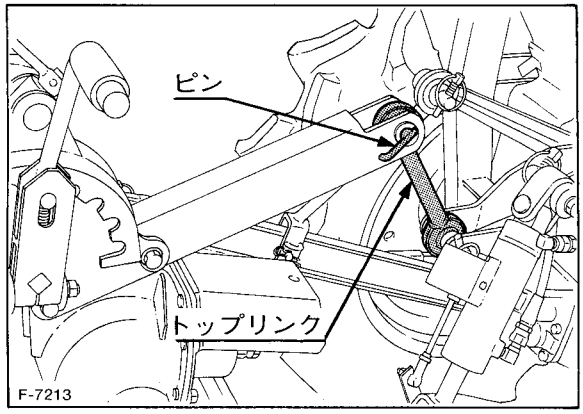
まずロアーリンク(左)を取付け，次にリフトロッド(右)のハンドルを回して，長さを調整しながらロアーリンク(右)を取付けてください。

(モンローマチック付トラクタの場合は，モンローマチックを**“切”**に切換え，手動スイッチでリフトロッド(右)を上下方向に調整しながら取付けてください。)



❸トップリンクにロータリを取付けます。

後２輪ハンドルで調整しながら取付けます。



❹ユニバーサルジョイントを取付けます。

ユニバーサルジョイントのオス側のロックピンを指で押えながら，トラクタのPTO軸ケースに当るまで差込みます。

次にメス側をロータリの入力軸に差込んで，ロックピンでロックします。

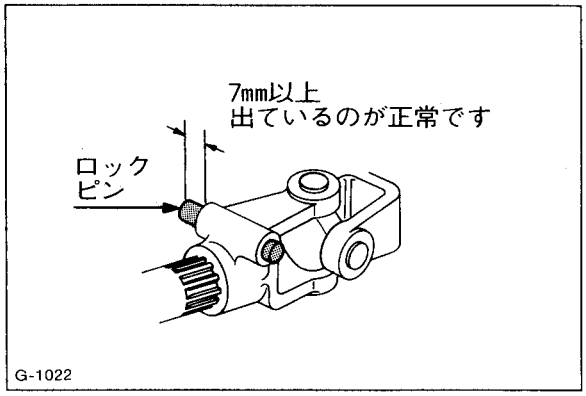
そしてトラクタ側を手前に引き，ロックピンを溝に確実に入れてください。

警 告

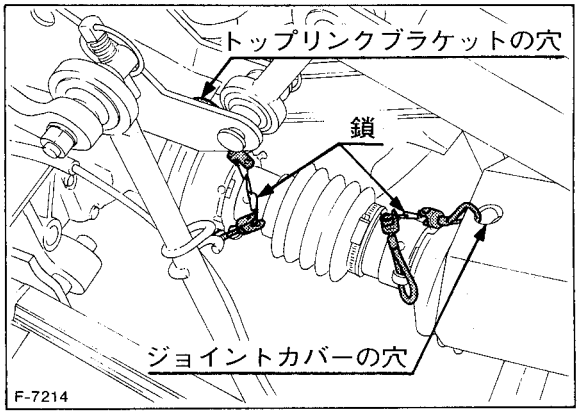
＊ユニバーサルジョイントのロックピンが，正確に溝にはまったかどうかの確認は，ピンの頭が７㎜以上出ているか確認してください。

重 要

＊ユニバーサルジョイントの取付けは，必ずオス側をトラクタ側に，メス側をロータリ側に取付けてください。



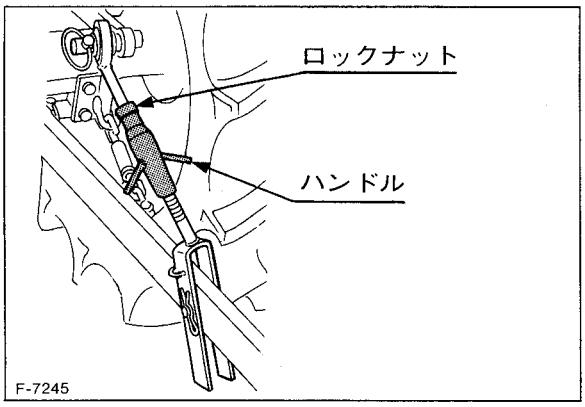
❺安全カバー回転止め鎖を取付けます。
トラクタ側の鎖は，トラクタのトップリンクブラケットの穴に，ロータリ側は，ロータリのジョイントカバーの穴に取付けてください。



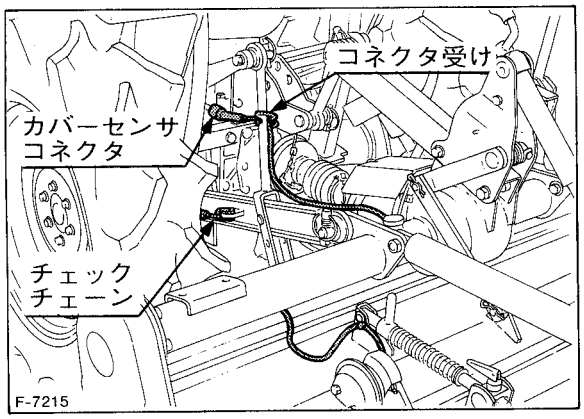
❻リフトロッド(右)を調整します。
【トラクタのM・MA仕様以外】
トラクタのコントロールレバーでロータリを持上げて，ロータリの爪軸がトラクタの車軸と平行になるように，ハンドルを操作して調整してください。
調整後は，ロックナットで固定してください。

重 要

＊安全カバー回転止め鎖でユニバーサルジョイントをつらないでください。



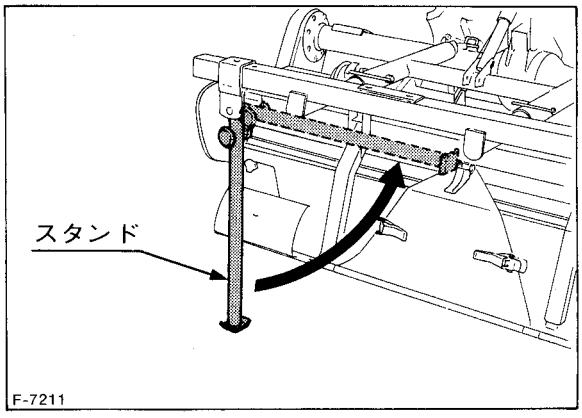
❼チェックチェーンを張ります。
ユニバーサルジョイントが，上から見て一直線になるように，チェックチェーンを左右均等の位置にロックナットでロックして，ロータリの横振れを制限してください。



❽ロータリを持上げて，エンジンを止め，PTO変速レバーを**“中立”**にして，ユニバーサルジョイントが手で，軽く回るかを確認してください。

❾カバーセンサコネクタをリフトロッドのコネクタ受けに通し，トラクタに接続してください。
【トラクタのMA仕様】

❿スタンドを折りたたみます。【Y仕様】



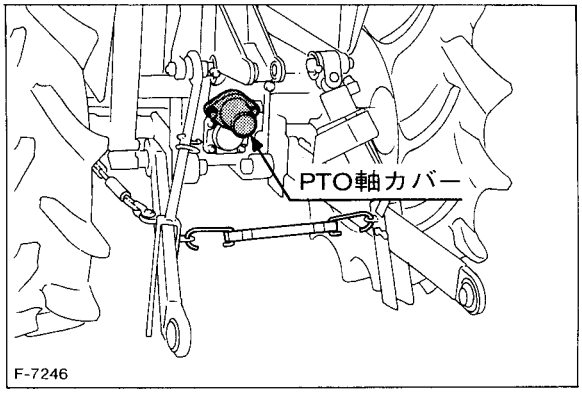
■ロータリの取外し方

注　意

ロータリを取外す場合，傷害事故を引起すおそれがありますので，次のことをまもりましょう。

＊Aフレームからロータリを外した状態で，PTO軸を回転させない。【S仕様】

＊PTO軸を使わない場合は，PTO軸カバーを取付けます。



＊ロータリに寄りかかったり，乗ったりしない。

取付け順序の逆に行なってください。

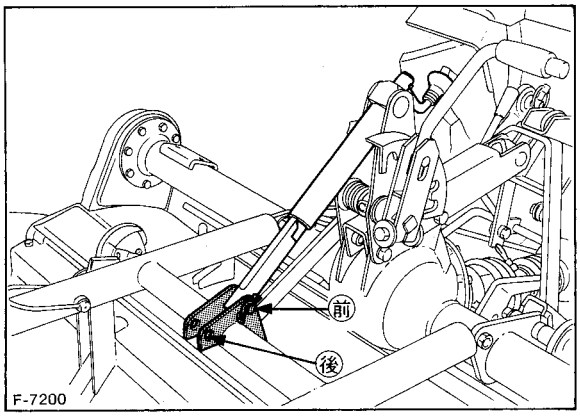
重　要

＊着脱は平らな場所で行なってください。

＊ロータリの着脱時は必ず後２輪(Y仕様はスタンド)を取付けてください。

＊カバーセンサコネクタをトラクタから取外してください。【トラクタのMA仕様】

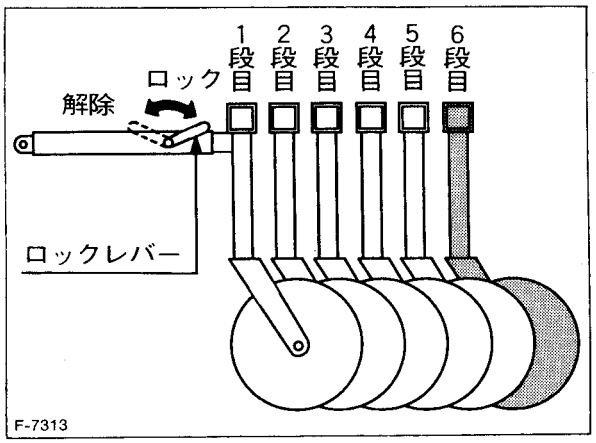
＊後２輪調整ネジを，後２輪ホルダ１の㊁の穴に取付けてください。



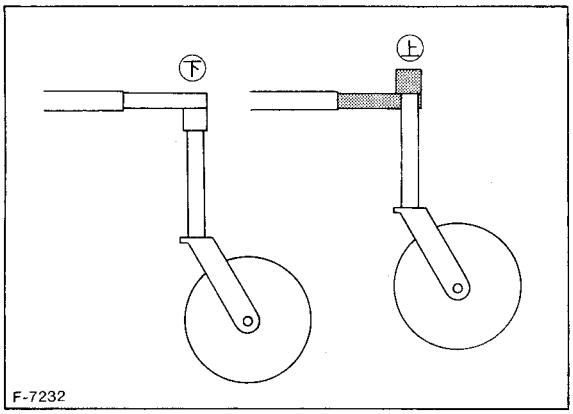
◆後２輪位置の調整【B仕様】

後２輪の前後方向の位置は６段目，上下方向は㊤の位置にしてください。

〔前後方向〕



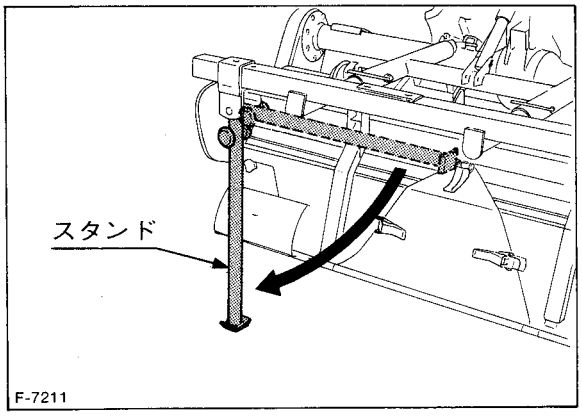
〔上下方向〕



◆スタンド位置の調整【Y仕様】

スタンドを取出します。

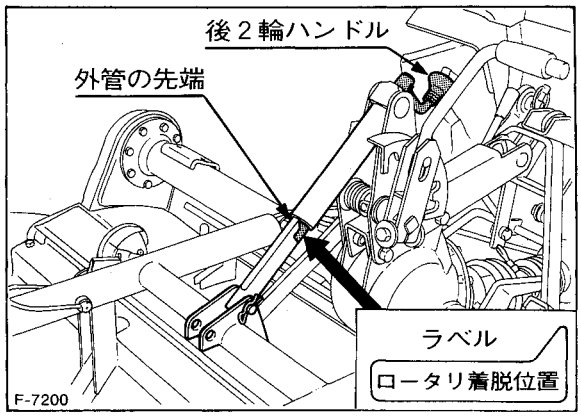
スタンドの前後方向の位置は，後２輪と同じく６段目にします。



◆後２輪ハンドルの調整

(1)ロータリの後２輪ハンドルを回し，後２輪(Y仕様はスタンド)が地面に接地するように調整してください。【標準仕様】

(2)ロータリの後２輪ハンドルを回し，外管の先端を内管に貼ってあるラベルの**“ロータリ着脱位置”**に合せてください。【S仕様】



＊S仕様の場合は，ロータリを吊上げた状態で着脱レバーをロータリ側(“脱”側)に倒します。

(ロータリの取付け方【S仕様】参照)

補　足

＊長期間保管するときや洗車後は，必ず一度ロータリを取外し

①スーパージョイント側ジョイントスプライン部

②ロータリ側入力軸

③ユニバーサルジョイントのしゅう動部

にグリースを塗布してください。

ロータリ耕うん法

■隣接耕うん法

耕作地の条件が良い場合は，隣接耕うんが能率的で作業も簡単です。

❶前輪タイヤ・後輪タイヤは最小幅にします。

❷速度は１～２速で爪回転を１～３段にして，図のような要領で耕うんを始めます。

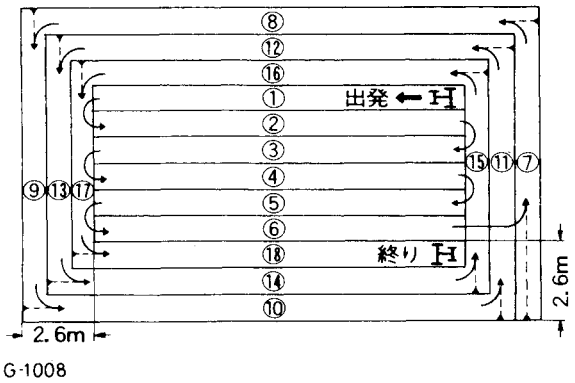
❸耕作地の周囲を約2.6m残して，直進耕うん後３回の回り耕を行ないます。

❹耕うん順序は隣り合せに進め，前・後輪タイヤがいちど耕うんした所に落ちないように，気をつけながら運転します。

❺サイドドライブロータリ(RSP形)は，サイドフレーム側があぜぎわになるようにして，あぜぎわ耕うんを行ないます。

◆隣接耕うんの順序

← 進行方向 ←……いったんバック



G-1008

(1)図の長方形部分１枚が，直進１回で耕うんされる耕作地を示します。

(2)図のような順序をとるのは，いちど耕うんした所を後輪タイヤで踏まないための，最善の方法です。

(3)したがって出発点は，トラクタが最後に外へ出る場所によって決まります。

(4)直進が終って，つぎの直進に移るまでは，ロータリを必ず上げて旋回します。

■一畝おき耕うん法

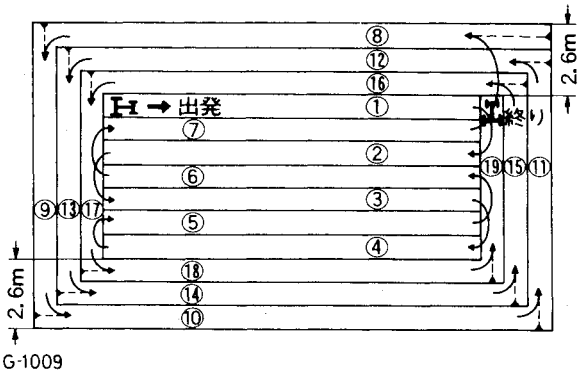
この方法は，従来の耕うん機と同じ要領で，取扱いも簡単なため，よく用いられます。

❶耕作地の周囲を約2.6m開けて耕うんを始めます。

❷最初直進して一畝おきに耕起した後，残りを耕起し，最後に回り耕３回で仕上げます。

❸一畝おきに残す幅は，タイヤの内側面より幾分少ない方が，残耕を少なくし美しく仕上がります。又前輪は，後輪の中心線上又は外側に合すように調節すれば，作業が楽です。

◆一畝おき耕うんの順序

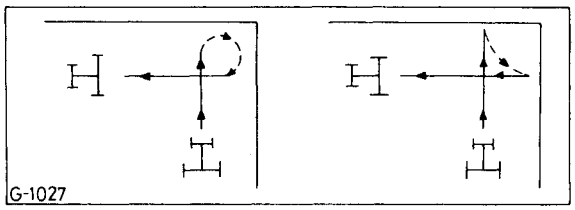


G-1009

(1)一畝おき耕うんは，小回りのむずかしい場合用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。

(2)図では，バックによる方向転換を示していますが，回転して方向を変えることもできます。

■トラクタの方向転換



G-1027

ロータリ畝立て作業

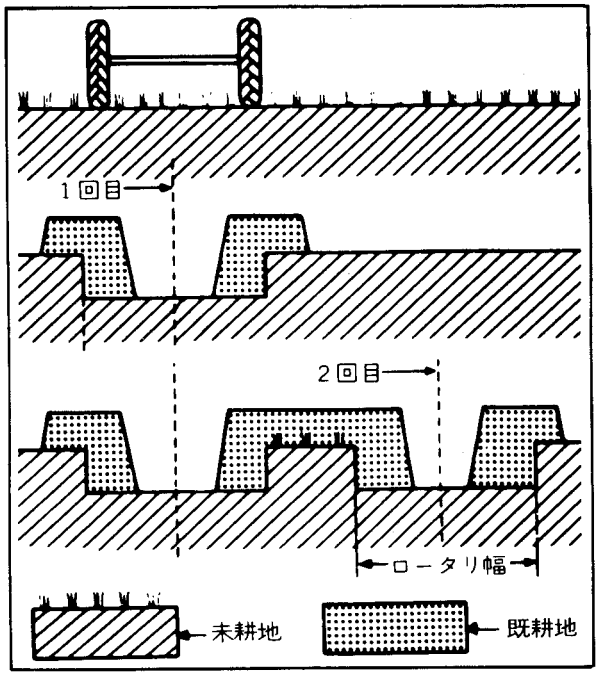
■作業方法

◆有心畝立て法(一畝おき畝立て法)

この方法は最も能率的ですが，一畝おき全面耕うん畝立て法と同じく，耕うん幅によって畝幅が制限されます。

❶畝立て機を取付けて，

❷一畝おき耕うんをします。



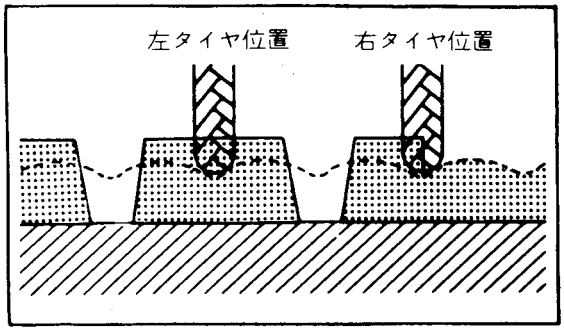
◆全面耕うん後の畝立て法

この方法は，畝幅を自由に選ぶことができ，土塊が均一で細い畝もできます。

❶まず，ロータリで全面耕うんを行なってから，

❷畝立て機を取付けて，畝立て作業をします。

この場合は，畝立てをするほ場全部を荒起しした後，爪を外向きに付け直してから，畝立て作業を行なうと美しく仕上がります。

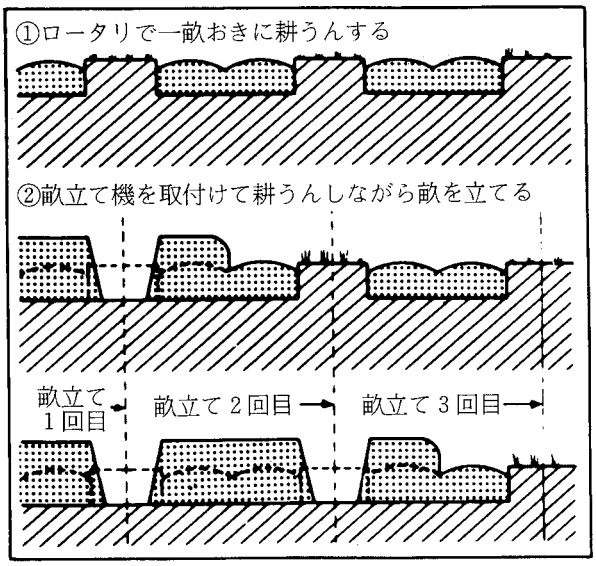


◆無心畝立て法
(一畝おき全面耕うん畝立て法)

この方法は，全面耕うん後の畝立て法に比べて能率的です。しかし，耕うん幅によって畝幅が制限されます。

❶まず，畝幅を決めると，一畝おきに耕うんします。

❷畝立て機を取付けて，残しておいた部分を耕うんしながら，畝立て作業をします。



以上はほんの一例です。地方によって条件が異なりますから，土地条件に合った方法をお考えください。

重 要

＊畝立て作業を行なうとき，MA仕様では必ずオート耕深調節スイッチを“尾輪”位置にしてください。その他の位置(オートが作動している位置)では，作業機の昇降に支障をきたすことがあります。

＊耕うん状態のままで，無理にハンドルを切って旋回すると，爪を曲げたり，後2輪やチェーンケースを破損する原因になりますから注意してください。

注 意

＊爪の交換・爪取付けボルトの点検などは，傷害事故を引起すおそれがあるので，必ずエンジンを止め，落下調整レバーを回して油圧ロックし，ロータリの落下を防止してから，作業を始めてください。

トラクタ使用前の点検について(日常点検)

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は毎日欠かさず行なってください。
[点検方法の詳細は,**“トラクタの簡単な手入れと処置”**の項を参照。]

注 意

＊運転前にブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置等の日常点検を行い摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊点検をするときは，必ずエンジンを停止し作業機を降ろしてから行なってください。
＊燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをすることがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジン停止後30分経過してから開ける。
❷点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。又紛失したり，損傷した場合，交換してください。
巻込まれや，切傷事故の原因になります。

重 要

各部への給油と交換
＊点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ギヤーオイルは，必ず“クボタ純オイル”を使用してください。

■点検は次の順序で実施してください。

(1)前使用時，異常のあった箇所
(2)トラクタの回りを歩いて
- ランプ類の点灯及び汚れ，損傷
- ナンバプレートの汚れ，損傷
- タイヤの空気圧，き裂,損傷,摩耗……60ページ
- タイヤなどの足回りのボルトやナットのゆるみ
- 反射器の汚れ，損傷
- ミッションオイルの量及び汚れ……53ページ
- 燃料フィルタの水抜き，沈澱物の点検
- 冷却水，オイル，燃料漏れの点検
- 前車軸ケースオイルの量……54ページ

(3)ボンネットを開けて
- エンジンオイルの量及び汚れ……52ページ
- リザーブタンクの冷却水の量，ラジエータキャップのしまり……50ページ
- エアークリーナの詰まり……58ページ
- ファンベルトの張り具合，損傷……59ページ
- バッテリ，配線，マフラ部の清掃……64ページ
- 防虫網の清掃……51ページ

(4)運転席に座りエンジンを始動して
- 燃料計の作動
- 燃料は十分か，燃料キャップの締付け
- イージーチェッカの点滅具合
- ヘッドランプの作動
- トラクタメータの作動
- ウインカランプの点滅
- ホーンの作動
- バックミラーの写影
- ブレーキペダルの遊び……60ページ
- クラッチペダルの遊び……59ページ
- ハンドルの遊び・ガタ
- コントロールレバーによる油圧昇降及び作業機取付ピンの脱落
- 排気ガスの色，異常音……62ページ

(5)エンジンを始動して，徐行しながら
- 水温計の作動
- ブレーキの効き，片効き
- ハンドルの重さ，振れ，取られ

(6)ロータリの回りを歩いて
- 耕うん爪及び爪軸取付けボルトのゆるみ
- ギヤーケースのオイル量【サイドドライブ仕様】……55ページ
- チェーンケースのオイル量【サイドドライブ仕様】……55ページ
- ロータリケースのオイル量【センタドライブ仕様】……56ページ
- ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ
- ユニバーサルジョイントのロックピンのロック状態の確認……62ページ
- 油もれ

トラクタの簡単な手入れと処置

注 意

＊給油及び点検整備するときは，❶トラクタを平たんな広い場所に置き，❷作業機を降ろし，❸駐車ブレーキをかけ，❹変速レバーを中立にし，❺エンジンを止め，安全を確認してから行なってください。

＊トラクタは，常に清掃しておいてください。
バッテリ・配線・マフラやエンジン周辺部に，ゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

定期点検箇所一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。
次の定期点検箇所一覧表に従って，定期点検を実施しましょう。

■トラクタの定期点検箇所

点検項目		アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)																購入日から		参照ページ
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	1年	2年	
エンジンオイルの交換	年間使用時間が100時間以上の場合		◎	○		○		○		○		○		○		○		○			53
	年間使用時間が100時間以内の場合		◎	1年ごと															○		53
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換			◎			○				○				○				○			57
ミッションオイルの交換			◎					○						○							53
油圧オイルフィルタカートリッジの交換			◎			○				○				○				○			57
油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換【Vシフト(F)仕様】			◎			○				○				○				○			57
クラッチペダルの遊び点検			◎		○			○			○			○			○				59
ブレーキペダルの遊び点検					○			○			○			○			○				60
トーインの点検						○				○				○				○			61
フロントギヤーケースのオイル交換			◎					○						○							54
前車軸ケースのオイル交換			◎					○						○							54
グリースの注入			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			62, 63
バッテリ液点検			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			64
クラッチハウジングの水抜き			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			61
ラジエータホース締付けバンドのゆるみ点検					○			○			○			○			○				65
油圧・燃料ホース締付けバンドのゆるみ点検			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			65
油圧・燃料パイプ取付けねじのゆるみ点検			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			65
ファンベルトの調整			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			59
燃料フィルタエレメントの交換										○								○			58

点検項目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)																購入日から		参照ページ
	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	1年	2年	
燃料タンクの清掃											○									—
ラジエータ内部の洗浄											○									52
冷却水の交換																			○	50, 51
エアークリーナエレメントの清掃			○		○		○		○		○		○		○		○			58
エアークリーナエレメントの交換																		○ 6回清掃毎		58
パワーステアリングホースの交換【BS仕様】																			○	65
燃料パイプの交換																			○	65
ラジエータホースの交換																			○	65
油圧ミッションオイルホースの交換【Vシフト(F)仕様】																			○	65
操向装置，タイロッドの点検																	○			—
車体各部のボルト，ナットのゆるみ，ピンなどの脱落		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			—
ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検と交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			64, 65
パワーステアリングシリンダ，ホース，コントローラよりの油漏れ点検【BS仕様】		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			—

◎印はならし運転時の50時間使用後に必ず行ってください。

■ロータリの定期点検箇所

点検項目	アワーメータ表示時間(下記時間目ごとに交換)											購入日から		参照ページ
	20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	1年	2年	
ギヤーケースのオイル交換【サイドドライブ仕様】		◎					○			○				55
チェーンケースのオイル交換【サイドドライブ仕様】		◎		○			○			○				55
ロータリケースのオイル交換【センタドライブ仕様】		◎		○			○			○				56
グリースの注入 • 後2輪 • ユニバーサルジョイントしゅう動部 • ロータリ入力軸【S仕様】		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			62, 63
注油 • 内管(後2輪調整ネジ部) • ロッド部 • スライドレバー部		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			56
グリースの交換 • 爪軸ベアリングケース				○			○			○				63

◎印はならし運転時の50時間使用後に必ず行ってください。

給油(水)一覧表

■トラクタの給油（水）

給油（水）項目	容量（ℓ）	使用オイル
燃料	17.0	クボタディーゼル重油 又はディーゼル軽油
冷却水(ラジエータ)	3.5	清水又はクボタ不凍液(50%)
冷却水(リザーブタンク)	0.6	
エンジンオイル	3.7 (オイルゲージ上限全量,フィルタ部も含む。)	クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30
ミッションオイル	12.0(K仕様14.0)	クボタ純オイルUDT 又はスーパーUDT
フロントギヤーケースオイル	2.4	
ステアリングギヤーボックスオイル	0.3	
前車軸ケース	4.0	
グリースの注入 ・クラッチペダル ・ブレーキペダル	少量	シャーシグリース
グリースの塗布 ・関接球	塗布	

■ロータリの給油

給油（水）項目	容量（ℓ）	使用オイル
ギヤーケースオイル 【サイドドライブ仕様】	RSP105, RSP115…1.4 RSP125, RSP135…1.5 RSP155…1.6 RSP165…1.7	クボタ純オイルM80B又はM90
チェーンケースオイル 【サイドドライブ仕様】	1.2	
ロータリケースオイル 【センタドライブ仕様】	1.2	
グリースの注入 ・後2輪支柱左・右 ・ユニバーサルジョイント ・爪軸ベアリングケース 【サイドドライブ仕様】 ・ロータリ入力軸【S仕様】	適量	シャーシグリース
注油 ・内管(後2輪調整ネジ部) ・ロッド部 ・スライドレバー部	適量	クボタ純オイル

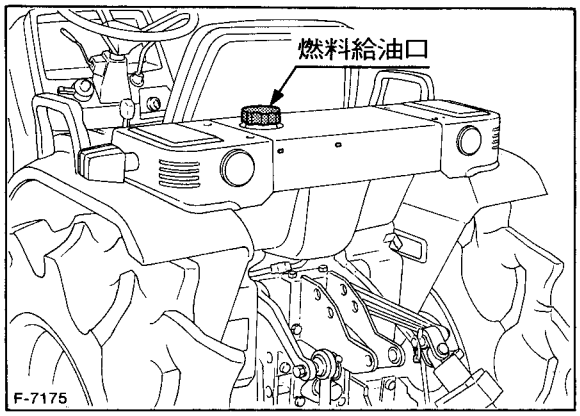
燃料について

■燃料

注 意

＊燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊火気厳禁

燃料は，“クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油”を使用してください。



重 要

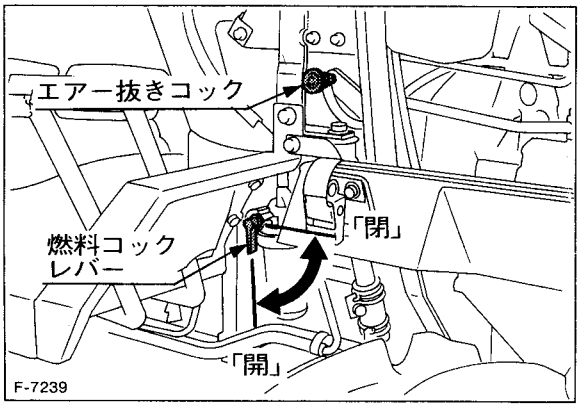
＊燃料中にゴミや砂が混入すると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，必ずこし網を通して補給してください。
＊燃料キャップが締まっているか確認してください。

■エアー抜きのしかた

燃料のエアー抜きは，
- 燃料フィルタ及び配管を外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

などに行なう必要があります。

❶タンクに燃料を満たします。
❷燃料コックレバーを**“開”**にします。



❸エアー抜きコックを開き，フィルタカップ内に燃料が満たされたのを確認してから5～10秒後コックを閉じます。

重 要

＊エアー抜きコックは，エアー抜きするとき以外は必ず閉じておいてください。

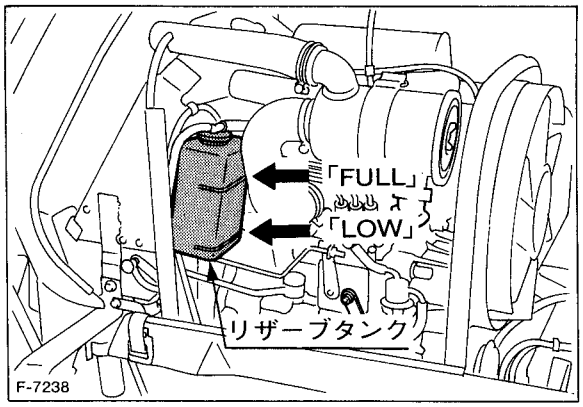
■冷却水

注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中や停止直後に開けると，熱湯が噴出し，ヤケドすることがありますので，停止後30分以上たって冷えてからにしてください。
＊ラジエータキャップを開けるときは，最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてから，キャップをはずしてください。

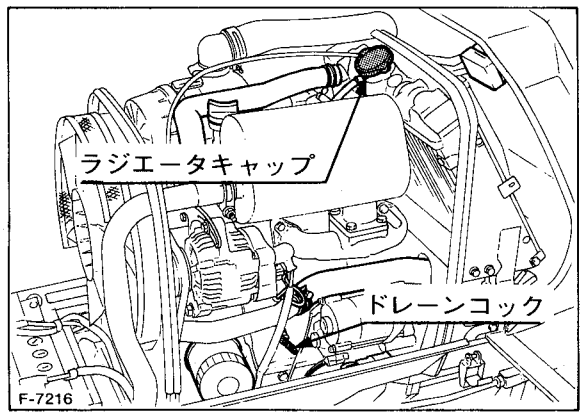
◆点検

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給する構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**“FULLからLOWの範囲”**であれば適量です。
冷却水が**“LOW”**以下の場合は，**“FULLのレベルのすぐ下”**まで補給してください。
“FULL”以上は入れないでください。



◆交換

❶冷却水を抜くときは，エンジンのドレーンコックを開くと共にラジエータキャップを外して，冷却水を全部出します。
リザーブタンクの排水は，タンクを外し排水します。



❷水道の水でラジエータ内を洗浄し，ドレーンコックを閉めオーバフローパイプを取付けます。

❸ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。

❹エンジンを始動すると冷却水がエンジン内に送られ，ラジエータ内の冷却水が少し減少しますので，再度エンジンを止めて給水してください。

■不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもつており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)をあらかじめ清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，長期保管する場合は冷却水を完全に排水してください。
[工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。]

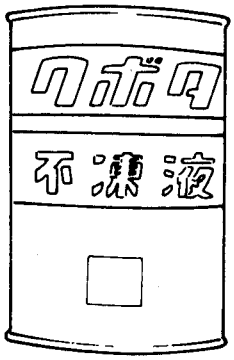
重　要

＊冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を50％入れて，よく混ぜ合せてからお使いください。

＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。

＊クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。
必ず2年で交換してください。

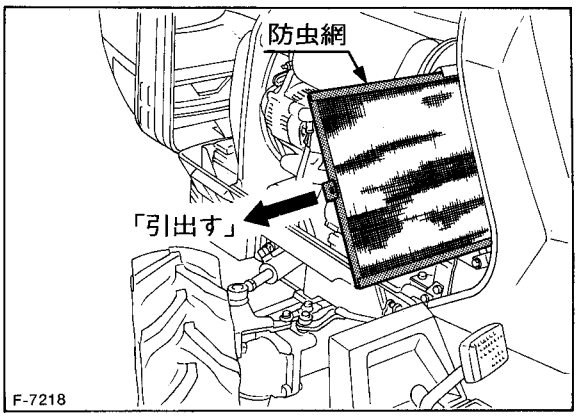


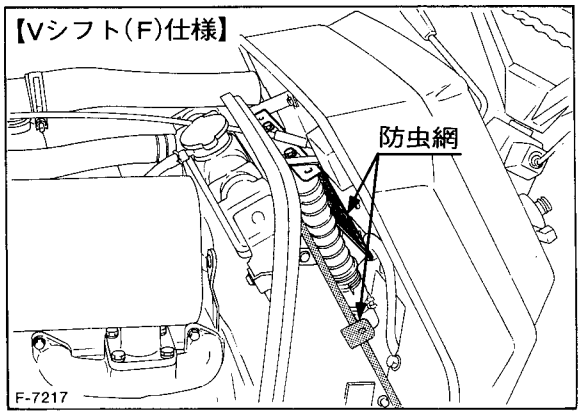
■防虫網の清掃

注　意

＊エンジンを必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫などが付着し詰まることがありますので，必ず防虫網を清掃してください。





■ラジエータコアーの清掃

フィンとチューブの間にまでゴミが入った場合は，水道水(圧力水)で流してください。

重 要

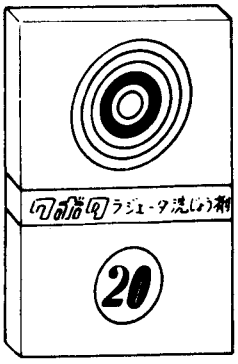
＊ヘラやドライバなど固いもので清掃しないでください。フィンを傷めラジエータの機能を低下させる原因になります。

■ラジエータの洗浄

ラジエータ内は，クボタラジエータ洗浄剤No.20を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。

- 500時間運転ごと
- 不凍液を使用するとき
- 不凍液から水だけに変えるとき

などに使用してください。



Z-1009

■ラジエータから水漏れした場合

(1)少しの水漏れの場合は，クボタラジエータセメントNo.40を使用すれば止まります。

(2)水漏れが激しい場合は，お買あげいただいた購入先にご相談ください。

各部への給油と交換(トラクタ)

注 意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

(1)点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。

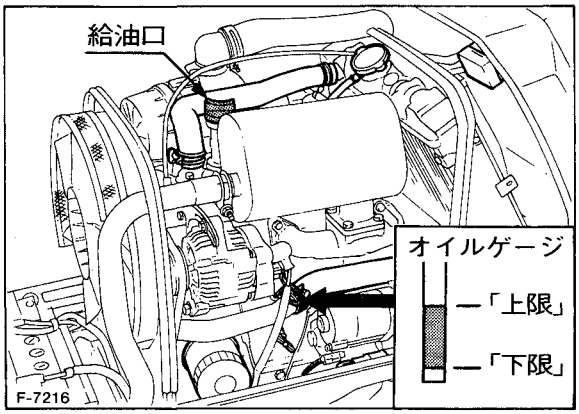
(2)使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ギヤーオイルは，必ず**“クボタ純オイル”**を使用してください。(70ページ参照)

■エンジンオイル

◆点検

❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**“下限と上限の間”**にオイルがあるかを調べます。

❷**“下限”**以下の場合は補給してください。ただし，**“上限”**以上には入れないでください。



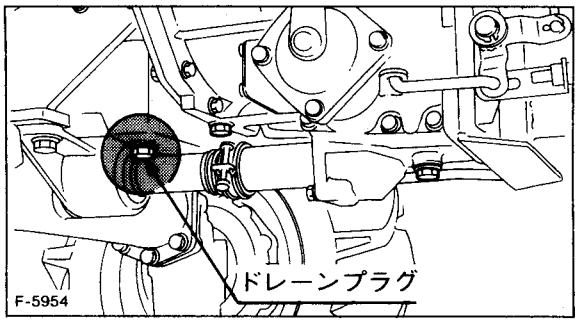
重 要

＊点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。

＊オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約３分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。



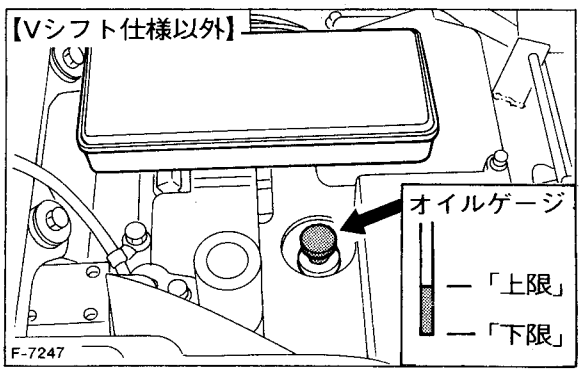
❷給油口からエンジンオイルを，規定量入れてください。

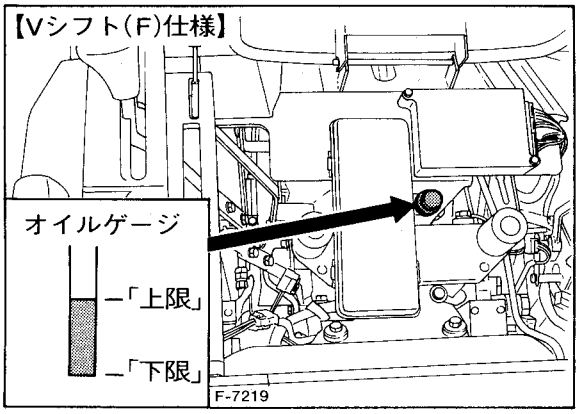
■ミッションオイル

◆点検

❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**“下限と上限の間”**にオイルがあるかを調べます。ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。

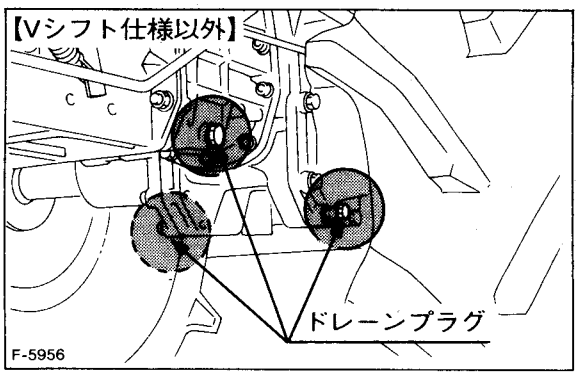
❷ **“下限”**以下の場合は補給してください。ただし，**“上限”**以上には入れないでください。

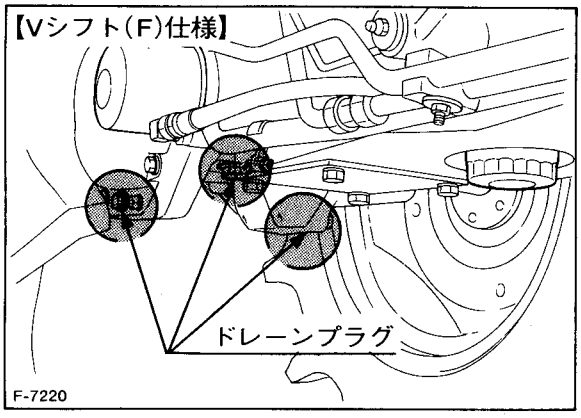




◆交換

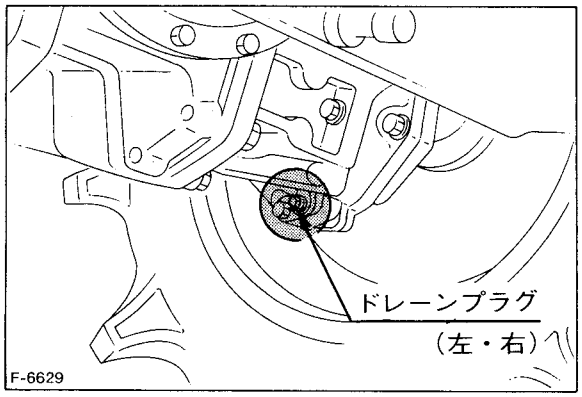
❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。





[K仕様]

ケース(L1)のドレーンプラグ(左・右)も外してオイルを排出してください。



補　足

＊給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。

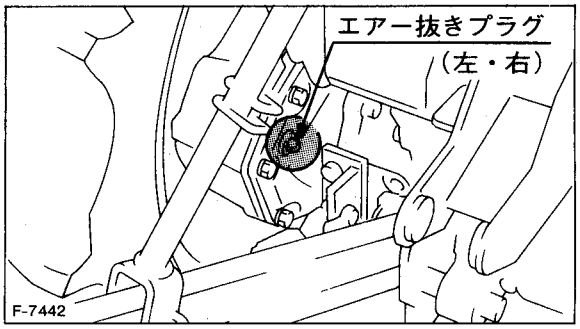
❷給油口からミッションオイルを規定量入れてください。

[K仕様]

ケース(L1)のエアー抜きプラグ(左・右)を外して給油してください。給油後はエアー抜きプラグを確実に締めてください。

❸約５分間運転し，ドレーンプラグを締付けた所より油漏れがないか確認し，エンジンを停止します。

❹一度オイルゲージの油を拭き取り再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給します。

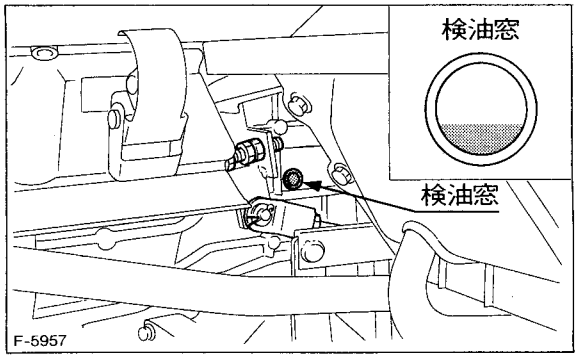


■フロントギヤーケースのオイル

◆点検

❶オイルレベルが検油窓にあるかを調べます。

❷検油窓以下の場合は補給が必要ですが，検油窓以上には入れないでください。(油量はオイルレベルが検油窓内に見える範囲にしてください。)

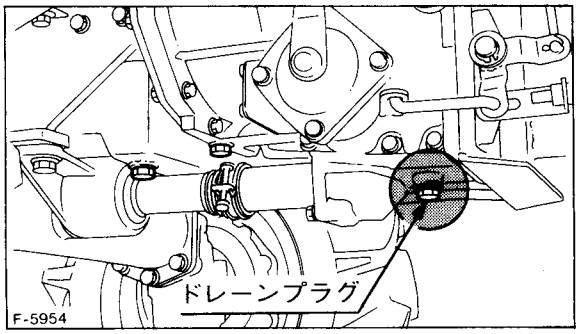


◆交換

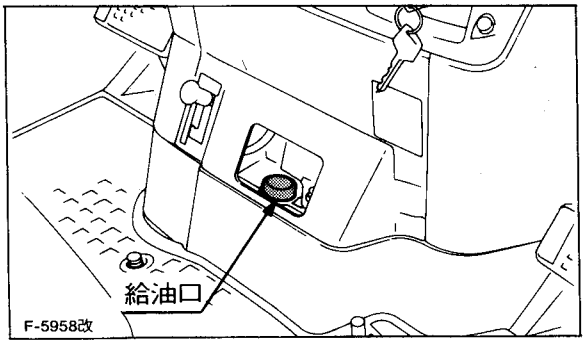
❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

補　足

＊給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。



❷給油口からミッションオイルを規定量入れてください。

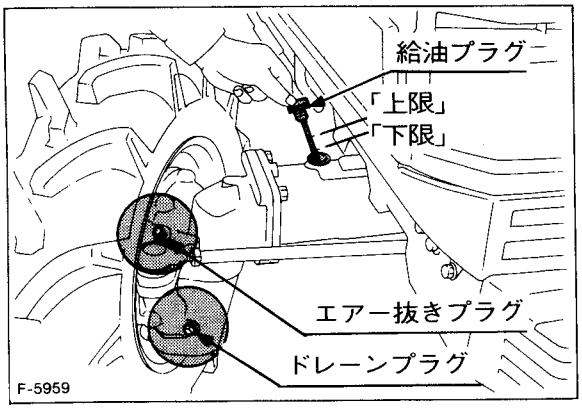


■前車軸ケースオイル

◆点検

❶給油プラグを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**“下限と上限の間”**にオイルがあるかを調べます。

❷**“下限”**以下の場合は補給してください。ただし**“上限”**以上には入れないでください。



◆交換

❶ドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを抜きます。

❷エアー抜きプラグを外し，給油口から新しいオイルを規定量入れてください。

❸エアー抜きプラグを確実に閉めてください。

各部への給油と交換(ロータリ)

注 意

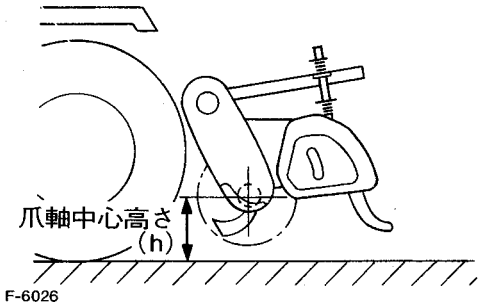
＊エンジンは必ず停止して給油と交換を行ってください。

補 足

＊ロータリのオイル量を点検するときは，トラクタの形式によってロータリの爪軸中心高さを調整して行なってください。
爪軸中心高が正しくないと正確な量を示さないことがあります。

オイル量点検時の爪軸中心高さh(cm)			
ロータリ / トラクタ	サイドドライブ		センタドライブ
	ギヤケース	チェーンケース	ロータリケース
A155	28	16	42
A155J	29	17	46
A155K	20	8	37
A175	29	16	45
A175J·A195	33	21	49
A175K·A195K	22	11	39
A195J	35	24	52

(但しバラツキによる誤差はあります)



■ギヤーケースオイル

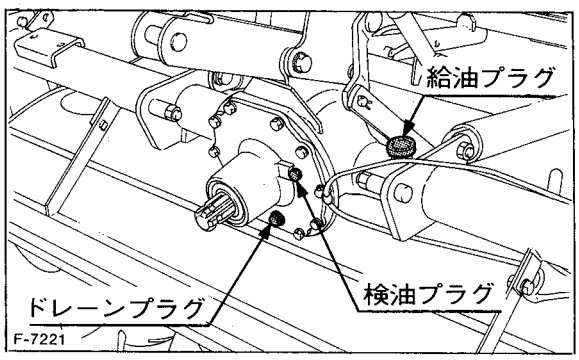
【サイドドライブ仕様】

◆点検

❶ロータリの爪軸中心高さを調整します。(各部への給油と交換参照)

❷検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べます。

❸検油口以下の場合は補給しますが，検油口以上には入れないでください。



◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

❷ギヤーオイルを給油口から，規定量入れてください。

■チェーンケースオイル

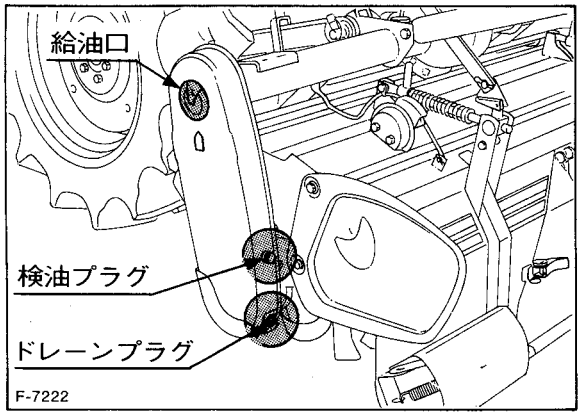
【サイドドライブ仕様】

◆点検

❶ロータリの爪軸中心高さを調整します。(各部への給油と交換参照)

❷検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べます。

❸検油口以下の場合は補給しますが，検油口以上には入れないでください。



◆交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
検油プラグをゆるめておくと排出しやすくなります。

❷ギヤーオイルを給油口から，規定量入れてください。

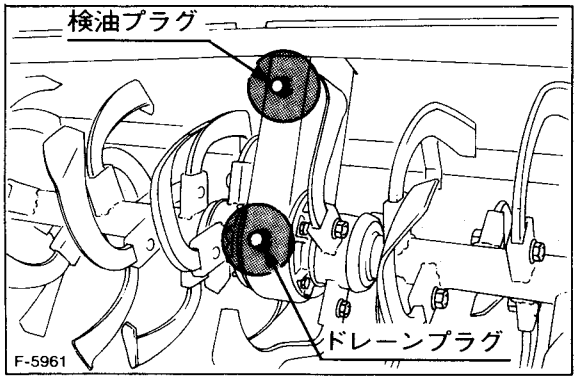
■ロータリケースオイル
【センタドライブ仕様】

◆点検

❶ロータリの爪軸中心高さを調整します。
(各部の給油と交換参照)

❷検油プラグを外し，検油口までオイルがあるか調べます。

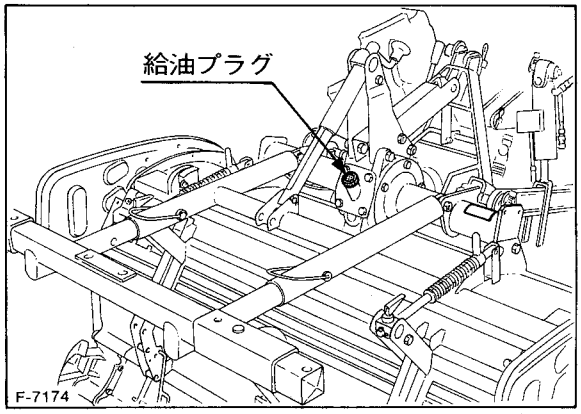
❸検油口以下の場合は補給しますが，検油口以上には入れないでください。



◆交換

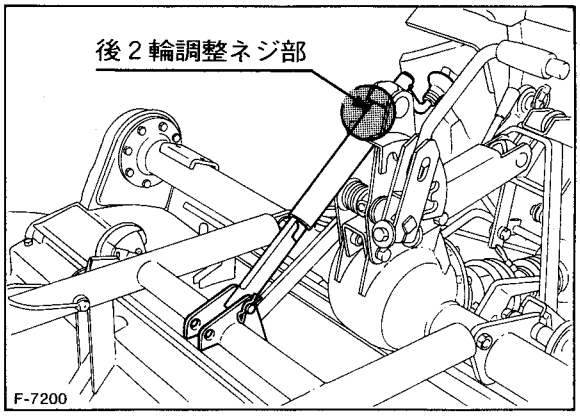
❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
検油プラグをゆるめておくと排出しやすくなります。

❷ギヤーオイルを給油口から，規定量入れてください。



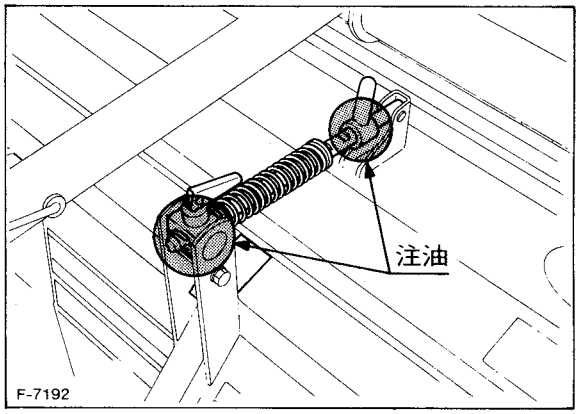
■内管(後２輪調整ネジ部)

オイルを適量注油します。



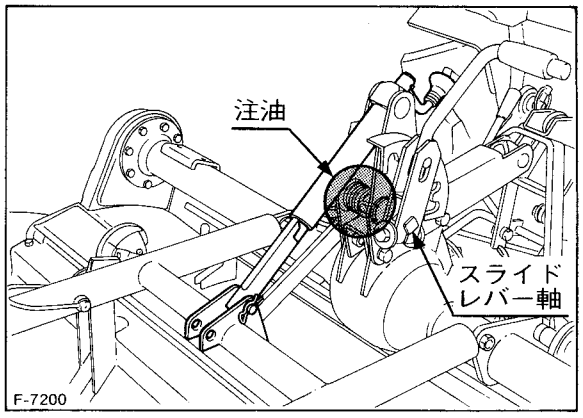
■ロッド部

オイルを適量注油します。



■スライドレバー部

オイルを適量注油します。

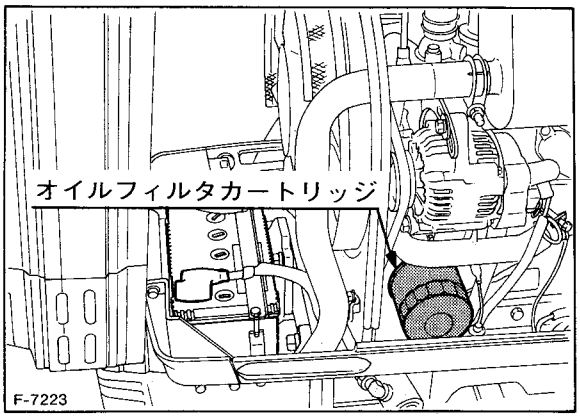


フィルタの交換と洗浄

■エンジンオイルフィルタ カートリッジの交換

注 意

＊交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。



❶フィルタレンチで取外します。
❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❸エンジンオイルを規定量補給します。
❹エンジンを約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか確認してから止めます。
❺一度オイルゲージの油を拭き取り再びオイルゲージで油面を確認し，不足していればエンジンオイルを補給してください。

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

注 意

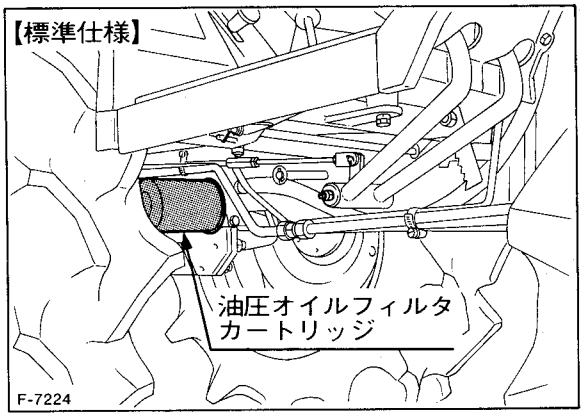
＊交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

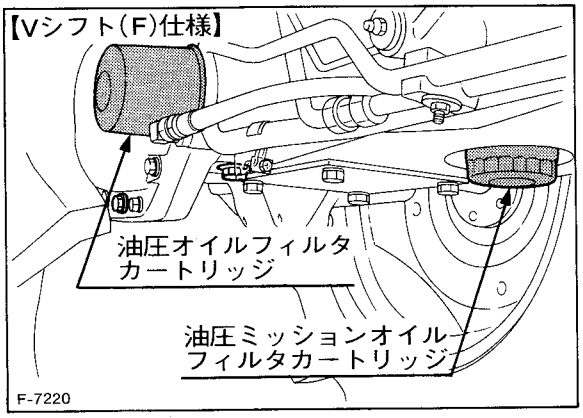
■油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換 【Vシフト(F)仕様】

注 意

＊交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶フィルタレンチで取外します。





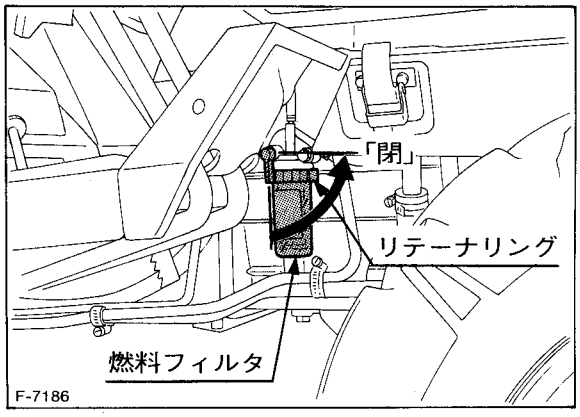
❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❸ミッションオイルを規定量まで補給します。
❹約５分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
❺一度オイルゲージの油を拭き取り再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。

■燃料フィルタエレメントの交換

❶燃料フィルタのコックを閉じてください。
❷カップ上部のリテーナリングを回してカップを外し，カップ内部を軽油で洗浄します。
❸新しいフィルタエレメントと交換します。

重　要

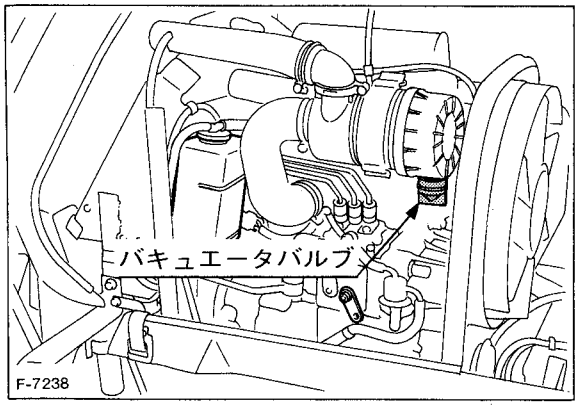
＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊エレメントを交換後は，必ずエアー抜きをしてください。



■エアークリーナエレメント

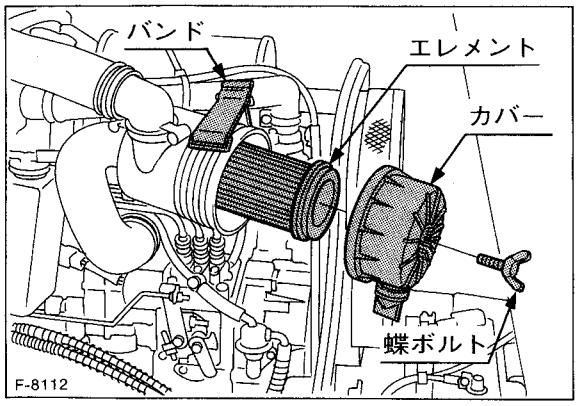
◆バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアークリーナを掃除してください。



◆エレメントの清掃

❶バンドを外し，エアクリーナを少し持上げます。
❷蝶ボルトを外し，カバーを外してエレメントを取外します。
❸エレメントの清掃は，エレメントの内側から空気を吹付けるか，又は手で軽く振ってゴミを取除いてください。



◆エレメントの交換

エレメントの交換は，１年間使用後又は６回掃除ごとに交換してください。

重　要

＊乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用してはいけません。
＊エレメントは，清掃・交換のとき以外はさわらないでください。
＊エレメントをたたいて変形させないでください。
変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。
変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。

各部の点検・調整

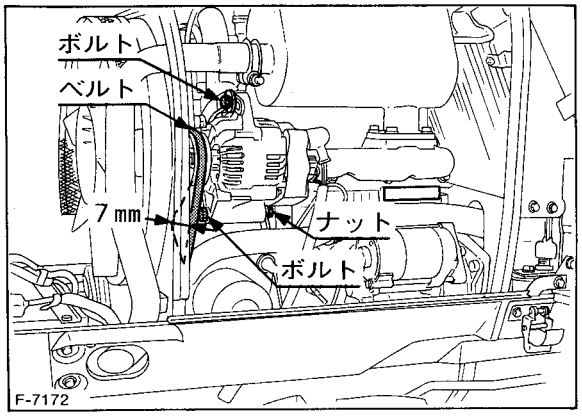
注　意

＊エンジンは必ず停止して調整してください。

■ファンベルトの張り具合

◆点検

ベルトの中央部を指先で押えて，約７㎜程度たわむか確認してください。



重　要

＊ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。

◆調整

❶オルタネータを取付けているナットとボルトをゆるめます。

❷オルタネータを動かし，ベルトの張りが約７㎜たわむ程度に調整します。

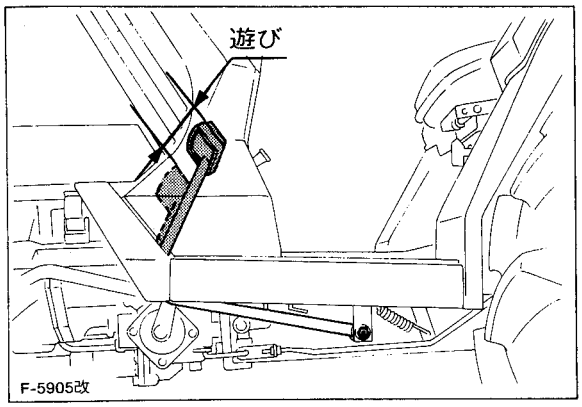
❸調整後はナットとボルトを確実に締付けます。

❹ベルトにき裂やはがれがないか点検し，損傷があれば新品と交換してください。

■クラッチペダル

◆点検

ペダルの遊び量が20～30㎜あるか確認してください。



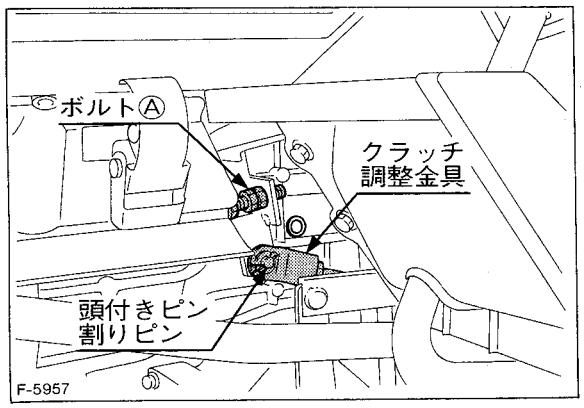
重　要

＊クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起しクラッチ板（ディスク）の損傷につながります。

◆調整

頭付きピンを外し，クラッチ調整金具を回して，ペダルの遊びを調整します。

調整後は割りピンを確実に組付けておいてください。



補　足

＊ボルトⒶは，クラッチペダルの最大踏込み量を規制して，クラッチのダイヤフラムのオーバーストロークを防ぐもので，工場出荷時に調節して固定ロックしてありますので，さわらないようにお願いします。

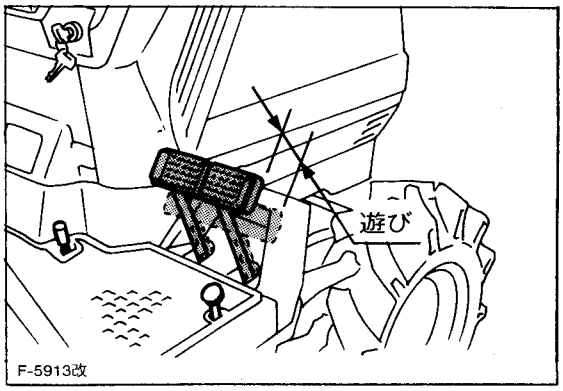
■ブレーキペダル

注　意

＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。
常に作動状態に注意してください。
＊調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず５㎜以内にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。
ブレーキが片ぎきになると傷害事故を引起すおそれがあります。

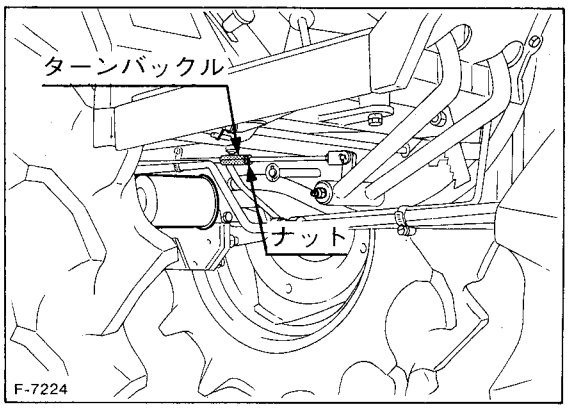
◆点検

左右のペダルの遊び量が20～30㎜あるか確認してください。



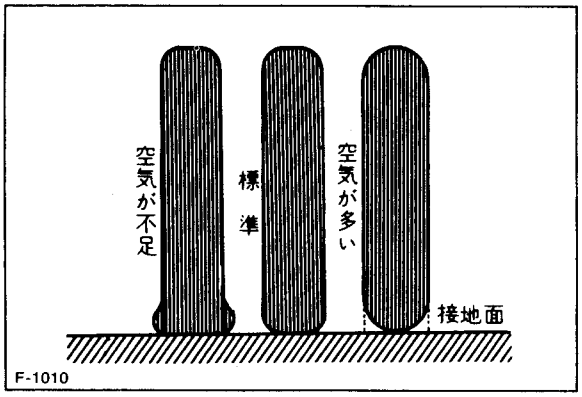
◆調整

❶駐車ブレーキを解除します。
❷ナットをゆるめ，ターンバックルを回して，ペダル遊び量が左右とも20～30㎜になるよう，また段差が５㎜以内になるように調整します。
❸調整後はナットを確実に締付けます。
❹駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。



■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎの通りです。



◆標準空気圧

	空気圧(kgf/cm²)
前　　輪	1.2(5.00－12)，2.0(6－12)
後　　輪	1.6

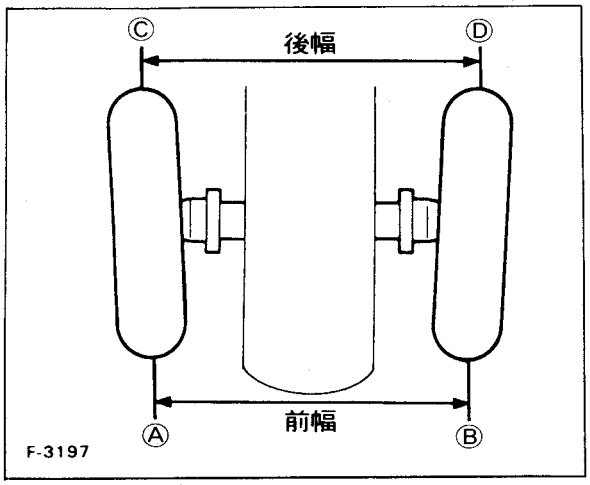
■トーイン

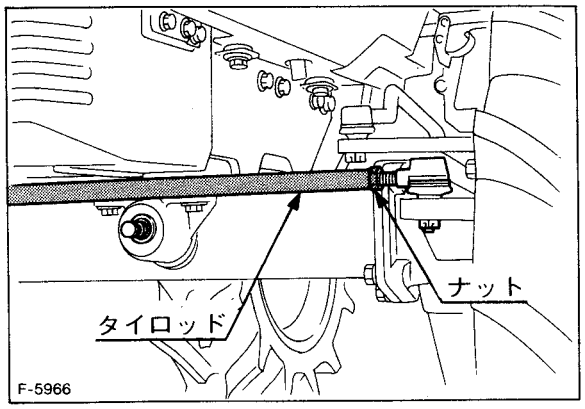
注　意

＊トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆点検

前輪の前幅ⒶⒷと後幅ⒸⒹを測り，ⒸⒹ－ⒶⒷ＝２～10㎜になっているかを調べます。





◆調整

ナットをゆるめ，タイロッドを回してⒸⒹ－ⒶⒷ＝２～10㎜になるように調整します。

調整後はナットを確実に締付けておいてください。

■前車軸支持部

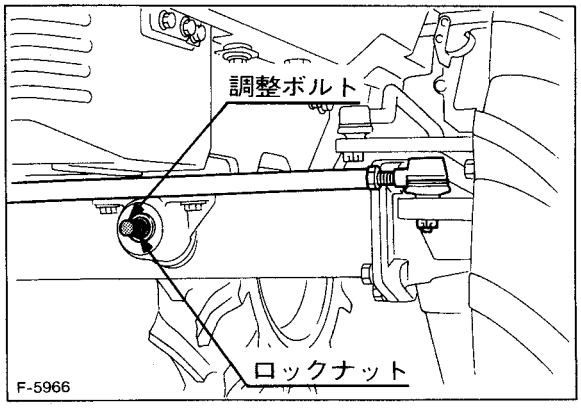
前車軸支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆調整

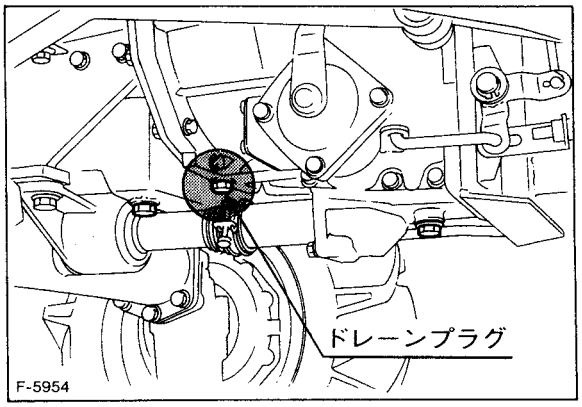
ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込み，ガタを調整します。



■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨中作業などで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外し，水の浸入がないことを確認してください。

もし水が入っていれば，完全に抜いて内部をよく乾燥してください。



■排気ガスの色

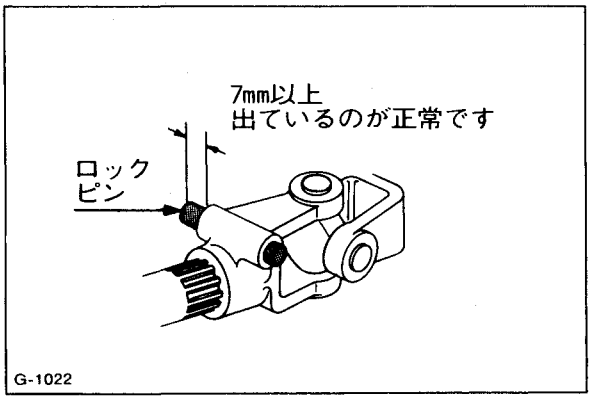
無　色……正常
黒　色……燃料が濃すぎるための不完全燃焼です。
青白色……冷機時アイドリング運転では，青白く見えることがありますが異常ではありません。

■ユニバーサルジョイントの点検

警　告

＊エンジンは必ず停止して点検してください。

ロックピンが正確にみぞにはまったかどうかの確認は，ピンの頭が**“7㎜以上”**出ているかどうかを調べます。（溝にロックピンがセットされるとカチッと音がします）



■シールの組替え

整備などの目的でギヤーケース，チェーンケース等を分解される場合は，必ず新しいオイルシール，ゴムキャップ，パッキン等と交換してください。オイルもれの原因となります。

グリースの注入箇所

注　意

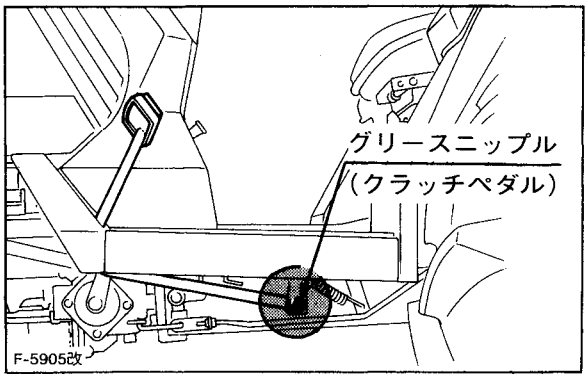
＊エンジンは必ず停止してグリースを注入してください

通常のグリースアップは，定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし，代かき作業などで泥水の中に入ったときは１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**“クボタ推奨グリース”**を使用してください。(70ページ参照)

■各部へのグリース注入

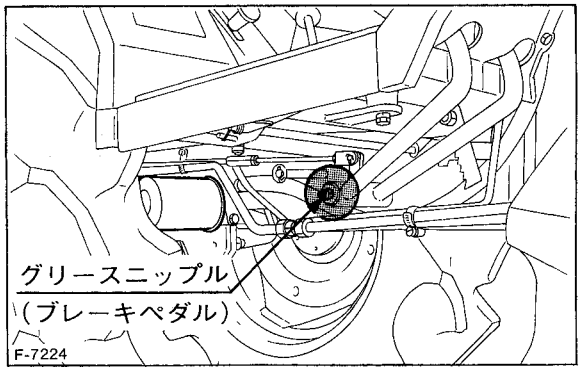
◆クラッチペダル

シャーシグリースを少量注入します。



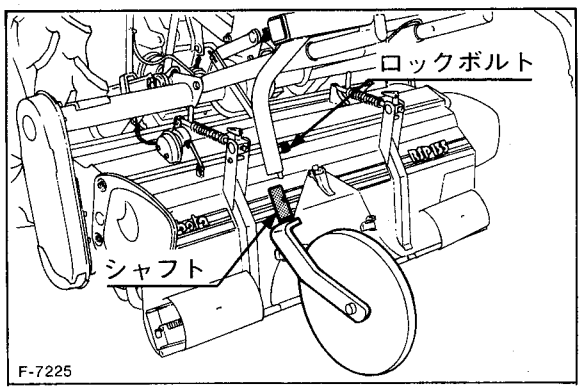
◆ブレーキペダル

シャーシグリースを少量注入します。



◆後２輪(２ヵ所)

ロックボルトを外し，シャフトの全面にシャーシグリースを適量塗布します。

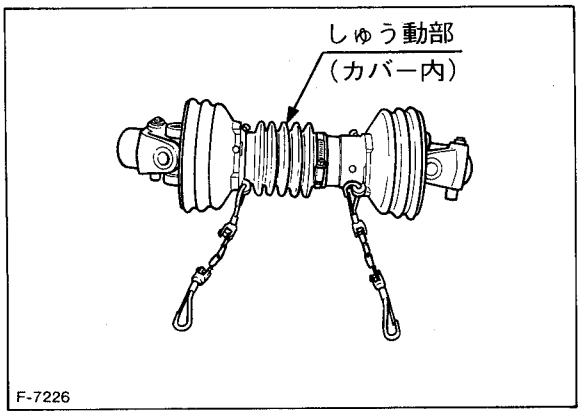


◆ユニバーサルジョイント

しゅう動部にグリースを適量注入してください。
しゅう動部は，ジョイントのオス・メス部を切離して補給してください。

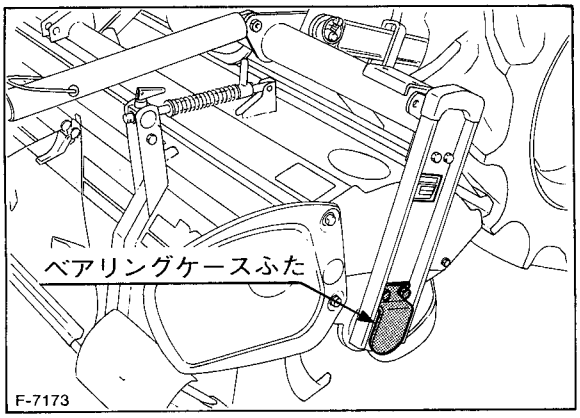
補　足

＊PTO軸・ロータリ側の軸にも，薄く塗布してください。



◆爪軸ベアリングケース【サイドドライブ仕様】

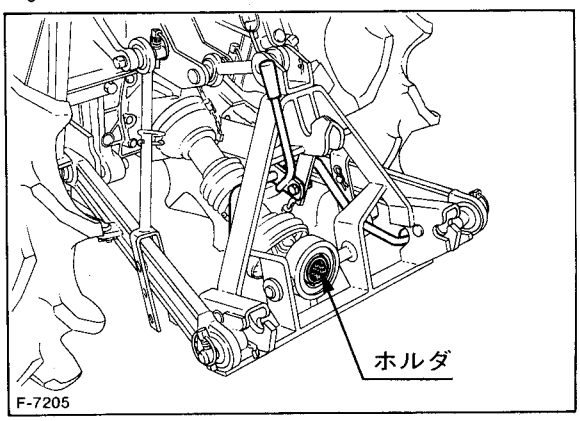
サイドフレームのベアリングケースふたを外し，ベアリンググリースを交換します。

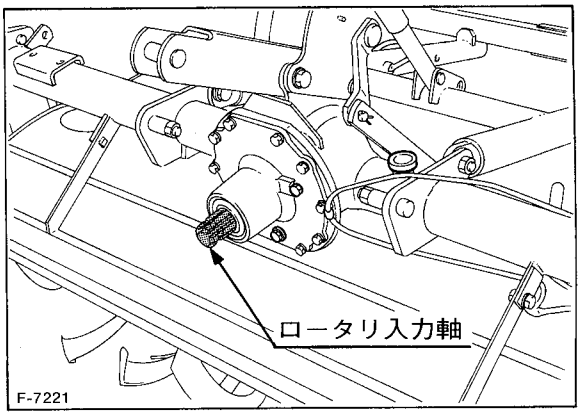


◆ロータリ入力軸【S仕様】

❶湿田耕うんや代かき作業後は，必ずロータリを切離し，ホルダ(ジョイント)内とロータリ入力軸の，泥をきれいに水で洗い流し，下図箇所にグリースを適量塗布してください。

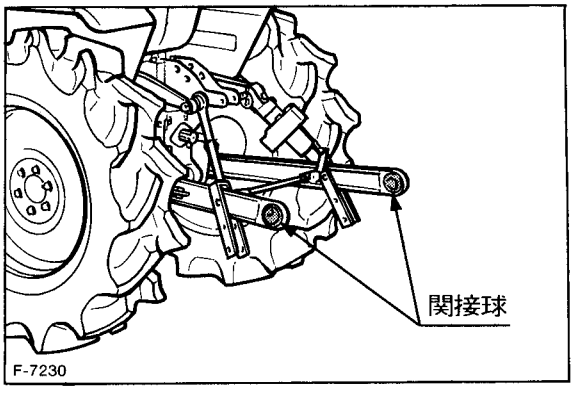
❷定期的にロータリを切離し，ホルダ(ジョイント)内とロータリ入力軸にグリースを適量塗布してください。





◆関接球へのグリースの塗布

リフトシリンダ・リフトロッド・ロアーリンク・トップリンクの関接球の球面にシャーシグリースを塗布してください。



電気系統について

警 告

＊バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。

＊バッテリの点検および取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを“OFF”(切)位置にしておいてください。

＊バッテリを取外すときは，短絡(ショート)事故を防ぐため，最初にバッテリ⊖コードを外し，接続するときは最後にバッテリ⊖コードを接続してください。

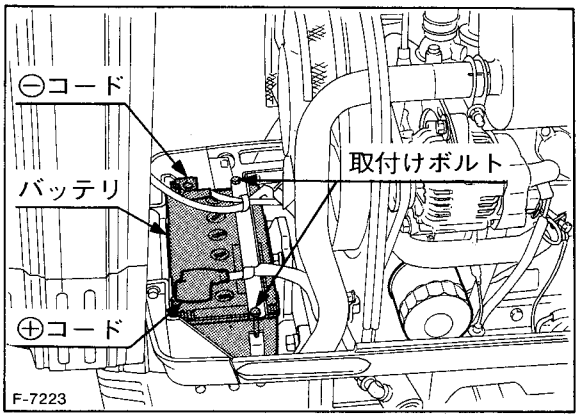
＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

■バッテリの取付け，取外し

❶バッテリ⊖コードを外し，左右の取付けボルトをゆるめます。

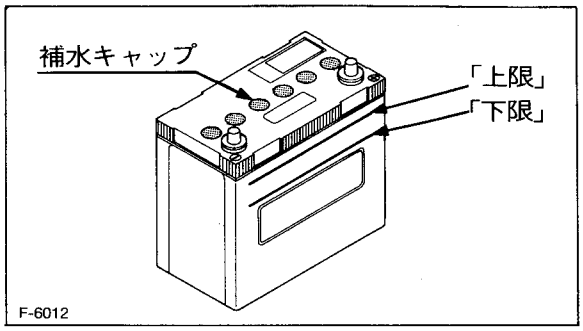
❷バッテリ⊕コードを外し，バッテリを取外します。

❸取付けるときは，必ず⊕側から取付けます。逆にすると，工具が当った場合にショートします。



■バッテリ液の点検

バッテリはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り度合がきわめて少なくなっていますが側面に２本の線(レベル)があり，その間に液面があればよく，少ないときは上側の線(レベル)まで蒸留水を補給してください。



◆MF(メンテナンスフリー)バッテリの補水のしかた

(1)バッテリ上フタの補水キャップを外します。マイナスドライバを補水キャップの溝に入れて反時計方向に回すとキャップが外れます。

(2)６個の補水穴から蒸留水を均一に上側の線(レベル)まで補水します。

(3)キャップを元の穴にねじ込みます。

重 要

＊バッテリ液が不足するとバッテリを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。

＊バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はバッテリの寿命を縮める為できるだけ避けてください。

＊バッテリにコードを接続するときは，⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。

＊バッテリからコードを外すときは⊖側，取付けるときは⊕側から行なってください。逆にすると，工具が当った場合にショートします。

＊充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，⊖を⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがえないように注意してください。

＊新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式(50B24L-MF)のバッテリを使用してください。

＊バッテリを外し，再度取付けるときにはバツテリの⊕，⊖のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

注 意

＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。

＊バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

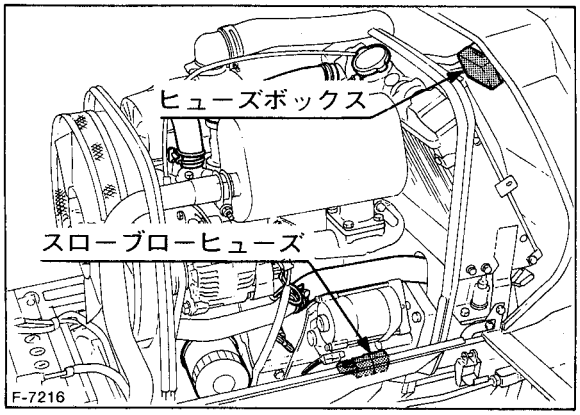
(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。

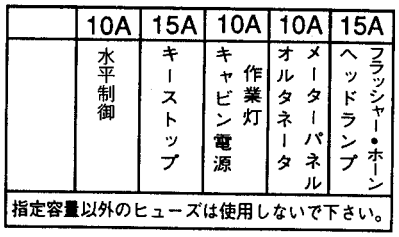
(2)ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。

(3)各スイッチが確実に作動すること。

■ヒューズの交換

❶ヒューズボックスのふたを外します。





F-7314

❷切れたヒューズを外します。

❸フタのラベルに示してある同容量のヒューズと取換えます。

重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検・修理してください。

■スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べてください。また決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

パイプ類の点検

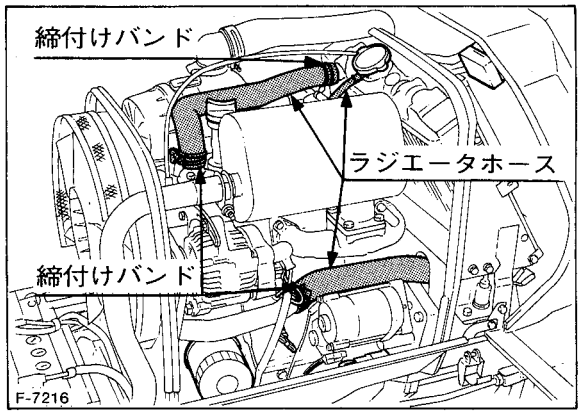
注　意

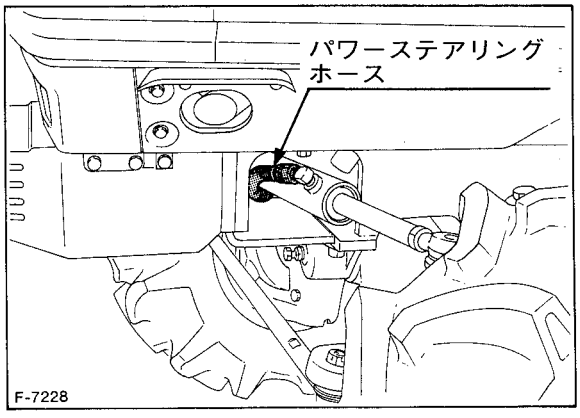
＊パイプ類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料などによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料パイプやラジエータホース，パワーステアリングホース，油圧ミッションオイルホースなどのゴム製品は，使わなくても老化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに，又は，傷んだときにはその都度新品と交換する必要があります。

(1)パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。

(2)燃料パイプを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。





重　要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

(1)不具合箇所は整備してください。

(2)エンジンオイルを交換し，2000回転/分以上で10～15分間運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。

(3)定期点検箇所一覧表の項目を確認するようにしてください。

(4)車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。

(5)燃料コックを“閉”にしておいてください。

(6)冷却水は抜いておいてください。

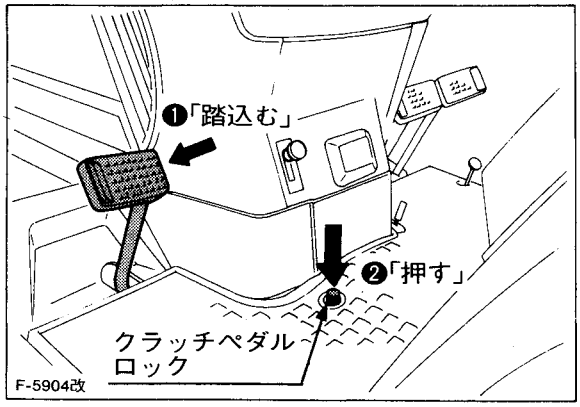
(7)クラッチペダルは，クラッチを踏込んだ状態で**“クラッチペダルロック”**を掛けてください。
クラッチ板のさび付きを防止します。

◆クラッチ“切”保持の方法

❶クラッチペダルをいっぱい踏込んでから，ロックボタンを手で押下げます。

❷押下げたまま，クラッチペダルから足を離せば**“切”**の状態で保持されます。

❸使用するときは，クラッチペダルをいっぱい踏込めばロックが解除されます。



(8)クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が浸入していないことを確認してください。

(9)タイヤの空気圧は，標準より高いめにしてください。

(10)バッテリを車体から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。

(11)作業機は外すか地面に降ろした状態にしてください。

(12)後輪の前後に車止めをしておいてください。

(13)各部の配線・バッテリコード・燃料配管などの，キレツ・被覆の破れ，コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。

(14)格納中バッテリは，１カ月に１回完全充電するようにしましょう。

(15)格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

注　意

＊シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
▶これを守らないと……
火災を起す原因になります。

重　要

＊洗車するときはエンジンを止めてください。もしエンジンをかけたまま洗車するときは，エアークリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入るとエンジンを破損することがあります。

エンジンの不調と処置

万一エンジンの調子が悪い場合は，次表により診断し，処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	●燃料タンクを点検し，沈澱している不純物や水分を除く。 ●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	●パイプ及び締付けバンドを点検し，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ●エアー抜きをする。(50ページ参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	●ラジエータに熱湯をそそぐ。 ●気温によってオイルの使い分けをする。 (冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	●バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。
	(2)エアークリーナの目詰まり。	●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料切れ	●燃料を補給する。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	●良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	●正規のオイル量にする。
水温計の指針がレッドゾーンを示すとき	(1)冷却水が125℃以上になったため。	●ボンネット密閉の点検 (左右のボンネットフックレバーが確実にロックされているか点検する。) ●冷却水の量(不足)及び水もれの点検 ●ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 ●ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。

☆原因や処置のしかたがわからない場合は，購入先にご相談ください。

付　表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

形式		A−155	A−155K	A−175	A−175K	A−175F	A−175FK	A−195	A−195K	A−195F	A−195FK
駆動方式		四輪駆動									
機体寸法	全長(mm)	2250		2280				2300	2280	2300	2280
	全幅(mm)	1050									
	全高(mm)	1800	1155（ステアリングホイール）	1825	1170（ステアリングホイール）	1825	1170（ステアリングホイール）	1850	1170（ステアリングホイール）	1850	1170（ステアリングホイール）
	軸距(mm)	1350									
	輪距 前輪(mm)	820	860	820	860	820	860	820	860	820	860
	輪距 後輪(mm)	810，900									
	最低地上高(mm)	300	215（デフギヤケース）	310	240（前車軸ケース）	310	240（前車軸ケース）	310	240（前車軸ケース）	310	240（前車軸ケース）
重量(kg)		665	690	685	700	705	720	695	700	715	720
エンジン	名称	クボタD905(-H)		クボタD1005(-H)				クボタD1105(-H)			
	形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル(NewTVCS)									
	総排気量(c.c.)	898		1001				1123			
	出力/回転速度(PS/rpm)	16/2650		17.5/2650				19/2650			
	使用燃料	クボタディーゼル重油，又はディーゼル軽油									
	燃料タンク容量(ℓ)	17									
	始動方式	セルモータ式									
	バッテリ	50B24L−MF(12V・45Ah)									
タイヤ	前輪	5.00−12		6−12	5.00−12	6−12	5.00−12	6−12	5.00−12	6−12	5.00−12
	後輪	8−16		8−18				8.3−20	8−18	8.3−20	8−18
車体	クラッチ方式	乾式単板(シングル)									
	制動装置	一系統左右独立(連結装置付)，湿式ディスクブレーキ(機械式)									
	かじ取り方式	ボールスクリュ式		ボールスクリュ式(BS仕様　パワーステアリング)							
	差動方式	4ピニオンかさ歯車式(デフロック付)									
	変速方式	選択かみ合式・常時かみ合式併用(F仕様 油圧無段変速併用)									
変速段数		前進6段，後進2段				主変速無段副変速2段	前後進無段	前進6段，後進2段		主変速無段副変速2段	前後進無段
走行速度(km/h)	前進	0.9〜12.1		1.0〜13.0		0〜13.0		1.1〜13.9		0〜13.9	
	後進	1.3〜5.5		1.4〜6.0		0〜6.0		1.5〜6.4		0〜6.4	
最小旋回半径(ブレーキ使用時)(m)		1.8									
PTO	回転速度/エンジン回転速度(rpm)	450，795，1187，612(逆転)/2650　F仕様451，769，1171，564(逆転)/2650									
	軸寸法(mm)	JIS 35									
昇降装置作業機	制御方式	ポジションコントロール									
	装着方式	3点リンク JIS O形									

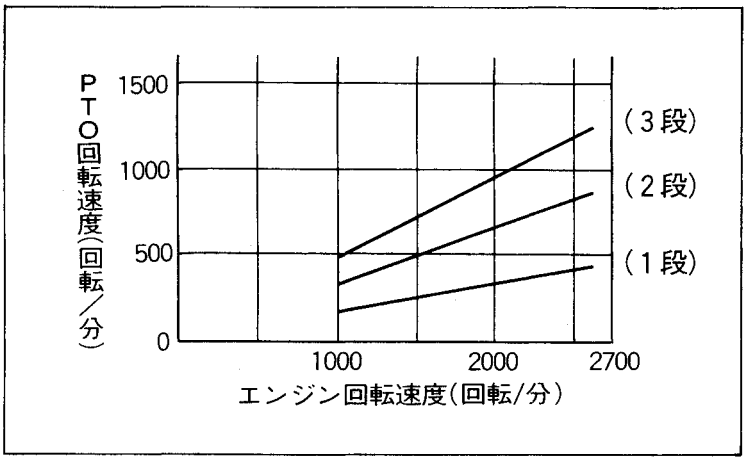
注）全長はバンパ先端から後輪タイヤ後端までの寸法です。

■走行速度表

(km/h)

標準仕様								Vシフト(F)仕様				
副変速レバー	主変速レバー	A−155		A−175		A−195		副変速レバー	A−175F		A−195F	
		前進	後進	前進	後進	前進	後進		前進	後進	前進	後進
低	1	0.93		1.01		1.06		低	0〜4.2	0〜1.9	0〜4.4	0〜2.0
	2	1.64	1.31	1.77	1.41	1.88	1.49					
	3	2.65		2.85		3.04						
高	1	3.96		4.27		4.54		高	0〜13.0	0〜6.0	0〜13.9	0〜6.4
	2	6.99	5.54	7.53	5.97	8.01	6.36					
	3	12.12		13.04		13.90						

■PTO回転速度表



■ロータリの主要諸元

形式	RSP105	RSP115	RSP125	RSP135	RSP155	RSP165	RKP105	RKP125
駆動方式	サイドドライブ						センタドライブ	
機体寸法 全長(mm)	1465						1405	
機体寸法 全幅(mm)	1175	1275	1375	1475	1675	1775	1135	1330
機体寸法 全高(mm)	980(スライドレバー)						1005	
重量(kg)	150 (S)170	155 (S)175	160 (S)180	165 (S)185	175 (S)195	180 (S)200	140 (S)160	150 (S)170
適応トラクタ(PS)	A−155, A−175 (16, 17.5)	A−155, A−175, A−195 (16, 17.5, 19)				A−175, A−195 (17.5, 19)	A−155, A−175, A−195 (16, 17.5, 19)	
装着装備の種類	特殊3点リンク又はAフレーム(スーパージョイント付)							
標準耕幅(mm)	1000	1100	1200	1300	1500	1600	990	1230
標準耕深(cm)	12							
標準作業速度(km/h)	0.9〜4.5							
入力軸回転数(rpm)	450〜1187(逆転612)　F仕様　451〜1171(逆転564)							
変速の有無	無							
耕うん軸回転速度(rpm)	A155, A175, A195 153, 271, 404(逆転208) F仕様 154, 262, 399(逆転192)						A155, A175, A195 150, 264, 395(逆転203) F仕様 150, 256, 389(逆転187)	
耕うん爪取付方法	ホルダタイプ							
耕うん爪の種類	321号R, L各11本 322号R, L各1本	321号R, L各12本 322号R, L各1本	321号R, L各13本 322号R, L各1本	321号R, L各14本 322号R, L各1本	321号R, L各16本 322号R, L各1本	321号R, L各17本 322号R, L各1本	321号R, L各10本 533号R, L各2本 534号R, L各1本	321号R, L各12本 533号R, L各2本 534号R, L各1本
耕うん爪の外径(cm)	45							
耕深調節機構	後方双尾輪式, モンローマチックオート式【トラクタのMA仕様】							
耕うん作業能率(分/10a)	18〜89	16〜81	15〜74	14〜68	12〜59	11〜55	18〜90	14〜72

注1.機体寸法及び重量は, YB仕様。

2.(S)はAフレーム付(スーパージョイント付き)"S仕様"

標準付属品

品　　名	数量/台	備　　考	品　　名	数量/台	備　　考
10−12スパナ	1		取扱説明書	1	
14−17スパナ	1		サービスブック	1	
19−22スパナ	1		保証書	1	ロータリ装着時のみ
21−26スパナ	1		PTO軸カバー	1	
プライヤ	1		ボルト	2	PTO軸カバー取付け用
ヒューズ	2種	10アンペア，15アンペア	座金	2	PTO軸カバー取付け用
メインスイッチキーアッシ	1				

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

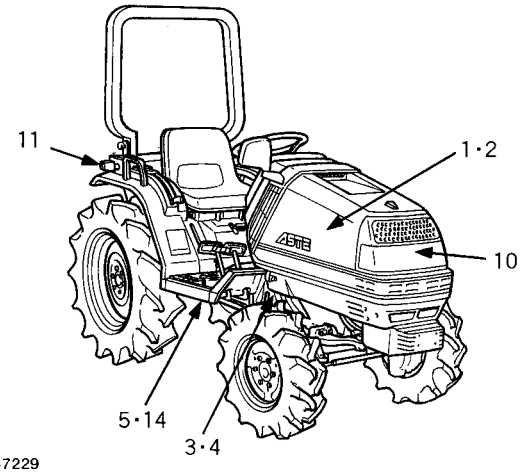
■エンジン・ミッションオイル・ギヤーオイル

メ　ー　カ	エンジンオイル	ミッションオイル	ギヤーオイル
日　本　石　油	クボタ純オイル（ディーゼルエンジン用）D30又はD10W30	クボタ純オイル UDT又はスーパーUDT	クボタ純オイル UDT・スーパーUDT又はM80B
コ　ス　モ　石　油			
ジャパンエナジー			
昭和シェル石油			
富　士　興　産			

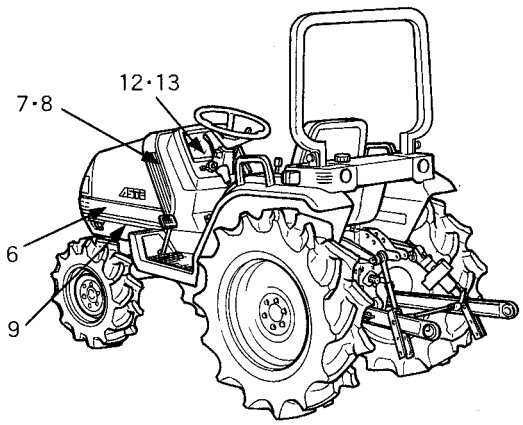
■グリース

メ　ー　カ	グ　リ　ー　ス	
	シャーシグリース	ホイールベアリンググリース
日　本　石　油	エピノックグリースAPNo.2	PAN WBグリース
コ　ス　モ　石　油	ダイナマックスEPNo.2	ロードマスターNo.2
ジャパンエナジー	リゾニックスグリースEPNo.2	リゾニックスグリースNo.2
昭和シェル石油	レチナックスCD	サンライトグリースNo.2
モービル石油	プレックス47	モービルグリースJL
エッソ石油	シャーシグリースL	リスタンWB2
出　光　興　産	シャーシグリース	アポロイルオートレックスA
三　菱　石　油	シャーシグリースNo.2	ホイールベアリングHDグリースNo.2
ゼネラル石油	シャーシグリースNo.2	WBグリースNo.2
キグナス石油	シャーシグリースNo.2	MPグリースNo.2

主な消耗部品一覧表

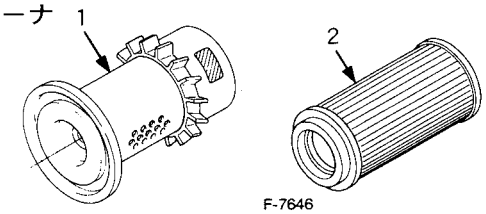


F-7229



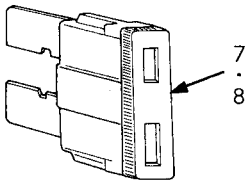
F-7230

エアークリーナ
エレメント



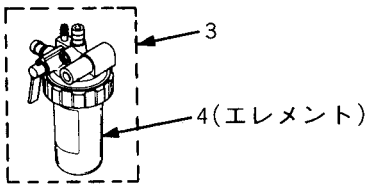
F-7646

ヒューズ



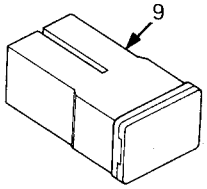
F-4757

燃料フィルタ



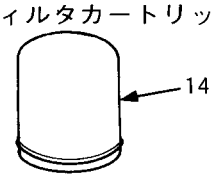
F-5272

スローブローヒューズ

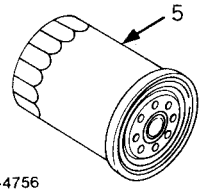


F-5849

油圧(ミッション)
オイルフィルタカートリッジ

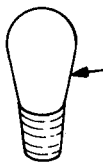


F-5273改



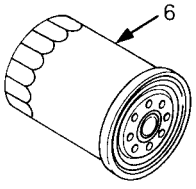
F-4756

電球



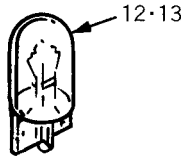
F-4759

エンジンオイルフィルタ
カートリッジ



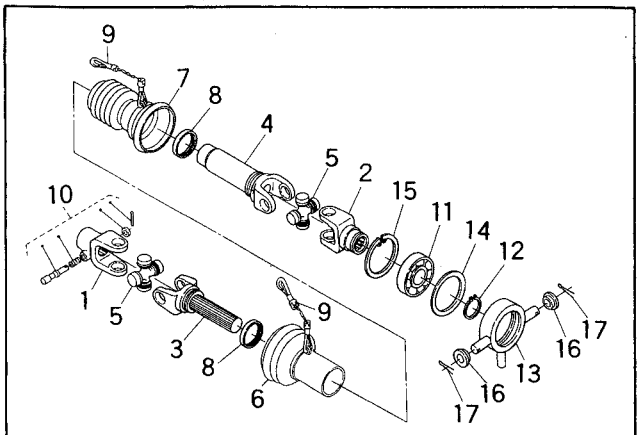
F-4756

イージーチェッカ用ランプ
バッテリチャージランプ
エンジンオイルランプ
グローランプ
モンローマチック表示ランプ ―12
オート耕うん表示ランプ
ポンパアップ表示ランプ ――13



F-5086

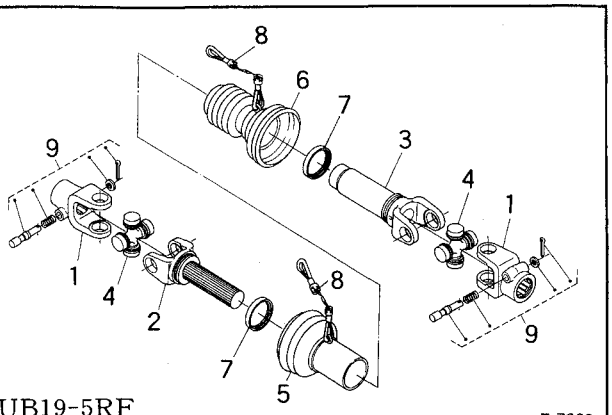
図番	品　　名	品　　番	図番	品　　名	品　　番
1	エレメントアッシ	52300-2578-0	8	ヒューズ15A	35820-7556-0
2	エレメントアッシ	67980-8263-0	9	スローブローヒューズ	34670-3453-0
3	フューエルフィルタアッシ	15531-4301-0	10	デンキュウ	67950-5417-0
4	フィルタエレメント	15231-4356-3	11	デンキュウ	37410-5272-0
5	油圧オイルフィルタカートリッジ	67955-3771-0	12	ランプ	38240-3147-0
6	エンジンオイルフィルタカートリッジ	15241-3209-0	13	ランプ	38070-3147-0
7	ヒューズ10A	36730-7555-0	14	油圧ミッションオイルフィルタカートリッジ【Vシフト(F)仕様】	66021-3606-0



UB19Q-5RF

F-7321

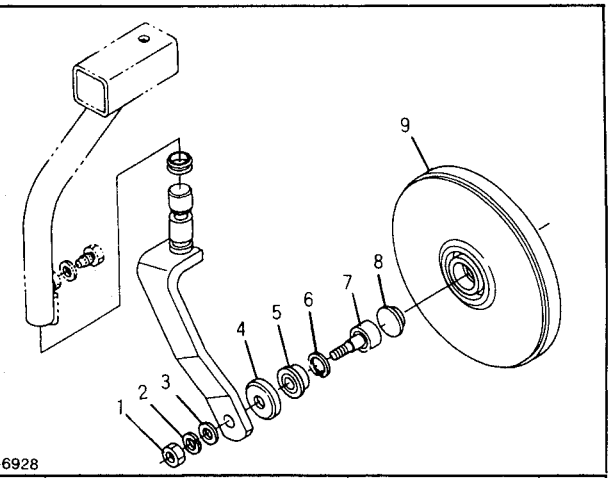
図番	品　　名	品　　番	個数
⊙	スーパージョイントアッシ	70529-4520-0	1
1	ヨーク１	70880-5812-0	1
2	ヨーク２	70529-4522-0	1
3	シャフトヨーク	70529-4512-0	1
4	スリーブヨーク	70529-4513-0	1
5	スパイダアッシ	79190-3125-0	2
6	セーフティカバーS	70529-4514-0	1
7	セーフティカバーL	70529-4515-2	1
8	スライドリング	70870-4317-0	2
9	チェーンアッシ	70815-5822-0	2
10	ロックピンアッシ	70678-5822-0	1
11	ボールベアリング	08141-06209	1
12	ジクサークリップ	04612-00450	1
13	サポート	70529-4523-0	1
14	カラー	70529-4525-0	1
15	アナサークリップ	04611-00850	1
16	ブッシュ	70529-4524-0	2
17	ワリピン	05511-50435	2



UB19-5RF

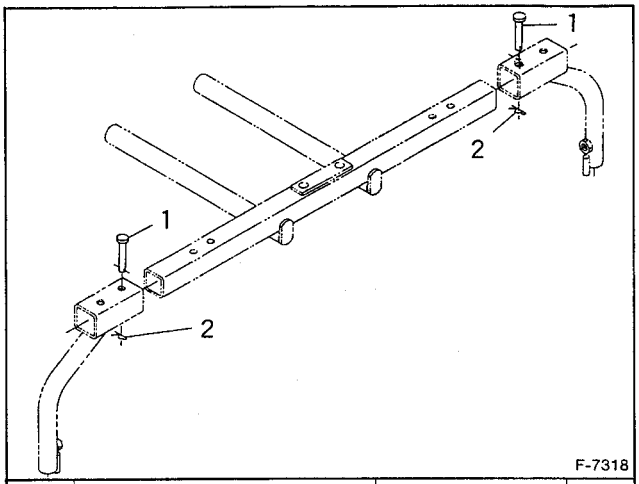
F-7320

図番	品　　名	品　　番	個数
⊙	ユニバーサルジョイントアッシ	70529-4511-0	1
1	ヨーク１	70880-5812-0	2
2	シャフトヨーク	70529-4512-0	1
3	スリーブヨーク	70529-4513-0	1
4	スパイダアッシ	79190-3125-0	2
5	セーフティカバーS	70529-4514-0	1
6	セーフティカバーL	70529-4515-2	1
7	スライドリング	70870-4317-0	2
8	チェーンアッシ	70815-5822-0	2
9	ロックピンアッシ	70678-5822-0	2



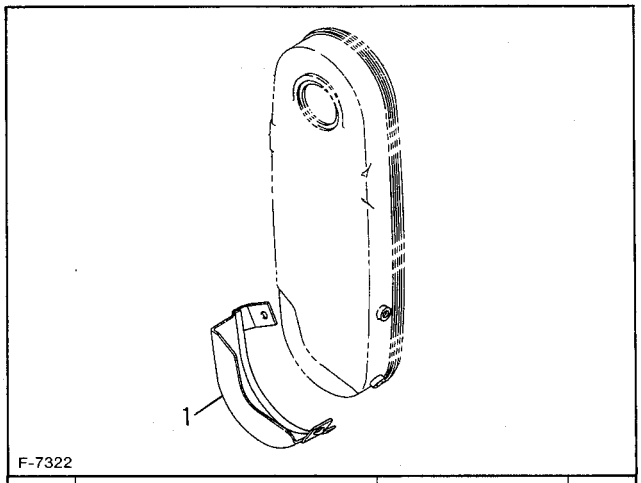
F-6928

図番	品　　名	品　　番	個数
1	ナット	02174-50160	1
2	バネ座金	04512-50160	1
3	平座金	04011-50160	1
4	カバー(ステー)	70159-5754-0	1
5	オイルシール(TCFY203712)	79153-3553-2	1
6	穴サークリップ	04611-00370	1
7	後２輪軸アッシ	79153-3552-0	1
8	シールキャップ	79163-3549-0	1
9	後２輪310	79153-7551-2	1



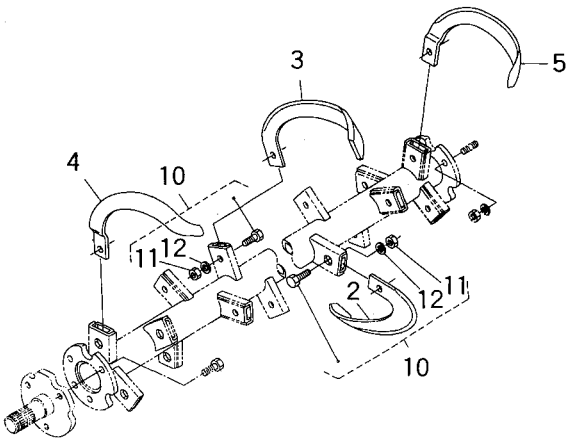
図番	品　　名	品　　番	個数
1	頭付きピン	05122-51270	2
2	スナップピン	05516-51200	2

■サイドドライブ仕様



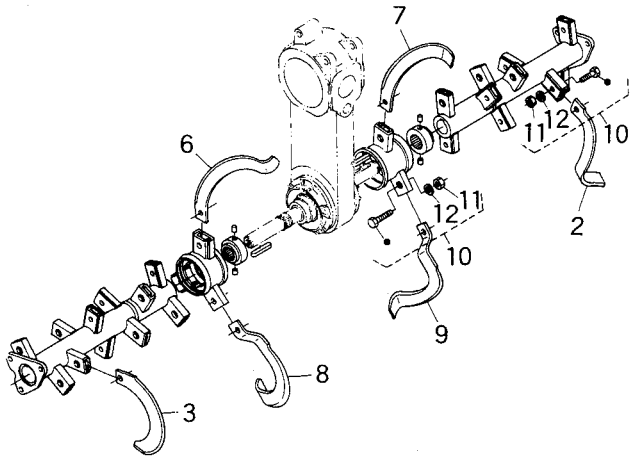
図番	品　　名	品　　番	個数
1	保護カバー	70529-5284-0	1

■サイドドライブ仕様



F-7319

■センタドライブ仕様



F-6025

図番	品名	品番	個数								備考
			RSP105	RSP115	RSP125	RSP135	RSP155	RSP165	RKP105	RKP125	
1	なた爪アッシ	70170-5754-0	1	—	—	—	—	—	—	—	②～⑤
1	なた爪アッシ	70171-5754-0	—	1	—	—	—	—	—	—	②～⑤
1	なた爪アッシ	70172-5754-0	—	—	1	—	—	—	—	—	②～⑤
1	なた爪アッシ	96181-9825-0	—	—	—	1	—	—	—	—	②～⑤ 水月産業
1	なた爪アッシ	70173-5754-0	—	—	—	1	—	—	—	—	②～⑤ 小橋工業
1	なた爪アッシ	70175-5754-0	—	—	—	—	1	—	—	—	②～⑤
1	なた爪アッシ	70548-6331-0	—	—	—	—	—	1	—	—	②,③,⑥～⑨
1	なた爪アッシ	70140-5754-0	—	—	—	—	—	—	1	—	②,③,⑥～⑨
1	なた爪アッシ	70180-5754-0	—	—	—	—	—	—	—	1	②,③,⑥～⑨
2	321号耕うん爪左	96181-1221-0	11	12	13	14	16	17	10	12	
3	321号耕うん爪右	96181-1222-0	11	12	13	14	16	17	10	12	
4	322号増幅爪左	79140-6261-0	1	1	1	1	1	1	—	—	
5	322号増幅爪右	79140-6262-0	1	1	1	1	1	1	—	—	
6	533号なた爪左	70101-5551-0	—	—	—	—	—	—	2	2	
7	533号なた爪右	70101-5552-0	—	—	—	—	—	—	2	2	
8	534号変形爪左	70101-5553-0	—	—	—	—	—	—	1	1	
9	534号変形爪右	70101-5554-0	—	—	—	—	—	—	1	1	
10	爪取付け部品1	70461-5555-0	24	26	28	30	34	36	26	30	⑪～⑬
11	爪取付けナット	64135-9519-0	24	26	28	30	34	36	26	30	
12	バネ座金	04512-50100	24	26	28	30	34	36	26	30	

アタッチメント一覧表

◆トラクタ

分類	品番	品名	用途・仕様		併用アタッチメント	適応トラクタ					
						A-155	A-155 大径タイヤ	A-175	A-175 大径タイヤ	A-195	A-195 大径タイヤ
補助車輪関係	96023 -07192	P15 反転ストレーク	外径 74.79cm 幅 15cm	5セット／台	96023-06490 8-16ストレーク取付け台	○					
			外径 79.84cm 幅 15cm		96023-06590 8-18ストレーク取付け台		○	○			
			外径 84.89cm 幅 15cm		96023-06692 8.3-20ストレーク取付け台				○	○	
			外径 89.94cm 幅 15cm		96023-08490 8.3-22ストレーク取付け台						○
	99036 -25000	P200 反転ストレーク	外径 76.81cm 幅 20cm	5セット／台	96023-06490 8-16ストレーク取付け台	○					
			外径 81.86cm 幅 20cm		96023-06590 8-18ストレーク取付け台		○	○			
			外径 86.91cm 幅 20cm		96023-06692 8.3-20ストレーク取付け台				○	○	
			外径 91.96cm 幅 20cm		96023-08490 8.3-22ストレーク取付け台						○
	96023 -07392	P30 反転ストレーク	外径 81.86cm 幅 30cm	5セット／台	96023-06490 8-16ストレーク取付け台	○					
			外径 86.91cm 幅 30cm		96023-06590 8-18ストレーク取付け台		○	○			
			外径 91.96cm 幅 30cm		96023-06692 8.3-20ストレーク取付け台				○	○	
			外径 96.10cm 幅 30cm		96023-08490 8.3-22ストレーク取付け台						○
	96023 -06490	8-16 ストレーク取付け台	反転ストレーク取付け用		P15, P200, P30 の反転ストレークを任意選択	○					
	96023 -06590	8-18 ストレーク取付け台	反転ストレーク取付け用				○	○			
	96023 -06692	8.3-20 ストレーク取付け台	反転ストレーク取付け用						○	○	
	96023 -08490	8.3-22 ストレーク取付け台	反転ストレーク取付け用								○
	V仕様(六角車軸)のみ下記を使用										
	96023 -07400	8-16 ストレーク取付け台	反転ストレーク取付け用		P15, P200, P30 の反転ストレークを任意選択	○					
	96023 -05400	8-18 ストレーク取付け台	反転ストレーク取付け用					○			
ウエイト関係	96312 -20140	8-16 ホイルウエイトアッシ	重量23kg×2個 (後輪用)			○	○	○			
	96312 -28100	8.3-22 ホイルウエイトアッシ	重量28kg×2個 (後輪用)						○	○	○
	96315 -10510	前部ウエイト 本体アッシ	重量25kg 使用個数1個			○	○	○	○	○	○
	96315 -15400	B_1-15 バンパウエイトアッシ	重量40kg 使用個数1個			○	○	○	○	○	○
その他	96316 -27300	B1400M ヒッチアッシ	ヒッチピン径 2.4cm			○	○	○	○	○	○
	96316 -27200	B1400 延長ヒッチアッシ	延長11cm ヒッチピン径2.4cm		96316-27301 B1400Mヒッチアッシ	○	○	○	○	○	○
	96397 -15100	B1500 洗車ポンプアッシ	吐出量55ℓ/分			○	○	○	○	○	○
	96314 -15400	B_1-15 作業灯アッシ	12V15W			○	○	○	○	○	○

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応トラクタ A-155	A-155 大径タイヤ	A-175	A-175 大径タイヤ	A-195	A-195 大径タイヤ
その他	96314-4870-0	A-155 レインガードキャビン	全高 A-195J 1930mm		○	○	○	○	○	○
	96315-4620-0	SF-A155 安全フレーム，アッシ	全高 A-155(J) 1800(1825)mm A-175(J) 1825(1850)mm A-195(J) 1850(1875)mm	安全鑑定証票(トラクタに貼付) A-155(67955-4775-0) A-175(67965-4775-0) A-195(67975-4775-0) A-175F(6A000-4775-0) A-195F(6A010-4775-0)	○	○	○	○	○	○
	96315-4630-0	SF-A155 キャノピ，アッシ	全高 A-155(J) 1906(1932)mm A-175(J) 1932(1959)mm A-195(J) 1959(1985)mm		○	○	○	○	○	○
	96314-4860-0	A-15 クリヤウインドアッシ	レインガードキャビンの防雨・防寒	A-155 レインガードキャビン	○	○	○	○	○	○
	71070-0802-0	A-5 ユアツトリダシキット	油圧取出し		○	○	○	○	○	○

◆ロータリ

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応ロータリ RSP105	RSP115	RSP125	RSP135	RSP155	RSP165	RKP105	RKP125
耕うん	70461-5555-0	爪取付け部品1	ボルト・ナット バネ座金 各1個	——	○ 24	○ 26	○ 28	○ 30	○ 34	○ 36	○ 26	○ 30
	96195-0630-0	200延長 爪軸アッシ10	左右各10cm 延長	——							○	
	96195-0640-0	400延長 爪軸アッシ	左右各20cm 延長	——							○	
	96195-0650-0	200延長 爪軸アッシ12	左右各10cm 延長	——								○
整地	99742-4270-0	代かき セットⅠ(02)	整地幅125cm 延長各60cm付	前部ウエイト 本体アッシ(25kg) (96315-1051-0)			○				⑫	○
	99752-4270-0	代かき セットⅡ(02)	整地幅145cm 延長各60cm付					○			⑭	⑫
	99762-4270-0	代かき セットⅢ(02)	整地幅165cm 延長各60cm付						○			
	99772-4470-0	代かきセット 40延長	延長幅 左右各20cm	代かきセット Ⅰ(02)Ⅱ(02)Ⅲ(02)			○	○	○		⑫⑭	○⑫
	96272-2570-0	くし付整地 カバー12	標準整地幅128cm 延長整地幅208cm								⑫	○
	96272-2600-0	折りたたみ整地部	延長整地幅 左右各25cm		○	○	○	○	○	○		
	96313-3720-0	折りたたみ整地部	延長整地幅 左右各25cm								○	○
うねたて	96220-7550-0	4号 うねたて機	溝幅12cm 羽根長さ 85.4cm	うねたて金具 96220-7410-0 又は うねたて反転金具 99022-1772-0 (Vカットロータリのみ)	○	○	○	○	○	○	○	○
	96220-7560-0	5号 うねたて機	溝幅15cm 羽根長さ 86.5cm		○	○	○	○	○	○	○	○
	96220-7570-0	7号 うねたて機	溝幅21cm 羽根長さ92cm		○	○	○	○	○	○	○	○
	96220-7410-0	うねたて金具，アッシ			○	○	○	○	○	○	○	○
	96230-7150-0	片培土機アッシ	溝幅12cm		○	○	○	○	○	○	○	○
	99022-1770-0	うねたて反転金具アッシ	STV SCV 仕様用		○	○	○	○				○

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応ロータリ							
					RSP105	RSP115	RSP125	RSP135	RSP155	RSP165	RKP105	RKP125
マルチ・整形板	96280-3504-0	平うねマルチアッシ（ヒッチなし）	プラウ爪，リヤカバーなし うね幅 70～125cm うね高さ 15cm フィルム幅 90～150cm	•前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 または B_1-15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 •高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-0	○	○	○	○	○		○	○
	96280-5504-0	平高うねマルチアッシ（ヒッチなし）	プラウ爪，リヤカバーなし うね幅 80～120cm うね高さ 15～30cm フィルム幅 110～150cm		○	○	○	○	○		○	○
	96280-2504-0	高うねマルチアッシ（ヒッチなし）	プラウ爪3対付，リヤカバーなし うね幅 55～76cm うね高さ 33～38cm フィルム幅 110～135cm	•前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 または B_1-15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 •高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-0	○	○	○	○	○		○	○
	98619-0771-0	2畦マルチアッシ（ヒッチ付）	プラウ爪，リヤカバーなし うね幅 47～50cm うね高さ 27～30cm うね間隔 75～90cm フィルム幅 95～110cm					○	○			○
	96280-5210-0	汎用平高うねマルチ（ヒッチなし）	プラウ爪なし， リヤカバー付 フィルム幅 95～180cm		○	○	○	○	○		○	○
	96280-5505-0	平高うね整形板（ヒッチなし）	プラウ爪， リヤカバーなし	•前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 または B_1-15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 •高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-0	○	○	○	○	○		○	○
	96280-2352-0	高うね整形板アッシ（ヒッチなし）	プラウ爪3対付，リヤカバーなし うね幅 55～76cm うね高さ 33～38cm	•前部ウエイト本体アッシ 96315-1051-0 または B_1-15バンパーウエイトアッシ 96315-1540-0 •高うねマルチ用ヒッチ 96280-2351-0	○	○	○	○	○		○	○

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応ロータリ							
					RSP105	RSP115	RSP125	RSP135	RSP155	RSP165	RKP105	RKP125
マルチ・整形板		2畦整形板（ヒッチなし）	プラウ爪,リヤカバーなし うね幅 47～50cm うね高さ 27～30cm うね間隔 75～90cm		○	○	○	○	○		○	○
		汎用平高うね整形板	プラウ爪なし， リヤカバー付		○	○	○	○	○		○	○
		高うねマルチ用ヒッチ			○	○	○	○	○		○	○
		2畦マルチ用ヒッチ			○	○	○	○	○		○	○
		マルチセンタ用ヒッチ			○	○	○	○	○		○	○
	96198-0811-0	プラウ爪(右)			○	○	○	○	○		○	○
	96198-0812-0	プラウ爪(左)			○	○	○	○	○		○	○

Ⓦ2：**“200延長爪軸アッシ”**装着時を示します。
Ⓦ4：**“400延長爪軸アッシ”**装着時を示します。
○印下の数字は1台分の個数を示します。

アタッチメントの装着により前後バランスが悪くなった場合，下記ウエイトを装着してください。

品名	重量(kg)	品番
前部ウエイト本体アッシ	25	96315-1051-0
B1-15バンパーウエイトアッシ	40	96315-1540-0
B1600DT前輪ウエイトアッシ※	36	96312-2840-0

※下記取付用ボルト，ナット，バネザガネが必要です。
ボルト (M12)01173-51255 6コ
ナット (M12)02174-50120 6コ
バネザガネ(M12)04512-50120 6コ

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成4年6月30日
生物系特定産業技術研究推進機構

型式名：クボタ SE-A155

合格番号：９２００９

種　　類：安全フレーム（２柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪市浪速区敷津東１丁目
２番47号

I　装着可能トラクター

1．型式名
クボタ A-195F　　クボタ A-195　　クボタ A-175F　　クボタ A-175
クボタ A-155

2．主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型　　式　　名		クボタ A-195F	クボタ A-155
■種　　類		４輪駆動	４輪駆動
■質量(フレーム付き)	kg	725	670
■軸　　距	mm	1350	1350
■機関出力／回転数	kW{PS}／rpm	14.0{19}／2650	11.8{16}／2650

II　構造の概要

1．構造及び装着法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，取付金具を介してトップリンクブラケット及びデフギヤケース部，後車軸ケース部にボルトで装着。
なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備
シートベルト（２点式）

3．主要寸法※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：	89.0 cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：	127.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		：	75.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	－ cm
■戸口の幅	(上部)	：	－ cm
	(中部)	：	－ cm
	(下部)	：	－ cm
■戸口の高さ	(フートプレートから)	：	－ cm
■最低位ステップの高さ	(フートプレートの高さ)	：	54.0 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	(屋根部材上面まで)	：	185.0 cm
■フレームの全幅		：	88.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	24.5 cm

※1．クボタ A-195F（タイヤサイズ：前輪6-12　後輪8.3-20）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：ユーシン，V026140-0000

4．主要材料
■主フレーム：STKR 400，SS 400
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S40C～S45C

III　検査成績

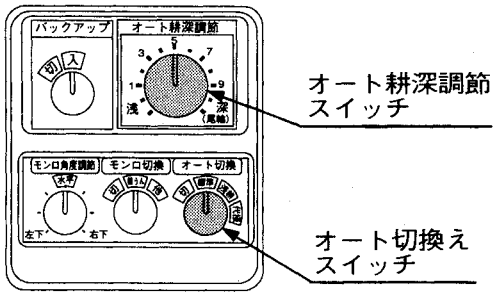
1．強度試験
1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。
■基準質量：750 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷 1.21 kJ{ 123 kgf･m}
側部負荷 2.16 kJ{ 220 kgf･m}
■圧壊力：11.03 kN{1125 kgf}
2）試験後のフレームの永久変位
■後部（前方へ）：右側　9.5 cm　左側　9.0 cm
■側部（右側方へ）：15.5 cm
■上部（下方へ）：右側　3.0 cm　左側　1.0 cm
3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：9.0 cm

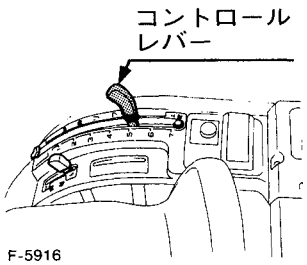
2．騒音※
■91 dBA〔クボタ A-195F〕　86.5 dBA〔クボタ A-155〕
※ 7.5km/h に近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

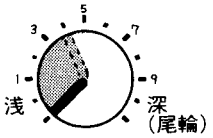
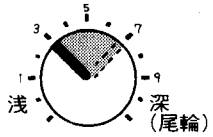
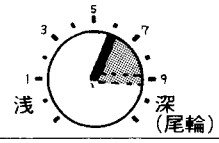
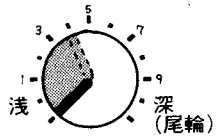
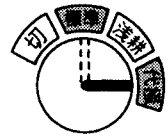
IV　付記

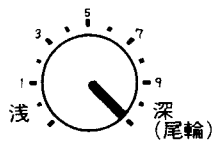
強度試験は，コードIIにより実施した。

作業ごとの一般的な調整要領

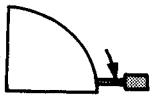
<table>
<tr><th rowspan="3">操作方法</th><th rowspan="3">作業内容</th><th colspan="3">操　作　調　整　箇　所</th></tr>
<tr><td colspan="2"> 

F-7307</td><td> 

F-5916</td></tr>
<tr><td>オート耕深調節スイッチ</td><td>オート切換えスイッチ</td><td>コントロールレバー</td></tr>
<tr><td rowspan="5">オート
【MA仕様】</td><td>浅起し
（5～8cm）</td><td> 
</td><td rowspan="3">
</td><td rowspan="3">
「最下位置」</td></tr>
<tr><td>一般耕うん
（8～15cm）</td><td> 
</td></tr>
<tr><td>深起し
（15cm以上）</td><td> 
</td></tr>
<tr><td>代かき（10～12cm）
一般ほ場</td><td rowspan="2"> 
</td><td rowspan="2"> 
</td><td rowspan="2">

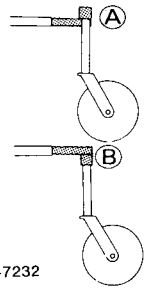
「希望耕深になる位置」</td></tr>
<tr><td>湿田ほ場</td></tr>
<tr><td rowspan="5">ポジション
コントロール</td><td>浅起し
（5～8cm）</td><td rowspan="5" colspan="2"> 

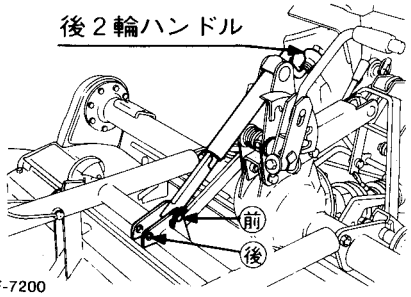
または

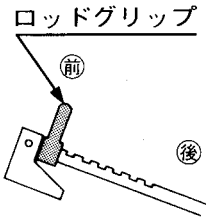
</td><td rowspan="5"> 
「最下位置」</td></tr>
<tr><td>一般耕うん
（8～15cm）</td></tr>
<tr><td>深起し
（15cm以上）</td></tr>
<tr><td>代かき（10～12cm）
一般湿田</td></tr>
<tr><td>畝立て</td></tr>
</table>

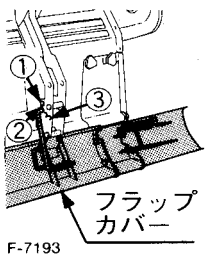
F-7307改　　F-7307改

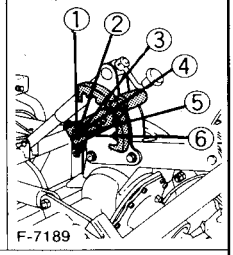
※主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。
土質など作業条件に合せて適宜調整してください。

<table>
<tr><th colspan="6">操　作　調　整　箇　所</th></tr>
<tr><td> 

F-7232</td><td colspan="2"> 

F-7200</td><td> 

F-7315</td><td>センタドライブ仕様
 

F-7193</td><td>サイドドライブ仕様
 

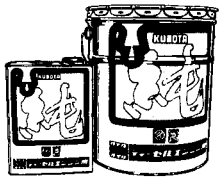
F-7189</td></tr>
<tr><td>後２輪上下調整</td><td>後２輪ネジ前後調整</td><td>後２輪ハンドル</td><td>ロッドグリップ</td><td colspan="2">フラップカバー</td></tr>
<tr><td rowspan="5">後２輪を
外します</td><td rowspan="6">㊫の位置
（より深起しをするときは㊪の位置）</td><td rowspan="5">――</td><td rowspan="5">前から１番目の溝にセット
（ロッドグリップのセット位置を後方に下げ，押付け力を強くすると，カバーの動きが悪くなり，オートが作動しにくくなります。）</td><td>③の位置</td><td>③ ④
(③～⑥)の位置</td></tr>
<tr><td>②の位置</td><td>②
(①～③)の位置</td></tr>
<tr><td>①の位置</td><td>①
(①～②)の位置</td></tr>
<tr><td>③又は②の位置</td><td rowspan="2">⑤ ⑥
(②～⑥)の位置</td></tr>
<tr><td>③の位置</td></tr>
<tr><td>Ⓑの位置</td><td rowspan="4">希望耕深になるよう調整</td><td rowspan="4">通常は前から１番目の溝にセット
（ロッドグリップのセット位置を後方に下げ，押付け力を強くすると，均平・整地に効果があります。）</td><td>③の位置</td><td>③ ④
(③～⑥)の位置</td></tr>
<tr><td>Ⓐの位置</td><td>②の位置</td><td>②
(①～③)の位置</td></tr>
<tr><td>Ⓑの位置</td><td>①の位置</td><td>①
(①～②)の位置</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>③の位置</td><td>⑤ ⑥
(②～⑥)の位置</td></tr>
<tr><td>後２輪を
外します</td><td>カバーを上げロッドグリップでセット</td><td>フラップカバーを外します</td><td>①～②の位置</td></tr>
</table>

オイルはクボタ純オイル をお使いください。

●オイルはトラクタの開発研究から生まれたクボタ純オイルをお使いください。

■エンジンには，

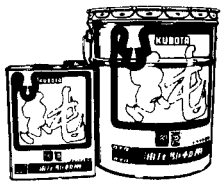
クボタ純オイル　D 30，又は
ディーゼルエンジン用　D 10W 30



Z-1002　4 ℓ　20 ℓ

■トラクタ本体には，

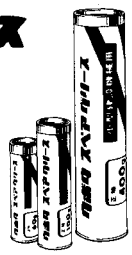
クボタ純オイル
ミッション用
UDT，又は
スーパーUDT



Z-1013　4 ℓ　20 ℓ

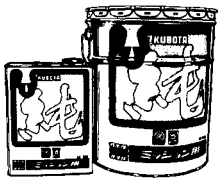
■グリースアップには，

クボタスペアグリース



Z-1005　60　100　400

■ロータリなどには，　M80B又は
クボタ純オイル　M90
ミッション用



Z-1004　4 ℓ　20 ℓ

いずれもクボタが品質保証する最も適したオイルです。
お買い求めは，販売店または農協へご用命ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後12年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

本社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)	662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011)	376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
株式会社クボタアグリ東北				
秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)	33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番 67955－6252－1

Kubota